

2026 年度 入学試験問題

一 般 入 試 前 期
〔 3 教科型 ・ 2 教科型 〕

2 月 1 日

第 3 限

国

語

〔 現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く） 〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 26 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 37 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本の伝統文化である武道は、厳しい鍛錬を重ね、他者や自分と正対する「勝負」を通じ礼節を身につけたり、その果てにある身体・精神の自由の獲得を目的としている。また「型」を非常に重視しその習得が必須とされるなど、初心者にはハードルの高い身体文化である。

一方、海外からやってきた野球は、武道に比べてすぐに面白さを感じやすい。剣道で素振りをしてもそれほど楽しくないが、野球はボールを投げたりバットで打ったりするだけですぐに楽しさを感じることもできる、ハードルの低い身体文化である。野球のこうした特性は、武道しか知らなかった明治の若者たちには極めて新鮮に感じられたことだろう。

日本の野球草創期の象徴的人物として平岡熙ひらおかひろしという人物がいる。平岡は徳川御三卿とくがわごさんきょうの一角・田安徳川家老の御曹司で、新政府の海外視察団の一員としてアメリカに渡り、ボストンやフィラデルフィアで当時の最新テクノロジーである鉄道技術を学んだ。平岡はアメリカ滞在時に現地の人たちとしばしば野球をプレーし、帰国後は工部省鉄道局（現在の国土交通省とJRグループの前身となる官庁）に技師（エンジニア）として就職した。そこで仲間たちと、アメリカから持ち帰ったボールとバットで野球をプレーするようになった。

平岡は1878年には東京・新橋停車場に初めて野球場を開設、クラブチーム「新橋アスレチック倶楽部くらぶ」をつくり、そこに慶應義塾けいおうや一高の学生たちも加わっていった。さらに平岡に影響されて田安德川家の当主・徳川達孝たかたかも野球チーム「ヘラクレス倶楽部」を創設、慶應義塾のすぐそばの東京・三田綱町みつたなづまちに運動場をつくり、新橋アスレチック倶楽部と対戦していた。

俳句を革新した文学者の正岡子規あまざわかきもまた、1880年代後半に一高に在学し、野球にのめり込んだ一人だった。子規は野球をテーマにした次のような俳句も残している。

I
「1890年」

「夏草やベースボールの人遠し」（1898年）

ここで確認したいのは、子規の俳句からは、のちの「魂の野球」の面影などまったく感じられないということだ。子規は他の運動には興味を示さなかったがベースボールには熱中して、ガゴウ（ペンネーム）に「野球（の・ぼー）と読む。子規の幼名が「升^{のぼる}」だったことに由来」を用いたりもした。

つまり草創期の日本のベースボールは、アメリカ帰りの最先端エンジニア、徳川家、慶應義塾生などのいわば「港区男子」による **II** であり、子規が「一句詠んじやう」ぐらいのオシャレカルチャーだったのである。新橋アスレチック倶楽部はやがて解散してしまうが、のちに彼らが使っていた用具は慶應義塾に受け継がれ、「エンジョイ・ベースボール」として日本野球の地下水脈で密かに流れ続けていた。それが150年の時を経て突然噴出したのが、2023年夏の慶應高の甲子園制覇だった、と解釈することもできる。

では、最初期に港区男子的な「エンジョイ・ベースボール」だったものが、なぜ「魂の野球」へと変質していったのだろうか。そこには、平岡、徳川家、慶應義塾とはやや違う経路を辿^{たど}って野球文化の主流となった一高の存在があった。

一高が学校としての形をほぼ確立したのは1890年のことである。このとき校地が現在の東京・本郷にある東大弥生キャンパスの地に定まり、寄宿舎も整備された。

初期の一高ではスポーツが非常に生まれ、さまざまな場所で自然発生的に同好会が立ち上がっていた。特に寄宿舎完成以降はベースボールが人気を集めるようになり、校内ではノックが熱気を運び、昼休みにはキャッチボールと試合が行われ、それを守る者たちが応援団の起源となる集団を形成していった。

一高は超エリート校であるため学生にも欧米のカルチャーに関心のある者が多かったが、同時に士族出身者の割合が高く武道などの身体鍛錬にも親しんでいたため、「欧米×運動」の要素を兼ね備えた野球が最も一高生らしいアクティビティだと捉えられたのだろう。

こうして一高生たちのあいだでベースボールが盛り上がりつつ、校内の優秀な選手を集めたオールスターチームを結成して他校と対戦させ、学生みなで楽しもうということで、一高にベースボール部が誕生した。

寄宿舎が整備された直後の1890年5月、一高ベースボール部は自校グラウンドで明治学院の「白金倶楽部」に大差をつけられて負けている状況で、学生の応援のためにやってきた明治学院のアメリカ人教師ウィリアム・インブリーに対し一高生たちが暴行を加えるという、「インブリー事件」が起こった。

この事件で在日外国人たちは激怒し、外務省も国際問題化を恐れたため、一高生たちは謝罪に追い込まれた。校内では一高ベースボール部が弱いせいでこんなことになったという声が高まり、ベースボール部員たちは「校名を汚さないため」に猛練習に打ち込むようになり、雪辱戦で明治学院を破ることに成功した。

当時の日本でこの運動をブレイクした人々の大多数の感覚が「エンジョイ勢」であったなか、学校の名譽をかけて猛練習をする一高ベースボール部だけが「ガチ勢」となったため、対外試合で連戦連勝の「無双」をするようになる。一高ベースボール部は「もはや国内に敵なし」ということでさらに波に乗り、1896年には横浜にキョリユウしていた外国人たちのチーム「横浜外人倶楽部」に対戦を挑み、ここでも大勝を果たした。この試合は実態としては「大学の野球サークルと駐在外国人の草野球の試合」だったが、新聞の一面で「我が学生の大勝利」として報道されたことで世間の注目を集め、これが大きなきっかけとなって中学生以下の世代で、野球という舶来のスポーツへの関心が高まった。ところが世紀転換期を境に一高野球部は早稲田、慶應に連敗し、以後その栄光に陰りが出始めていくのである。

この時期はちょうど、近代日本が日清戦争、日露戦争という二つの大きな戦争をしていった時期と重なる。一高のキャンパスカルチャーと野球の展開において、以後の日本の野球文化、ひいては日本の文化空間全般を考える上で非常に興味深い出来事がいくつも起きている。以降は、「一高と野球」の関係が、日本の文化空間にどのような影響を与えたのかを論じていきたい。

まず、1890年に起きたインブリー事件は現代の感覚からすると相当に「？」な事件である。なぜ、明治学院のアメリカ人教師インブリーは一高生たちの襲撃を受けたのか。ひとつには「籠城主義」という一高独特のキャンパスカルチャーがあった。

一高は前述のように、近代日本の文化形成に少なくない影響を及ぼしている。たとえば、昭和初期に大ヒットした『あゝ玉杯に花うけて』（作・佐藤紅緑）という小説がある。貧しい少年がライバルとの野球対決などを通じて成長し、やがて一高に合格するという物語で、後年の『巨人の星』のプロトタイプともいえる作品である。

この小説のタイトルは、一高の有名な寮歌である『嗚呼玉杯』に由来している。旧制高校生たちはしばしば市中で寮歌を歌い、自分たちがエリートであることを誇示するとともに、仲間たちとの青春の連帯感を確認しようとしていた。その『嗚呼玉杯』の歌詞は、次のようなものだ。

嗚呼玉杯に花うけて

緑酒に月の影やどし

治安の夢に耽りたる

栄華の巷低く見て

向ヶ丘にそそりたつ

五寮の健児意気高し

注意したいのは、この歌で「嗚呼玉杯に花うけて」酒盛りをしているのは一高生ではない、ということだ。日本は1902年、当時経済的にも軍事的にも世界一の大国だったイギリスと日英同盟を締結することに成功したが、そのニュースに「これだ日本も一等国の仲間入りだ」などと浮かれ、上野・浅草周辺の繁華街で酒盛りをしている庶民たち（Ⅲ）が主語である。一方、そうした上野・浅草などを見下ろす丘の上（Ⅳ）、現在の東京大学弥生キャンパスのこと）に「そそりた」っているのが、一高生たち（Ⅴ）だ。

1890年3月、一高校長・木下廣次により、一高のキャンパスがある向ヶ丘に寄宿舎が整備された。木下は、日本各地から

集まってきた国家エリートの一高生たちが、下宿などをして東京の庶民と交遊し、世間の退廃的な文化に触れてダラクするのを危惧しており、学生全員を寄宿舎に入寮させることにした。

ただ、学校当局が寮を厳格に管理するのではなく学生たちの自治に任せることとし、それまで学生たちが自発的に作ってきた運動部、弁論部、雑誌部などを統合するかたちで学校公認の全学的組織「校友会」を組織させた。寮での濃密な人間関係をもとにストイックに学友たちと交流し、人格を陶冶していくことを求めたのだ。

これが、一高独特のキャンパスカルチャー「籠城主義」である。つまり『嗚呼玉杯』は、俗世の誘惑を断ち切り、丘の上で学友たちと哲学的議論を侃々諤々と交わし

VI

しているという、一高生たちのアイデンティティを表現した歌なのだ。

- i それを見咎めた一高生たちが無礼だと激怒し、暴行に及んだのである。
- ii 籠城主義の価値観では校内は聖地、校外は汚濁の地であるので、学校に入ってくるには必ず正門を通らなければいけない、ということになっていた。
- iii 何もそこまでしなくても……と思うが、それぐらい一高生たちは籠城主義を真面目なまでに遵守していた。
- iv ところがインブリー事件の際、インブリーは単に試合を早く観戦したいがために正門を通らずに生け垣を越えてグラウンドに入ってしまった。

また、この事件が起こった1890年は、明治維新の見直しが始まった時期でもある。明治維新当初、政府は日本の伝統を積極的に打ち捨て、急速な欧化政策を進めた。男性たちは丁髷を切り落とし散髪することをシヨウレイされ散髪令、1871年)、刀を持ち歩くことも禁止された(廃刀令、1876年)。さらに、明治初年にはそれまで曖昧に共存していた神社と寺が政府によって分離される(神仏分離令、1868年)という動きも見られた。

しかし、こうした急激な欧化政策への反発が1880年代に高まり、1890年を境に「日本の伝統文化を大切にしよう」と

いうムーブメントが盛り上がりを見せた。特にこの時期、教育勅語の発布(1890年)によって天皇を中心とする道徳観が強化されるなど、伝統的な価値観への回帰が促された。また、前述のとおり、一高生には士族出身者が多かったこともあり、幕末の「尊王攘夷」的な気風が復活しつつあったのかもしれない。

インブリー事件は、舶来のスポートであるベースボールを学生たちが楽しむことがそもそも国粹主義的な価値観とは相反するという、矛盾した状況があらわになった出来事だった。だからこそ一高のベースボール部員たちは、こうした矛盾を合理化する必要に迫られたのである。

(中野慧『文化系のための野球入門』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *一高……………第一高等学校。旧制高校(現在の六・三・三・四年制以前に設置された高等学校)の一つ。1949年に新制東京大学の教養学部に統合。

「港区男子」……………高級住宅地とされる東京都港区周辺に集住する、高収入、高学歴、あるいは上流階級の男性の俗称。

『巨人の星』……………1966年と1971年に発表された漫画作品。父親から野球の英才教育を受けた少年が成長して読売ジャイアンツに入団、ライバルたちと戦う野球漫画。

陶冶……………人の性質や能力を円満に育て上げること。

問一 傍線部 a ～ d と同一の漢字を使うものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a b c d

a ガ|ゴウ

- ① ジガ|自賛
 ② ユウガ|な振る舞い
 ③ シガ|にもかけない
 ④ キガ|に苦しむ人々
 ⑤ ネンガ|ジョウを出す

b キヨ|リュウ

- ① キヨ|ゲンヘキがある人
 ② 賛成のキヨ|シユを求める
 ③ キヨ|ジュウ空間
 ④ 申し出をキヨ|ゼツする
 ⑤ キヨ|ヨウ範囲を超える

c ダ|ラク

- ① ダ|テンシの物語
 ② ダ|キすべき存在
 ③ ダ|セイで日を送る
 ④ ダ|キョウの余地がない
 ⑤ ダ|サクだと酷評される

d ショウ|レイ

- ① ショウ|ウグン様に仕える
 ② ショウ|ウシンをいやす
 ③ ショウ|ウドウにかられる
 ④ ショウ|メイ器具
 ⑤ ショウ|ガクキンを返済する

問二 傍線部 A 「正岡子規」の作品として最も適当なものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。

- ① 寒山落木
 ② 吾輩は猫である
 ③ みだれ髪
 ④ たけくらべ
 ⑤ 一握の砂

問三 空欄 I に入る俳句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

- ① 糸瓜咲て痰たんのつまりし仏かな
- ② 柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺
- ③ いくたびも雪の深さを尋ねけり
- ④ 春風やまりを投げたき草の原
- ⑤ 故郷やどちらを見ても山笑ふ

問四 空欄 II に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 余興
- ② 発明
- ③ 道楽
- ④ 特技
- ⑤ 副業

問五 傍線部 B 「150年の時を経て突然噴出したのが、2023年夏の慶應高の甲子園制覇だった、と解釈することもできる」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

8

- ① 精神と身体の自由という野球にも武道にも共通する自然体の姿勢が、長く受け継がれてきたということ。
- ② 野球が本来持っていた気軽に楽しさを感じやすいという特性が、長く受け継がれてきたということ。
- ③ 当時は貴重だった野球をするための用具や資本が、長く受け継がれてきたということ。
- ④ 勝敗にこだわることなく野球を楽しむという富裕層の姿勢が、長く受け継がれてきたということ。
- ⑤ 「型」にとわられず自由に楽しむという野球本来のありかたが、長く受け継がれてきたということ。

問六 傍線部C「野球文化の主流となった一高の存在があった」とあるが、一高の野球文化の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 一高開学当初より、その野球文化のありようは「エンジョイ・ベースボール」とは一線を画すものであった。
- ② 初期の一高では自然発生的にスポーツを楽しむ学生があらわれ、その中でも野球は最も人気があった。
- ③ エリートにして土族出身者の多い一高では、欧米的で、かつ武道のように身体鍛錬要素を備えた野球が好まれた。
- ④ 野球人気が一高生のあいだで盛り上がり、オールスターチームができると、それを応援する応援団も生まれた。
- ⑤ 野球を楽しむ一高生たちはスポーツに打ち込むばかりでなく、正岡子規のように文武両道を目指した。

問七 傍線部D「籠城主義」についての説明として誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① エリートであることを自覚させるとともに、仲間たちとの青春の連帯感を確認させることとなった。
- ② 「インブリー事件」の背景にはこの考え方があるが、現代の感覚からすると理解しがたい部分もある。
- ③ 自治を一高生たちに任せることで人格の陶冶が目指され、かつ仲間たちの濃密な人間関係をもたらした。
- ④ 「尊王攘夷」的な気風といった国粋主義的な考え方と一脈通じるものとして、積極的に取り入れられた。
- ⑤ 一高生たちが庶民と交遊することで、世間の退廃的な文化や誘惑に触れることを防ぐ役割を担った。

問八 空欄Ⅲ、Ⅳ、Ⅴに入ることはとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ
(同一選択肢の反復使用は不可)。

- ① 玉杯
- ② 緑酒
- ③ 治安の夢
- ④ 栄華の巷
- ⑤ 向ヶ丘
- ⑥ 五寮の健児

Ⅲ 11

Ⅳ 12

Ⅴ 13

10

9

問九 空欄 VI に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 切磋琢磨 せつさたくま ② 暗中模索 ③ 百花繚乱 ひゃっかりょうらん ④ 有言実行 ⑤ 一喜一憂

14

問十 問題文中の i、iv の文をもとの順番に並び替えたものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。

- | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| ① i ↓ ii ↓ iv ↓ iii | ② i ↓ iii ↓ ii ↓ iv | ③ ii ↓ i ↓ iii ↓ iv | ④ ii ↓ iv ↓ i ↓ iii |
| ⑤ iii ↓ ii ↓ i ↓ iv | ⑥ iii ↓ iv ↓ i ↓ ii | ⑦ iv ↓ i ↓ iii ↓ ii | ⑧ iv ↓ ii ↓ i ↓ iii |

15

問十一 傍線部 E 「一高のベースボール部員たちは、こうした矛盾を合理化する必要に迫られたのである」とあるが、具体的にどのようなことを行ったのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

16

- ① 野球場で母校に対して無礼な振る舞いをした外国人に、思わず暴力を働いた。
- ② 排外主義的な流れがある中で、母校の名誉をかけて野球の練習に打ち込んだ。
- ③ 急激に進む欧化政策への反発が激しい中で、舶来の野球の存在価値を伝えようとした。
- ④ 野球の練習に打ち込む中で、武士道にもかなうような人格の陶冶の実現を目指した。
- ⑤ 「尊王攘夷」的な気風が復活する中で、野球が本来持っている愛国的な性質を追求した。

問十二 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

17

- ① 明治新政府は海外視察団をアメリカに派遣し、欧化政策の一つとして最新のテクノロジーとともに野球を日本に導入することとなった。
- ② 日本野球の草創期において野球に携わった人々は今日で言うところの「港区男子」だが、彼らの手によって野球は国民的なスポーツとなった。
- ③ 一高と明治学院の野球の試合において、外国人教師の応援に激怒した一高生がいるように、当時は国粹主義的な雰囲気があった。
- ④ 実態としては草野球に過ぎない一高ベースボール部と外国人チームの試合が報道されることで、若い世代を中心に野球に関心が高まった。
- ⑤ 日清・日露戦争と野球が世の中で人気を集めていく時期はほぼ同時期だが、戦時中という時節柄、野球には厳しい目もまた向けられた。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

《京都の下御霊神社では、旧暦五月一日の祈禱の日、人々が大勢参拝に集まっていた。》

五月朔日は、祈禱の日なりとて、諸社に御神楽・御湯など参らす事、古へよりこの方、是あり。下御霊にも、御湯参らせ、貴賤老若集ひ集まりて、拝み奉る。その時しも、地震おびただしく揺り出でしかば、諸人、肝を消し、拜殿にのぼり居たるは崩れ落ち、地下なる者は、走り出でんとす。混み合ひ、揉み合ふて、泣き叫び、呼ばひどよむ。その中に、年のころ七八歳にもやなるべきと見ゆる、男子二人、逃げ出づべき方角を失ひ、心消え、魂うろたへて、せんかたなく、恐れもだえ石灯籠に抱きつきし所に、やがてかの石灯籠揺り傾きて、打ち倒れしかば、二人の子どもはこれに打ちひしがれ、頭より手足に至るまで、続々として、切れ切れになりて死にけるこそ

I

「是はそもいかなる人の子ともなるらん」と、諸人、恐ろしき中にも哀れに思ひて、言ひのしる。しばらくありて、子どもの親走り来たり。その顔かたちは、ひしげて見えねども、血に染めかへりし着る物は、まがふ所なくぞなりければ、母も気をうしなひ、父も声をあげて、ただ泣きに泣きけれども、かひなし。「さても夢かよ夢かよ」とて、ちぎれたる屍をとりあつめ、涙とともに俵に入れ、人して持たせて、家路に立ち帰る。ふたりの親の心の内、思ひはかるべし。その身、先の世の報いとはいひながら、病に伏して死にもせば、せめては思ひもうすかるべきにや。これは思ひもかけざりし、いらけなき最期のありさま、他所の袂も濡れ侍り。

後に聞きければ、御霊近きあたりの者にて、一人は琴屋、一人は鞠屋の子にて侍りし。けがれたる火をくひて、親にも知らせず、この御社に参り、御湯参らすを拝まむとせしが、神の御とがめにて、かかる事にあひ侍りけるとかや。

(『かなめいし』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変している。)

問一 傍線部 a ～ e のうち、動詞の「なり」はどれか。次の ① ～ ⑤ のうちから最も適当なものを一つ選べ。

- ① a
- ② b
- ③ c
- ④ d
- ⑤ e

18

問二 傍線部 A 「逃げ出づべき方を失ひ」とあるが、このようになった理由として誤っているものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。

- ① 建物が崩れ、足の踏み場がなくなったから。
- ② その場には多くの人々が居合わせたから。
- ③ 参拝客が騒ぎ立て、混乱したから。
- ④ 人々がその場から逃げ出そうとしたから。
- ⑤ 子どもたちも急な地震に動揺したから。

19

問三

空欄

I

に入る語として最も適当なものを、次の ① ～ ⑥ のうちから一つ選べ。

- ① むなしかれ
- ② むなしけれ
- ③ かなしかれ
- ④ かなしけれ
- ⑤ わびしかれ
- ⑥ わびしけれ

20

問四 傍線部B「ののしる」、C「かひなし」の、問題文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つ選べ。

- | | | | |
|---|-----------|---|----------------------------|
| B | ののしる | C | かひなし |
| ① | 激しく非難する | ① | 取るに足りない |
| ② | ひどい悪口を言う | ② | やるせない |
| ③ | 大げさに言い立てる | ③ | 不甲斐ない
<small>ふが</small> |
| ④ | 大きな物音を立てる | ④ | 意味がない |
| ⑤ | 声高に物言う | ⑤ | 余念がない |

B 21
C 22

問五 傍線部D「せめては思ひもうすかるべきにや」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① 仕方がないと割り切ることもできただろう。
- ② 仕方がないと割り切ることができたはずがないだろう。
- ③ 仕方がないと割り切ることができたろうか、いや、できなかっただろう。
- ④ 仕方がないと割り切ることもできなかっただろう。
- ⑤ 仕方がないと割り切ることができなかつたはずがないだろう。
- ⑥ 仕方がないと割り切ることができなかつただろうか、いや、できただろう。

23

問六 傍線部E「他所の袂も濡れ侍り」とあるが、これは何に濡れたのか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 御湯
- ② 血
- ③ 泥
- ④ 雨
- ⑤ 涙

24

問七 傍線部F「御湯参らするを拝まむとせしが」を品詞分解したとき、最も適当な組み合わせになるものを、次の①～⑤から一つ選べ。

- ① 名詞＋動詞＋補助動詞＋助詞＋動詞＋助詞＋動詞＋助詞＋動詞＋助詞
- ② 名詞＋動詞＋助動詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋助詞＋動詞＋補助動詞＋助詞
- ③ 名詞＋動詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋助詞
- ④ 名詞＋動詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋助詞＋補助動詞＋助詞
- ⑤ 名詞＋動詞＋補助動詞＋助詞＋助動詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋助詞

問八 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 各神社では、古くから五月朔日に御湯や神楽が催されていたが、下御霊神社で始まったのは最近だった。
- ② 子どもたちは石灯笼にいたずらをして、下敷きとなり亡くなった。
- ③ 子どもの親は、子どもの遺体を確認すると俵に入れ、手ずから運んで帰った。
- ④ 子どもたちは親に行先も告げずに遠くの神社に行ったため、身元の確認が遅れた。
- ⑤ 子どもたちは、けがれたものを食べて下御霊神社に参詣したため、神の怒りを買った。

問九 「かなめいし」は江戸時代に書かれた作品である。これと同じ時代の作品を、次の①～⑤から一つ選べ。

- ① 十六夜日記
- ② 去来抄
- ③ たまきはる
- ④ 土佐日記
- ⑤ 更級日記

25

26

27

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

学生たちからの授業の感想としても、そして企業研修の質疑応答の時間でも、決まって言われることがあります。それは「LGBTQ」とか特定のカテゴリーについて考えるのは「差別」なのではないだろうか、という素朴な問いです。「LGBTQ」を対象に施策を打つのは「差別」なんじゃないか、あるいはSNS上などではそういう施策は「逆差別」ではないか、といったことまで言われています。一方、自分がBL(ボーイズラブ)を好きなことは、異性愛ではないところに面白みを感じるという意味で「差別」的なのではないだろうか、と悩む人もいますようです。「ア」

こういう話を聞くと、同じように対応することだけが差別をしないことではない、ということ声を大にして言いたくなりません。

例えば、カミングアウトしていないLGBTQと、LGBTQではない人が、最近のプライベートにおける感動的な出来事について、できるだけ詳細に語る競争を行ったとします。すると、当然に、LGBTQではない人のほうが有利になります。LGBTQの人は、カミングアウトのリスクを恐れて、自分のプライベートについて語ることに制約が出てしまうためです。

もちろん、LGBTQの中には制約をもとめせず、^な類い稀^{まれ}な頭の回転と、ストーリーテリングで、一番を取る人もいることでしょう。しかし、I 的に見れば、話す内容(多くの場合中心的テーマ)に制約のある人とならない人とは、有意に差が出ることは明らかではないでしょうか。「イ」

いわゆる「ポジティブアクション」と呼ばれる取り組みはもちろんですが、「間接差別」についても「^C実質的に差別となるルール」という、ルール自体の歪^{ゆが}みをあぶりだす仕組みと言えます。ポジティブアクションや間接差別というような枠組みでなくとも、そもそも労働法自体が、強い権限を持つ使用者に対して、力の弱い労働者という力関係を踏まえ、民法をそのまま適用するべきではなく、力の強弱を踏まえた特別法としての労働法が必要だという見地から制定された法制度となっているはず

当たり前になりすぎていて、今さら「最低賃金」や「有給休暇」制度などに疑問を呈する人は少ないように思いますが、比較的最近知られるようになったLGBTQの課題や「男女平等」の課題についても、同じように対応しなければおかしいという声が出てきてしまうようです。すべてを同じように扱うとどうなってしまうのかを、もう少し考えてみてもよいかもしれません（もちろん、労働法などがそうであるように、「制度」や「集団」ではなく個々人に対して、「この人は好きだから優遇」「この人は嫌いだから冷遇」ということになると話はずってききます。それはレベルの違う話です。あくまで

I

的に、ある「集団」が不利になることが明らかである場合には、一律に同じ対応ではいけないということとなります。

LGBTQの文脈でも「何も気にしない」ことが組織対応上の問題となる場合があります。個々人のレベルだけでなく、私的、公的を問わずサービス提供の場面などでも見られますし、「何も気にしない」が「失敗」につながっている例が見受けられます。

最近、LGBTQの対応について、企業、役所を問わず、いろいろなところで耳にするのが、「うちはきちんと同じように対応しているので大丈夫ですよ」という声です。その後に「実際にそういう性的マイノリティの方に対応した事例もあるんで」「どちらかといえば良い対応ができたかと思っています」などと続く場合もあります。

実際に、福祉関係の窓口でトランスジェンダーの当事者に「良い対応」をしたという人から事例を聞いたことがあるのですが、カミングアウトや性別適合手術などといった当事者の生活における重要なポイントの認識がズレていたり、「性的マイノリティであったがゆえの生活の混乱」とか、それが「周囲の人に与えた影響」などについてわざわざ言及するなど、むしろ差別や偏見があるのでは？　と思わされる発言もありました。（ウ）

例えば、同性パートナーと遠距離で生活しているが、ケースワーカーにカミングアウトできていない／していない場合、「友人」に会いに行く交通費が高^{かき}んでいることについてどう判断すべきかなどがあがっています。パートナーとの関係性など個別のケースによりますが、法的に「家族」ならば遠方であっても行ってよいのに、長年連れ添ったが法的に家族ではないパートナーは会いに行くのが難しいと判断されたらどうでしょうか？　当事者としては、一般的に性的マイノリティに対する嫌悪感が高い

とされる家族との仲が険悪なのに、パートナーではなくその家族に会いに行くように勧められたらどう感じるでしょうか？他にも、ホルモン療法を受けるトランスジェンダーに対して、よく知らずにホルモン療法は「無駄遣い」と断じて治療を中断させてしまうと、心身の体調を崩し、希死念慮が高まるなど、かえって自立の阻害要因につながる懸念があることなどが紹介されています。

福祉関係の窓口の事例に限らず、一次対応を行う担当者が、課題やその構造を把握していないからこそ、窓口に行くこと自体を **II** してしまう、あるいは話せないといった事例は、性的マイノリティやジェンダーに関わる課題のさまざまな場面で見られます。

当事者を取り巻く環境について **III** 的に捉えてしまうと、その環境の大変さを見誤ったり軽視したり、あるいはその環境がどのような環境なのか全く分からなかったり、ということが起こります。あるいは、過剰に「個人」の問題として捉えてしまい、^D 個々人が「良かった」「悪かった」の問題に矮小化^{わいしょう}してしまう場合もあります。〔E〕

あるLGBTQについての講演で、思いやり「だけ」では解決しないことや、「何も気にしない」がなぜ問題であるかについて、カミングアウトやアウトティングに絡めながら話したことがありました。その講演の終了後に、こう言われたことがありません。

「「こちも別に飲み会で口説くわけじゃあないんだし、別に誰を好きでも関係ないんじゃない？」

講演では、「何も気にしない」ことに潜む問題についても話をしたつもりなのですが、どういうわけか、「だから特別なことは何もしなくていいじゃない」と脳内変換されてしまったようです。

その場では「カミングアウトすると差別やハラスメントの懸念があるから大変」などの説明を尽くし、だから日常会話にも困難があることを改めて話しました。すると、その人から最後に出てきたのは「でも確かに、（カミングアウトできないことを背景に）嘘^{うそ}を吐かれるのは困るなあ。いろいろ考えてみます」という一言でした。

結局自分がどう関わり、どう不利益を被らないようにするか、ということにしか興味がないのかと、ちょっと落胆したのです。

が、これは「自分ごと」にならない限りはどうでもいい、ということかもしれません。その人が個人的に「嘘を吐かれるのは困る」というのであれば、ぜひその先にまで掘り下げてもらえればと期待するところです。

他方で、その人の場合、特に課題を感じるのは、「たいしたことないから大丈夫じゃない？」という安易さを感じさせるところです。こういう反応がくると、「本当にその大変さが分かっている」「大丈夫」だと言っていますか？「適当に」「大丈夫」だと言っていますか？」と突っ込んでみたくありません。

相手の置かれている状況を的確に把握し、アドバイスするというのは、なにもこの課題に限りません。丁寧に課題に向き合おうとすれば、専門職でなくても、必要不可欠なことのはずです。逆に言えば、「たいしたことないから大丈夫」というのは、丁寧に課題に向き合う気がない、ということの表明にも思えてしまいます。つまり「なんか面倒くさそうだから、とりあえず大丈夫って言うところ」みたいな感じでしょうか。

とはいえ、答えの見えない謎解きに、みんながみんなチャレンジできるかといえは、必ずしもそうではないのかもしれませんが。だからこそ答えが見えない「なんか面倒くさそう」なことに挑むよりも、「たいしたことないから大丈夫」となってしまうことは、致し方ないとは言いたくありませんが、そうなる人がいることは分からなくてもありません。

思いやり「だけ」にとどまってしまうのも、もしかしたら似たような構造なのかもしれません。思いやり以上に何をすればよいかということが必ずしも明らかでなく、そのモヤモヤした謎解きにまで突入したくないので、「思いやり」と述べるにとどまるのかもしれませんが。^E「オ」

こういう安易な結論に至らないようにするためには、私たち施策を推進する側としてもひと工夫が必要になります。

このような時、誰でも一定程度対応できる「施策」というものが登場するのではないのでしょうか。マニュアル化された対応、トラブルに対する規定や制度などは、全員がその課題のスペシャリストでなくとも、ある程度の水準の対応をする上で不可欠なものであるはずです。加えて今回紹介したケースのように、関心が深まるよう、その人にとって「利益」になることを示すのも、注意は必要ですが、効果があることなのでしょう。

(神谷悠一^{かみやゆういち})『差別は思いやりでは解決しない』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。

〔注〕

*LGBTQ……………レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(出生時に割り当てられた性別と自分が認識する性別が一致しない人)、クィア(多様な性的少数者)およびクエスチョニング(固定的な性の枠組みに属さない人)を表す総称。

*BL……………男性同士の恋愛を主題とするフィクション作品。主に女性の読者を想定したものを指す。

*カミングアウト……………特にLGBTQについて、自分の性自認や性的指向を周りの人に公表すること。

*ポジティブアクション……………社会的な差別のために不利益を受けている人が社会参画する機会を確保することで、平等を実現していく足がかりとするため、一時的に特別制度を採用すること。議員や会社役員の中で女性や民族的マイノリティが一定の割合になることを定めるクォータ制などがある。

*ケースワーカー……………日常生活に様々な困難を抱えている人の支援をするために、公的機関で働く専門職。問題文では、ケースワーカーが役所の窓口で生活保護の相談を受ける際に、相談者がLGBTQ当事者であつた場合について述べられている。

*希死念慮……………自ら命を絶つてしまいたいという気持ち。

*アウトティング……………ある人のマイノリティ属性について、当事者の了承なく他人が公表し、言いふらすこと。重大な人権侵害とされている。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

このように、置かれた状況が違うにもかかわらず、同じルールを適用したり、同じ競争に放り出すことは、必ずしも社会的公正とは言い難いものであり、近年このような状況を問う声のさらなる高まりが見られます。

- ① 「ア」 ② 「イ」 ③ 「ウ」 ④ 「エ」 ⑤ 「オ」

問二 傍線部A「素朴な問い」の本文での意味について、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 言葉にしにくい、ぼんやりとした疑問
② 柔軟な発想にもとづいた、斬新な疑問
③ 叱られることを恐れない、率直な疑問
④ 他人を傷つけてしまう、無遠慮な疑問
⑤ 深い考えにもとづかない、単純な疑問

問三 傍線部B「自分のプライベートについて語ることに制約が出てしまう」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

① LGBTQは、差別を受ける懸念からプライベートでの行動範囲が限られてしまいがちで、感動的な出来事と言われなくても思い当たりにくいから。

② LGBTQは、性的マイノリティであることが望まない形で明らかにならないよう細心の注意を払ってプライベートを語らなければならないから。

③ LGBTQは、対人関係に悩む人が多くストーリーテリングが巧みな人は少ないので、感動的な出来事があってもうまく話せないから。

④ LGBTQでない人は、自分のプライベートの話にLGBTQを傷つける内容があつて責められるのではないかと懸念し、制限をかけるから。

⑤ LGBTQでない人は、感動的な出来事としてLGBTQに「良い対応」ができた時のことを語れるが、LGBTQはそれができないから。

問四

空欄

I

III

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

I

31

III

32

(同一記号の反復使用は不可)

① 表層

② 感覚

③ 悲観

④ 統計

⑤ 分析

⑥ 徹底

問五 傍線部C「実質的に差別となるルール」とあるが、その例として誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

33

- ① 安い家賃で住める社宅が用意されているが、規則で申し込み可能な職種が限定されており、その職種に就いているのは男性ばかりなので、事実上、性別によって利用できる福利厚生に差がついている。
- ② 社員募集にあたって、実際には引越しが必要な長期の転勤がないのに「全国転勤可能」を要件とすることで、知らない土地で出産・子育てすることを不安に思う女性などが応募しにくくなっている。
- ③ キャラクター着ぐるみを使う広報の仕事で、着ぐるみの大きさの都合で身長の高い人が中に入らないと動かしにくいという理由から、男性だけが満たせる体格要件をスタッフ募集要項に書いている。
- ④ 建設関係など男性労働者が多くを占める勤務環境で、女性用のトイレの数が少なすぎる、更衣室が設置されないなどの働きづらい条件がそのままにされ、女性の離職につながりやすくなっている。
- ⑤ 昇進の条件として、仕事の能力とは別に一定の勤続年数を定めており、出産休暇・育児休業・介護休暇などでキャリアに空白がでやすい立場の人ほど昇進が遅れ、給与水準も低い傾向になる。

問六 空欄

II

に入ることをばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

34

- ① 秘匿
- ② 禁止
- ③ 軽蔑
- ④ 失念
- ⑤ 忌避
- ⑥ 推進

問七 傍線部D「個々人が「良かった」「悪かった」の問題に矮小化してしまう」とはどういうことか。その説明として最も適当

なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

35

- ① 窓口で相談にのるケースワーカー個人が、親身で良い対応ができる人か、知識不足で悪い対応しかできない人かという能力の問題として捉えてしまい、他の職員とノウハウを共有することにつながらないということ。
- ② パートナーや家族と良好な関係が築けているかどうかについて、LGBTQの人の個人的なコミュニケーション能力に左右されることと見なして、本人の努力不足なのではないかと責任を問うてしまうということ。
- ③ ホルモン療法を中断することで起きる心身への影響は、ひとまとめにトランスジェンダーといっても体質によって多様な症状として現れるので、個々人によって適切か不適切かを判断せざるを得ないということ。
- ④ LGBTQがある程度共通して抱える問題に対しても、その人だけの特殊な問題と狭く考えてしまい、その時の対応が「良かった」「悪かった」という個別ケースの反省をするのみで他の事例に応用できないということ。
- ⑤ 相手が性的マイノリティでも「何も気にしない」という姿勢が一般的になれば、他の人のふるまいを「良かった」「悪かった」のいずれだと感じるかは個人の主観によるので、客観的な評価はできないということ。

問八 傍線部E「こういう安易な結論」とあるが、それに至った場合に起きる行動の例として最も適当なものを、次の

① ～ ⑤のうちから一つ選べ。

36

- ① 相手が性的マイノリティであることを公表していなければ日常の場面で問題が起きることはないのだから、特別なことはあえて何もせず、何も気にしないという態度でいるのが最良だと考えて接する。
- ② 相手の状況によつて適切な答えが違う問題に深入りするのは面倒なので、その場を乗り切るために「たいしたことない」と言ったり、「思いやり」を持つという具体性のない方針だけを掲げたりする。
- ③ 性的マイノリティが抱える悩みを個人が解決することは難しいので、せめて深刻に考えすぎてふさぎこんだりすることがないように、「たいしたことないから大丈夫」と当事者を元気づけるよう努める。
- ④ 答えが見えない謎解きにチャレンジすることは難しいが、LGBTQ当事者の課題に丁寧に向き合うためには必要なことなので、「思いやり」が大切であることをみんなに根気よく伝えていく。
- ⑤ 誰でも性的マイノリティの悩みにある程度の水準で対応できるマニュアルを作りさえすれば、「思いやり」といったあいまいな標語に頼らずに済むとして、規定や制度をさらに細かく定めていく。

問九 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

37

- ① 労働法は強い権限を持つ使用者と力の弱い労働者という力関係を踏まえ、「同じように対応」して不平等を再生産しないよう定められた特別法だが、LGBTQや女性への差別は労使の関係とは別の問題なので同じに考えることはできない。
- ② 企業・役所がLGBTQに対して「良い対応ができた」と自信をもって言う例が多くなってきたのは、性的マイノリティの課題についての周知が社会の中で進み、何も気にしないで分け隔てない対応ができるようになってきた証拠である。
- ③ 「嘘を吐かれると困る」などの「自分ごと」にならないと深く関心を持ってない人もいるので、マイノリティのための規定や制度を整えることが同時にマジョリティの困りごとを減らすことにもなると示すのも、現実的な工夫の一つである。
- ④ 女性やLGBTQなどの特定のカテゴリーを対象に施策を打つことは、それらの人々への偏見を強めるだけでなく、性的マイノリティでない男性など新たに不利益を受ける人を生むので、しないで済むのが理想だと筆者は考えている。
- ⑤ LGBTQは福祉を受けるための相談がしたくても、窓口担当者が性的マイノリティの課題やその構造に理解があるか不安で話せないことがしばしばあるので、スペシャリストが対応するLGBTQ専用の相談窓口を設置するのがよい。

2026年度 入学試験問題

一般入試前期
〔3教科型・2教科型〕

2月2日

第3限

国

語

〔現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く）〕

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は22ページである。
- 3 解答番号は1から35までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

読み手があらかじめ持っている「スキーマ」が、非常に直接的な働きをする場合について考えてみましょう。

まず、麻柄啓一まがらけいいちの行った実験から見ていきましょう。彼は、木下順二きのしたじゅんじの『夕鶴』を材料にして、間違った「読み」が生じることを報告しています。彼は次のように述べます。

この作品で、つうがよひようのもとにやって来て布を織った理由を、助けてもらったことへの「恩返し」として読むことは正しいだろうか。この読みは文章に即して否定される。例えば作品中には「そのよひようの親切がうれしくて、つるは「つう」という女になって、よひようの所へおよめに来たのでした」「つうの願いはお金でも都でもなく、ただ、よひようと、二人で楽しく働きながら、いつまでもいつまでもいつしよにくらしていきたい、ということだけだったので」とあるからである。

そして、「つうは、なぜ、美しい布を織ったと思いますか」という質問をして、選択肢を選ばせています。一読後に被験者の大学生が選んだ結果の比率は次のようなものでした。

ア. 恩返しをするため	63%
イ. お金持ちになるため	0%
ウ. よひようと楽しいひとときを過ごすため	33%
エ. わからない	4%

「恩返し」と答えてしまう者が、こんなにも多いのです。部分が正確に読まれていないのは明らかでしょう。〔ア〕
そこで、最初の質問のあと、「つうの願いはお金でも都でもなく、ただ、よひようと、二人で楽しく働きながら、いつまでもいつまでもいっしょにくらしていきたい、ということだけだったのです」といった本文の指定箇所を読ませて、もう一度、「つうはなぜ、美しい布を織ったと思いますか」という質問をしています。

そうすると、「ア・恩返しをするため」を選択する者は63%から **I** し、「ウ・よひようと楽しいひとときを過ごすため」を選択する者は、33%から **II** するのです。

注意を向けさせて関連部分を再度読ませると、このように変化するのです。これは、一読後に、関連部分を読み飛ばしていたこと、ないしは、「恩返し」の文脈に合う範囲内において、関連部分からバクゼン^aとした意味しか引き出していなかったことを意味しています。〔イ〕

麻柄は、『夕鶴』に関する大学生のこのような「誤った読み」は、被験者たちのすでに持っている民話『鶴の恩返し』の知識、または「恩返し」スキーマに、強く影響されたためではないかと考えています。さらに、このような問題は「恩返し」に限ったことではなく、「いろいろな文芸作品を読む際に、文章自体からは支持されないにもかかわらず、ステレオタイプ化された『勸善懲悪』や寓話的枠組み^Bでの読みとりなどが生じる可能性が大きいのではないか」とも述べています。

第2章で、「スキーマ」とは読み手が既に持っている、あることがらに関するひとまとまりの知識であることを述べました。また、「文脈」が特定の「スキーマ」を **III** して「活性化」させ、そのスキーマが文脈から得られる知識と共同して、文章の処理に使われることで、文章がわかる、とも述べました。

しかし、ここで麻柄が指摘しているのは、「スキーマ」のもっと強力な機能であると考えた方がよいでしょう。これまでに例示してきた「スキーマ」が文脈に付随して働く、いわば「補助的な」ものであったのに対して、『夕鶴』の場合の「スキーマ」は、ずっと強い働きをもっています。〔ウ〕

文脈が「背景・状況」を示し、文章を読みとる際の大枠を決め、部分から意味を引き出すことはこれまでに示してきたとおり

です。この意味で、『夕鶴』における読み手の持つ「スキーマ」は、ほとんどそのままで文脈としてダイレクトに機能しているといってもよいと思います。「スキーマ」によって、文章の記述の部分が読み飛ばされ、そこから引き出される意味が決定づけられているように思われるからです。

このように、読み手が自分の持っている「ステレオタイプのスキーマ」を文章に簡単・ソザツに当てはめてしまうことによつて、間違つた「わかつたつもり」や不十分な「わかつたつもり」を作り出してしまうことがあるのだということを、私たちは、はっきりと確認しておく必要があります。

さて、次も「ステレオタイプのスキーマ」を文章に簡単・ソザツに当てはめてしまった例です。

IV の有名な短編に『高瀬舟』があります。島流しの罪人を送る「高瀬舟」の中で、喜助の罪人らしくない様子を気にした同心の庄兵衛が、喜助の身の上話を聞き考えさせられる、という内容で高校の教科書にも載っています。この『高瀬舟』の初発の感想として、次のように書く高校生も少なくありません。

「なぜ弟を殺さなければならなかったのか……。同心と罪人の関係ではなく、2人にしかない関係ができていたのだと思います。」

「庄兵衛の気持ちと少し触れ合った気がします。」

「庄兵衛は喜助を島に送らなければならなかったが、喜助に対する気持ちが優しくなってしまった。」

原文にあたっていただければわかるのですが、喜助はただ淡々と自分のことを述べているに過ぎず、その話にキョウタンも、自己の価値観が揺らぐ思いをしているのは、ひとり庄兵衛だけです。喜助はそんな庄兵衛の様子に怪訝な面もちをしているぐらいなのです。しかし、読み手は「2人にしかない関係」とか「気持ちがふれあった」とか「気持ちが優しくなった」といった読みとりをしてしまうのです。

- i 問題は、それらの「善きもの」を簡単に、文章のそれらしい記述の部分に当てはめて、それを「読みとり」としてしまふことなのです。
- ii もちろん、「心のふれあい」とか「優しい気持ち」といったものが、悪いわけではありません。
- iii つまり、あらかじめ所持していた「心のふれあい」とか「優しい気持ち」といった「ステレオタイプのスキーマ」を文章に簡単・ソザツに当てはめてしまっているのです。
- iv 逆に、これらは「善きもの」に決まっています。

『夕鶴』と『高瀬舟』の例は、「ステレオタイプのスキーマ」の当てはめ、という点では同じです。ひとつ、異なる点があるとすれば、『夕鶴』の場合は、「当てはめられたスキーマ」が物語全体に関わっているということです。これは「物語スキーマ^c」とよばれることもあります。それに対して、『高瀬舟』の場合は、「当てはめられたスキーマ」が物語全体に関わるというよりは、その中のある部分に関わっているということなのです。〔エ〕

さて、ここから、部分に関する「当てはめられたスキーマ」による「わかつたつもり」について少し述べたいと思います。

少し穿^dつた言い方を許して下さい。『高瀬舟』で「当てはめ」が起きてしまうのは、当てはめるものが「善きもの」だからではないでしょうか。「悪^あしきもの」でもこのようなことが起きるかどうか考えてみて下さい。きっと起きないに違いありません。

「善きもの」による「当てはめ」が起きてしまうのは、「善きもの」が何人にも認められやすいからではないでしょうか。他者に認められやすく、自分でも「わかつたつもり」になりやすく、「無難」なことが、「善きもの」の「当てはめ」の背後にあるような気がしてならないのです。

簡単な例を考えてみましょう。現在、環境破壊が進み、その「ヘイガイ^d」があちこちに出てきています。そのほとんどの元凶は、

人間の生産・消費活動に大いに関係していることですから、環境問題といえは、すぐ人間が悪い、という論になる可能性があります。これはこれでもかなりの程度、正しいことだと思います。

しかし、環境問題について話題にされたとき、実際に具体的に検証することなく、「人間悪者論」が持ち出され、それで「わかったつもり」になることもありません。

私たちは、このように「人間悪者論」とか「地球にやさしい」などといった、現代という時代にマッチする、通りのよい多くの知識を保持しています。これらはそれぞれひとまとまりの知識群をなしていることが多いでしょうから、スキーマというふうと呼んでおきます。「才」

これらのスキーマが文章を読むときに、「^Eわかったつもり」へと誘う魔物に化すことは、考えられないことではないでしょう。むしろ、それらの危険は、かなり高いものであると考えた方がいいかと思えます。

(西林克彦『わかったつもり 読解力がつかない本当の原因』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 * 麻柄啓一……………教育心理学者。早稲田大学名誉教授。

* 木下順二……………劇作家。『夕鶴』は一九四九年に初演された木下の代表作の一つ。

* 第2章で……………本文で用いている文章より前の部分にあたる。

* これまでに例示……………本文より前の節で、筆者は「文章の結末に強く影響された文脈を、読み手が作り上げ、それを使って各部分を読み間違えう」例や、「いろいろある」という言葉を目にした読み手はそれ以上の細かな追求をやめて「わかったつもり」になってしまうという例を挙げて、「スキーマ」を説明している。

* 同心……………江戸時代に警察業務を担った下級役人。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

1

このようにして、間違った「わかつたつもり」が構成され、注意を促されるまで、否定されることなく、維持されていたと考えられるのです。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 傍線部 a～d のカタカナと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

a バクゼン

- ① バクハツ物を処理する
 ② 自縄ジバクに陥る
 ③ 江戸バクフが成立する
 ④ ラクダがサバクを歩く
 ⑤ 国産バクガのピール

b ソザツ

- ① ソボウな態度を注意する
 ② カンソな作りの小屋
 ③ ソセンから伝わる家宝
 ④ 山地の村のカソが進む
 ⑤ 検察が被疑者をキノソする

c キョウタン

- ① タンコウで栄えた町
 ② タンセイ込めて育てた花
 ③ ダイタンな経営戦略
 ④ 新進歌手のタンドク公演
 ⑤ タンガンシヨを提出する

d ハイガイ

- ① 学校のハイモン時刻
 ② 電池をハイレツにつなぐ
 ③ ゴハイを恐れずに言う
 ④ 古いカハイを収集する
 ⑤ 日光をシャハイする

問三 空欄 I · II に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

①	I	77%に増加	II	19%に減少	②	I	17%に減少	II	81%に増加
③	I	65%に増加	II	34%に増加	④	I	57%に減少	II	29%に減少
⑤	I	53%に減少	II	48%に増加	⑥	I	74%に増加	II	29%に減少

問四 傍線部A「ステレオタイプ化された」の問題文中の意味として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① 極端な考え方に走った
② 一部の意見だけが強調された
③ 文章の細部に注目した
④ 他人の意見に影響された
⑤ 比喩的な意味を読みとりすぎた
⑥ 固定観念にとらわれた

問五 傍線部B「寓話」とあるが、寓話の例として誤っているものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 北風と太陽
② おやゆび姫
③ アリとキリギリス
④ ウサギとカメ
⑤ オオカミ少年

問六 空欄 III に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 暗喩
② 刺激
③ 示唆
④ 読解
⑤ 明示

問七 空欄 IV には小説『舞姫』で有名な作家の名前が入る。次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 夏目漱石
② 川端康成
③ 芥川龍之介
④ 森鷗外
⑤ 谷崎潤一郎

10

9

8

7

6

問八 問題文中の i、iv の文をもとの順番に並べ替えたものとして最も適当なものを、次の ①、⑧のうちから一つ選べ。

- | | | | | | | | |
|---|-------------------|---|-------------------|---|-------------------|---|-------------------|
| ① | i ↓ ii ↓ iv ↓ iii | ② | i ↓ iii ↓ ii ↓ iv | ③ | ii ↓ i ↓ iii ↓ iv | ④ | ii ↓ iv ↓ i ↓ iii |
| ⑤ | iii ↓ i ↓ iv ↓ ii | ⑥ | iii ↓ iv ↓ i ↓ ii | ⑦ | iv ↓ ii ↓ i ↓ iii | ⑧ | iv ↓ iii ↓ ii ↓ i |

11

問九 傍線部 C 「物語スキーマ」の説明として最も適当なものを、次の ①、⑤のうちから一つ選べ。

- ① 擬人化されてしゃべる動物が出てきても奇妙に思わないなど、物語設定の約束事に関する読者の理解。
- ② 江戸時代の刑罰がどんなものであるかなどの、物語を読み取るために必要な文化的・歴史的な基礎知識。
- ③ ストーリーは勧善懲悪が普通であるはずだといった、物語全体の解釈に強く影響する考え方の枠組み。
- ④ 登場人物の気持ちのふれあいを示す表現を丁寧に拾い上げるなどの、物語を深く読み取るためのスキル。
- ⑤ 物語の中ではつきり書かれていない事柄を文脈を手がかりに補って、より正確な解釈にたどりつく能力。

12

問十 傍線部 D 「穿った言い方」は、もともと「本質を的確に捉えた言い方」という意味であったが、ここでは誤用を基に広

まった異なる意味で使われている。ここでの意味として最も適当なものを、次の ①、⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① かんぐった言い方
- ② 決めつけた言い方
- ③ 試すような言い方
- ④ 回りくどい言い方
- ⑤ 非難する言い方

問十一 傍線部E「「わかったつもり」へと誘う魔物」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 文章の内容について具体的に検証しないまま信じ込み、自分の知識は常に最新で正しいに違いないと思わせるもの。
- ② 文章を早く読みきらなければと読者に焦りを感じさせ、重要な記述であってもつい読み飛ばすように仕向けるもの。
- ③ 心のふれあいを経験すれば他人の心の痛みが全てわかると勘違いさせ、傷つけあったり仲たがいさせたりするもの。
- ④ 人間は悪いものであり環境問題は深刻化する一方だという信念をもたらし、悲観的な未来像を読者に抱かせるもの。
- ⑤ 道徳的に善いとされる価値観を読んだ文章に安易に当てはめさせ、一見「無難」だが実際は誤った読みに導くもの。

問十二 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 「誤った読み」に陥る危険を避けるためには、文脈によって「スキーマ」が活性化されてしまわないように注意し、あくまで本文自体に直接書かれていることだけを手がかりにして読解するのがよい。
- ② 麻柄啓一の実験によると、大学生は民話『鶴の恩返し』を題材にした作品だという関連知識にとらわれすぎたために、『夕鶴』の本文にある「つうが布を織った理由」を注意深く読むことをしなかった。
- ③ 『高瀬舟』の場合は、「ステレオタイプのスキーマ」によって生じた「誤った読み」が、あくまで一場面に影響しているだけなので、物語全体に関わっていた『夕鶴』に比べれば深刻な問題ではない。
- ④ 著者は、もっぱら「善きもの」とされる価値観がスキーマとして「当てはめ」られると指摘しているが、「善きもの」と「悪しきもの」が簡単に分けられるという考え自体も問題だと考えている。
- ⑤ 私たちが保持している「現代という時代にマッチする、通りのよい多くの知識」は、昔からの先入観を改め続けることで作られているので、「わかったつもり」を避け正確に文章を読むために重要である。

15

14

第二問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、(ii)は(i)の 内の語句に関する注釈である。

(i) 即ち出雲国すなはちA(出雲国)に入り坐まして、其の出雲建を殺らむと欲ほして、到りまして即ちうるはしみしたまひき。故窃かれひそかに赤檣いちひのき以て刀たちに作詐つくりなして、御佩みはかし為て、共に肥河ひのかはに沐かしたまひき。爾おもに倭建命やまとたけのみこと河より先まづ上りまして、出雲建が解とき置ける横刀たちを取り佩はかして、「易刀たちかへせ為む。」と詔のりたまふ。故後のちに出雲建河より上りて、倭建命の詐刀ごとを佩はきき。是こゝに倭建命、「いざ刀合あはさむ。」と詔あたらへたまふ。爾かれおも各おも其の刀を抜く時に、出雲建 詐刀をえ抜かず。即ち倭建命其の刀を抜かして出雲建を打ち殺ころしたまひき。

(ii) 詐刀ごだちをえ抜かず。これに依りて思へば、此の詐刀は、身みと I I との分わかもなく、ただ表うはべを刀のごと見せて、造れるばかりの物なりけり。木も以て身を造りて、 I に入れたるには非あやず、俗よにいはゆる作つくり着つけなる故ゆゑに、抜くことあたはざるなり。或人ある疑いひて云はく、「木のかぎりもて造りたらむは、真まことの刀とはこよなく軽かろかるべければ、初め佩はかむとする時に、早く詐刀なることは、誰だもさとりつべきに、えささとらで抜ぬかむとまでせしはいかにぞや。」。答ふ。「然しか細こやかなることことは、今云ふべきに非ず、初めより人を欺かむとて作りたまへるなれば、重さも何も必ず欺かるべくぞ作り成したまひけむ。」。

(いずれも『古事記伝』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *出雲建……………出雲の勇猛な人を意味する人名。

*かれ(故・爾)……………そして。

*赤檜……………イチイガシの木。材は堅い。

*御佩為て……………腰につけなきて。

*肥河……………河川名。

*倭建命……………景行天皇の皇子。現在はヤマトタケルノミコトと読むのが一般的。

*横刀……………「刀」に同じ。

*真の刀とは……………真の刀と比べれば。

問一 傍線部A「出雲国」と同じく山陰道に属する国を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 因幡国
- ② 能登国
- ③ 播磨国
- ④ 常陸国
- ⑤ 豊後国

16

問二 傍線部B「うるはしみし」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① かわいがる
- ② 敬遠する
- ③ 果たし状を送る
- ④ 忠誠を誓う
- ⑤ 友達になる

17

問三 空欄 I に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 箆
- ② 鞆
- ③ 束
- ④ 鏝
- ⑤ 籠手

18

問四 傍線部C「けり」と意味・用法が最も近いものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。
- ② 野山にまじりて竹をとりつつ、よろづのことにつかひけり。
- ③ 今日、海荒げにて、磯いそに雪降り、波の花咲けり。
- ④ いとあやしきものに聞きしかど、見るには、さしもあらざりけり。
- ⑤ 恨みわび ほさぬそでだに あるものを 恋にくちなむ 名こそ惜しけれ

問五 傍線部D「誰もさとりつべきに」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① だれでも気づくにちがいないのに
- ② だれかが気づいてもよさそうなのに
- ③ だれかが気づいてしまったであろうに
- ④ だれにも気づかれないにちがいないので
- ⑤ だれもが気づくようなことではなかったので

問六 波線部a～d「む」のうち、意味・用法が最も近いものはどれとどれか。次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① aとb
- ② aとc
- ③ aとd
- ④ bとc
- ⑤ bとd
- ⑥ cとd

19

20

21

問七 (i)の内容に合致する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 倭建命は懐に短刀を隠し持って水浴した。
- ② 出雲建は倭建命の刀と交換するつもりで自分の刀を置いた。
- ③ 出雲建が刀を抜くのを待ってから倭建命は刀を抜いた。
- ④ 出雲建は倭建命に木刀で打ち殺された。
- ⑤ 倭建命は手はずどおりに出雲建を殺害した。

問八 (ii)の内容に合致する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 倭建命が出雲建を殺害した際のふるまいについて、著者はひきょうであると非難している。
- ② 出雲建の行動を不審とした質問者に対し、著者は新たな根拠を加えて丁寧な回答している。
- ③ 木刀の重さについて「或人」が指摘したのはとるにたらないことだ、と著者は退けている。
- ④ 「或人」が『古事記』の本文を合理的に解釈しようとしたことを、著者は高く評価している。
- ⑤ 「詐刀をえ抜かず」という部分は『古事記』の作り話にすぎないのだ、と著者は述べている。

問九 『古事記』と成立時期が最も近いものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 『榮花物語』
- ② 『古今和歌集』
- ③ 『日本書紀』
- ④ 『方丈記』
- ⑤ 『菟玖波集』

問十 『古事記伝』の著者として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 新井白石
- ② 本居宣長
- ③ 上田秋成
- ④ 曲亭馬琴
- ⑤ 井原西鶴

25

24

23

22

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ヒトから見たヒグマの特性には二通りあるように思う。

まず一つは、ヒグマのダイナミックな大陸間の移動史を含む自然史とその生態学的特徴の神秘性である。

ヒグマの生態学的特徴には様々なものがあるが、ヒトよりも大きい身体をもつかれらが、冬になると地中に姿を消し冬眠する行動は **I** に値する。それが、ヒグマの存在が神秘性へとつながっている大きな要因である。春に生を得て夏に躍動する、そして、晩秋には再び地中に帰り眠りにつく、その反復がヒグマの神秘性を生み出す。

さらに、北半球に広く分布できた理由は、ヒグマには天敵が不在で、雑食性であるからだ。

- i 日本を含め、世界各地でその対策が講じられている。
- ii その結果の一つとして、現代では、農作物への被害や人身事故を含む人間社会との摩擦が起こっている。
- iii 一方で、ヒグマが森林に存在すること自体が生態系にとって価値があり、環境保全に重要なことだという認識もある。
- iv 広大なユーラシアに分布拡散したヒグマは、折しもアフリカから出てきたホモ・サピエンスと出会い、その時から現在に至るまで、互いの関係が分断されない歴史が続いてきた。

種を保存・維持しながら、人間社会との軋轢あつれきをなくす努力が行われている。この課題の解決法を考えることは本書の主な目的ではないが、ヒグマの生物・生態学的研究、および、後述するように、ヒグマの文化的研究を **II** 的にとらえることが、両者の持続的共存の解決策につながると私は考えている。

また、シュミッツ著『人新世の科学』では、「地球の持続可能性を実現するためには、人間(社会)と自然(生態)が互いに「社会―生態システム」として絡み合っていることを再認識する必要がある」と語られている。

なかざわしんいち
中沢新一著『熊から王へ』で述べられている、人間（文化）と自然が対等に共生する「対称性社会」も、この考えにつながるものと思われる。

ヒグマを単に危険で怖い動物としてとらえるのではなく、自然現象そのもの、生態系の一部としてとらえることが大切である。自然に対する個人の価値観、そして社会の価値観には多様性があり、それを尊重しつつも、この社会―生態システムという考え方を念頭におくことは、今後のヒトとヒグマの持続的共存を考えるうえでの要となる。

なお、人新世（英語 Anthropocene の日本語訳）は近年学術的にしばしば使用される用語になったが、その意味は、人類が地球生態系に影響を与えている時期を示す年代区分である。完新世（約一万二千年前から現代）のなかに含まれるが、人新世の開始時期については研究者によって見解が異なる。

ヒグマに関するもう一つの特性は、ヒトとヒグマが出会って以降、徐々にヒトの個人および社会における精神文化のなかの一員に迎えられたことである。

それには多様なプロセスがあるが、ユーラシアと北米の先住民に共通してクマ送り儀礼が発達したことは、ヒグマが、ヒトの心の奥底にある（心理学でいう）自己または元型を刺激する存在であることを示しているのではないか。

北半球の先住民の間では共通して、ヒグマを自然の精霊の持ち物、または自然そのものと同義であると位置づけられてきた。

この考え方は、ヒトが自然環境のなかで、多様な自然と向き合う生活をしてきたからこそ育まれたものである。まさに、「社会―生態システム」のなかで生まれたものである。〔ア〕

中沢新一著『熊から王へ』においても、文化は本来、自然との Ⅲ 性のもとで、初めて意味をもつものであった、と述べられている。人間は自然を支配しているのではなく、自然も人間と同じレベルで存在しているのだということを謙虚に認識することが大切なのである。〔イ〕

さらに、アフリカからユーラシアへ進出したホモ・サピエンスが、ヒグマと出会ったことを発端として、ヒグマという動物を狩猟対象からクマ送り儀礼の対象としてとらえるようになった。〔ウ〕

ホモ・サピエンスは、更新世末期にユーラシアから北米に渡ったのであるが、北米でのクマ送り儀礼は、ユーラシアからの移動にもなつて世代を通して伝えられたものか、または、北米で収束的に独立して生じたものかは、現時点で結論づけることは難しい。結果として、文化的記憶が時空を越えて継続しているように見えているのである。これは今後解き明かすべき興味深い課題であろう。〔E〕

自然と向き合う社会―生態システムの生活環境のなかで、ヒグマに親しみと神秘性を見出し、それを感覚する感受性も生じたと考えられる。この感性は、都会で暮らす現代人には理解しがたいかもしれない。しかし、まったく取り戻せない感覚かという点でもなく、この困難さも次世代の子どもにはリセットされ、様々なことを学習するための感受性が用意されるのである。

〔オ〕

一個人の経験や記憶は遺伝しないが、次世代の子どもたちには、人間社会のなかで文化的記憶や社会的記憶を学習し、それに基つき新しい文化を発展させていく能力がある。

IV

ヒグマに対するヒトの意識の変遷を考えていく過程で私が感銘を受けたことは、ヒグマは天上界(カムイ界)から地上界(人間界)へ送られた使者であり、その持ち主は自然の精霊または森の精霊であるという考え方である。つまり、ヒグマは、天上界と地上界を結ぶメッセンジャー(伝言者)としてとらえられたのだ。このような考え方が、ユーラシアと北米の先住民に共通して発展したということは極めて興味深く、心に留めておくべきことである。

さらに、ヒトの心の構造を考えた場合、ユング心理学では、意識(地上界)と無意識(天上界)の間は、睡眠中の夢を介して往来できると考える。無意識の中心にある元型や自己は明確には認識できないものだ。同様に、クマ送り儀礼で想定される天上界に住む精霊の存在も明確に把握することはできない。儀礼を通してヒグマが往来する世界は、ヒトの心と対称的であるといえる。

^Bクマ送り儀礼の世界を探索することは、まさに、ヒトの心の構造を探索することにつながるのだ。

ヒグマが二つの世界を往来するという考え方がもたらされた要因として、夏と冬の間の自然景観がまったく異なるという二面性をもつ亜寒帯気候のなかで、偶然か必然か、ヒトとヒグマがともに関わりながら生きてきたことによる大きい。特に、

大型動物であるヒグマが地上から姿を消す冬眠は、古代の人々にヒグマに対する神秘性を増長させたのであろう。

さらに、長い年月において、ヒトがヒグマと対峙するなか、「近づきたい感覚」と精神的には「親しみがわく親近感」という相対する感覚が共存している。

成獣になると獯猛で危険な動物である一方、幼獣はぬいぐるみのようにかわいらしい。このようなヒグマに対する感情の二面性というか感覚のギャップが、さらにヒグマがヒトの心の奥底に眠る無意識を刺激し、特別な動物と意識されるようになったといえるだろう(図1)。この図は私が主観的に描いたものであるが、動物のなかでヒグマのような特異的な位置にあるものはない。つまり、ヒトから見ればヒグマは物理的には遠くにおいてほしい反面、精神的には心の深くに入り込んでいる存在なのだ。

他の野生動物にはこのようにとらえられたものはない。人間社会のなかで愛玩動物のイヌやネコは、ヒトとの間で物理的距離はゼロといってもよい。そして、かれらは、家族のように親しい存在であるため、ヒトの心情のなかにも深く入り込んでいるが、その方向性はヒグマに対する感情の精神的方向性とはまったく異なる。図1は二次元の平面図で表現されているが、三次元で立体的に描くならば、ヒグマに対するベクトルとイヌ・ネコに対するベクトルはまったく異なる方向性を示すのである。

(増田隆一『ヒトとヒグマ——狩猟からクマ送り儀礼まで』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 * シュミツツ……………生態学者。

中沢新一……………宗教学者・文化人類学者。

クマ送り儀式……………熊を獣のなかで特別な存在とみなし、これを殺害するときに行われる儀礼の総称。

元型……………精神科医・心理学者のユングが唱えた概念。人類が太古から引き継いだ普遍的な思考のパターンをいう。

更新世……………地質時代の区分の一つ。一七〇万年前から一万年前まで。

カムイ……………アイヌ語で神のこと。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

ヒグマが、単なる動物ではなく、ヒトの心に何かを訴えかけ、畏敬の念をもって迎えるべきものとして扱われるようになったのである。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 空欄 I に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 特別 ② 特殊 ③ 特番 ④ 特大 ⑤ 特筆

問三 問題文中の i ～ iv の文をもとの順番に並び替えたものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。

28

- ① i ↓ ii ↓ iv ↓ iii ② i ↓ iii ↓ ii ↓ iv ③ ii ↓ i ↓ iii ↓ iv ④ ii ↓ iii ↓ iv ↓ i
⑤ iii ↓ ii ↓ i ↓ iv ⑥ iii ↓ iv ↓ i ↓ ii ⑦ iv ↓ i ↓ iii ↓ ii ⑧ iv ↓ ii ↓ i ↓ iii

問四 空欄 II に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 専門 ② 実践 ③ 客観 ④ 学際 ⑤ 感情

問五 傍線部A「クマ送り儀礼」の説明として誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① クマ送り儀礼は、ユーラシアと北米の先住民において共通して行われている。
- ② クマ送り儀礼は、ヒトがユーラシアから北米へと移動するにつれて広がった。
- ③ クマ送り儀礼からは、クマを自然の精霊の持ち物と考える発想が見て取れる。
- ④ クマ送り儀礼からは、クマを単なる狩猟対象と見なさず、神秘的な存在と見なしていることも見て取れる。
- ⑤ クマ送り儀式からは、ヒトが自然と向き合う生活環境のなかで生きていることも見て取れる。

30

問六 空欄 III に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 神秘
- ② 対称
- ③ 感受
- ④ 多様
- ⑤ 二面

31

問七 空欄 IV に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① それにくわえて
- ② 一方
- ③ その反面
- ④ ことによると
- ⑤ だからこそ

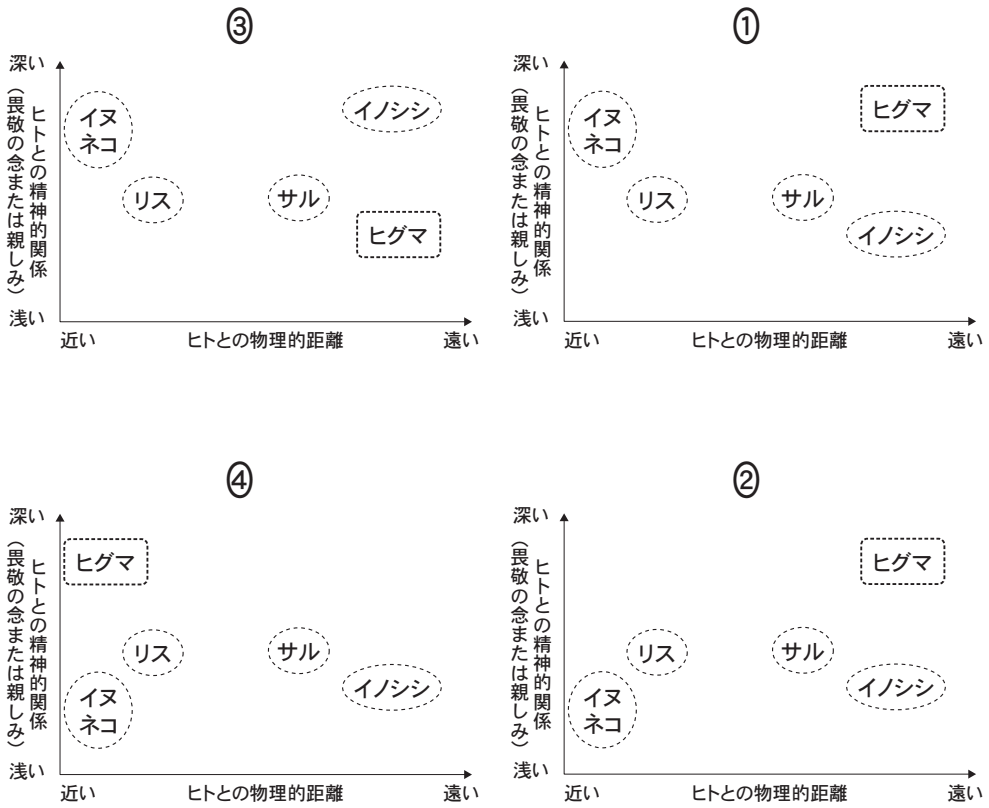
32

問八 傍線部B「クマ送り儀礼の世界を探求することは、まさに、ヒトの心の構造を探求することにつながるのだ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

33

- ① 無意識と意識を往来するヒトの心の構造と、天上界と地上界を往来するクマという発想とが相似をなしているから。
- ② 人類史的な規模にわたるクマとの長い付き合いを考察すれば、必ずヒトの心の構造の考察にまで及ぶことになるから。
- ③ クマが往来する天上界と地上界の存在を解明すれば、ヒトの心の構造にある神秘的な部分についても明らかになるから。
- ④ ヒトも生態系の一環をなす存在であり、同じ生態系にあるクマの心の構造とヒトの心の構造は実は似通ったものであるから。
- ⑤ クマはヒトに警鐘を鳴らすために送り込まれた存在であり、クマ送りの儀式はヒトの心の構造の在り方を問うものであるから。

問九 傍線部C「図1」として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。



問十 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

35

- ① 春には地上界に出現し、晩秋には天上界へと姿を消すというヒグマの生熊が、人間に神秘性を感じさせた。
- ② 人間とヒグマの関係が密である以上、両者の軋轢は不可避免なので、人間がヒグマに対して謙虚になる姿勢が必要だ。
- ③ 人間と自然は対等に絡み合っていると述べる学者もいれば、人間は自然を支配していると述べる学者もいる。
- ④ ヒグマに親しみと神秘性を見出すという感覚を、都会に住む現代人が取り戻すことは不可能ではない。
- ⑤ イヌやネコと人間との間の物理的距離はゼロといってもよいが、ヒグマと人間との間は分断されている。

2026年度 入学試験問題

一般入試 前期
〔3教科型・2教科型〕

2月4日

第3限

国

語

〔現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く）〕

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は24ページである。
- 3 解答番号は1から38までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

デジタルカメラが普及し始めたとき、これは革命だと思った。インターネットが当たり前になって、誰でも簡単に自分の写真を人に見せることができるようになったときもそう思った。でも写真におけるほんとうの革命は「自撮り」だと今は思う。

写真論の根底には何よりもまず「撮る者」と「撮られる者」の対置があった。カメラは撮影者を世界から切り離された「見る存在」にする、というのは今でも写真論の重要なテーゼだ。写真の倫理や権利の問題もこの構図の中にある。しかし自撮りにはそれが無い。今やカメラの後ろに「撮影者」がいるとは限らない。スマートフォンを掲げ、フロントカメラに向かってキメ顔をする人を見るたびに「写真論への挑戦だ^B」と思う。そもそも、画面と同じ側に付いたレンズを「フロント」と呼ぶこと自体が非常に興味深い。

ただ、ぼくが自撮りに惹かれる理由は、これが写真論的^aドウサツから導き出された手法ではなく、単に「レンズとファインダーを同じ側に付ける」というハードウェア上のアイディアに **I** を発しているからだ。フィルム時代にはこんなことは不可能だった。このような、テクノロジーが思想に先行してしまう事態はぼくの大好物だ。思えば写真はその誕生からずっと、そういう歩みをたどっている。つねにカメラ^cが写真に先行してきた。だから写真はおもしろい。

ただし、フロントカメラによる「自分を見る」という行為が人間にとって特殊な視覚経験かという点、かならずしもそうではない。従来のカメラは、レンズの向きが前方、 **II** 目と同じ方向を向いている。そして歴史的にスマートフォンよりずっと以前に発明されている。 **III** 「自分を見る」フロントカメラは「不自然」で、前方を見る従来のカメラは「自然」な装置のように思える。

IV 実際は、このシステムはかなり特殊である。これは鏡を考えればわかりやすいだろう。映す装置がこちらを向いている鏡はいわば「自撮り」と同じ仕組みである。そして当然ながらカメラよりはるか以前に登場している。鏡は人間が最初に手に入れた視覚装置と言ってもよく、人間の精神に大きな影響を及ぼしてきた。「自分を見る」ことは「不自然」ではないのだ。

遠近法の発明や、世界から分離された「主体」といった観念の発明に、カメラが一役 V のと同じように、鏡もまた、人間に新たな視覚と精神の様式をもたらした。古代から金属鏡はつくられてきたが、無色透明な板ガラスに錫すずアマルガム法を施してつくられた美しい鏡が出現したのは一五世紀ごろである。ルイス・マンフォードは『技術と文明』のなかで、この鏡の出現が「自意識」や「内省」を発達させた、と言っている。もしかしたら、鏡を見ることによってはじめて、人間は自分の視線が前を向いていることに気がついたのかもしれない。

鏡はベラスケスの《ラス・メニナス》や、ファン・エイクの《アルノルフイーニ夫妻のシヨウゾウ》などの絵画にも描かれている。それらの作品に見られるのは画家たちが感じている鏡の不思議さだ。興味深いことに、鏡がもたらした「内省」の精神を持った人物の代表として、マンフォードはベラスケスと同時代のレンブラントを挙げ、シヨウゾウ画を描く際に「彼が他人をドウサツするのに用いた直観は、一つには鏡に見出した自分の顔から得たものであり、彼がこの内的な交りまじわによって発展させ表現した自己認識から出発したものであった」と指摘している。この時代の画家たちは鏡によって「見ること」へのドウサツを得、そこから自分と世界との関係について考えたようだ。カメラの発明に先立って鏡が存在したことの意味は大きい。自分を見返す鏡の不思議さと、それがもたらした「自意識」や「内省」の精神。鏡との比較によって、視線と同じ方向を向いたカメラの性質がよくわかる。

要するに、従来のカメラによる写真に撮影者＝自分が写っていないのは、視覚の様式として当たり前ではないのだ。カメラ以前に長らく人間が慣れ親しんでいた視覚装置、つまり鏡では、視線は自撮りと同じく鏡を向いていたのだから。そこにカメラが登場し、レンズを他者に向けることで、近代の特殊な視覚の形式をつくった。そして今度はスマートフォンによる自撮りがその近代性をゆるがす。今や写真の中には当たり前前に自分がある。それは世界から切り離された主体という認識とは別の感覚をもたらずはずだ。

一八二七年にニエプスによって発明され、その後ダゲレオタイプによって普及した画像の定着技術を「写真1・0」とするならば、その後タルボットによって発明されたネガによる複製技術を「写真2・0」とすべきだろう。以後、長らく写真論やメディア

ア論はこの複製技術とその大衆化を論じてきた。「デジタルカメラの普及は革命ではなかった」こと理由は、それが結局の発展でしかなかったからだ。そして、スマートフォンとSNSによって、いよいよ「写真3・0」の段階にいたったと言えるだろう。ここまで述べた自撮りと、それがもたらすであろう主体に対する今までは違う認識、加えてSNSによって撮影という行為そのものがこれまでになく

VI されたこと、さらにはAIなどによって写真が人間の手を離れ、自立したシステムになりつつあることなどは、今までの写真にはなかった性質だからだ。

もちろんカメラ登場以後、スマートフォン出現以前の時代にも、人は自撮り、別の言い方をすると「セルフポートレイト」を撮ってきた。写真家にとって自分自身を撮るのは重要な仕事である。偉大な写真家たちはみな自分自身を作品にしてきた。日本にもセルフポートレイトをテーマにすばらしい作品をつくる写真家がいる。とはいえ、これら写真家の作品と、人々がスマートフォンで撮ってSNSに投稿する写真は異なる。いずれにせよこれまで写真家でない人が自分を撮ることはめつたになかった。しかしこんにちセルフイーは当たり前になった。人生で最初に撮った写真が自分の顔だという人がすでに大勢いるはずだ。

人気インスタグラマーのタイムラインを見ると、風景や物撮りの中にしれつと自撮りが混ざっている。つまり、自撮りとははや特別なジャンルではない。むしろ、人に撮ってもらうことのほうが特殊になりつつある気配すらある。数年前に友人と「固定電話」「リアル店舗」そして「フィルム写真」などのレトロニムのひとつとしてそのうち「他撮り」が登場するのではないかと、とジョウダンで話したことがあるのだが、その通りになったようだ。ケンサクすると「他撮り」という言葉がふつうに使われているのがわかる。聞くところによると、自撮りがときにナルシズムを感じさせてしまうことへの対策と、写真を撮ってくれる友人やパートナーがいることのアピールとして「他撮り」を行い、タグを付けるのだそうだ。「自撮りでありながら他撮りのように見える撮影テクニク」というものまで出現している。

二一世紀のあるときを境に、世界中で自分の顔を撮る人が大量に出現し、あつという間にそれがふつうのことになった。自撮りはいつときの流行に終わることはないだろうという確信がぼくにはある。だから、このことについてじっくり考えるべきだと思うのだ。現代の写真論とはすなわち「自撮りの写真論」になるのではないか。

(大山頭^{おおやまけん}『新写真論 スマホと顔』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

[注]

- * 錫アマルガム法……錫と水銀を混合させ、加熱することで水銀を蒸発させ、錫のみを表面に付着させるめつき法。
- * ベラスケス……バロック期のスペインの画家(一五九九～一六六〇)。
- * ファン・エイク……初期フランドル派のフランドル人画家(二三九〇～一四四二)。
- * レンブラント……オランダのネーデルラント派の画家(一六〇六～一六六九)。
- * ニエプス……フランスの化学者・発明家(二七六五～一八三三)。写真製版に初めて成功した。
- * ダゲレオタイプ……フランスの発明家ダゲール(二七八七～一八五二)が発明した写真法。銀板写真。
- * タルボット……イギリスの写真家(一八〇〇～一八七七)。一枚の陰画(ネガ)から多数の陽画(ポジ)を焼き付ける写真術を確立した。

問一 傍線部 a ～ d と同一の漢字を使うものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a b c d

a ドウサツ

- ① 政治改革をシユドウする
 ② 付和ライドウの態度
 ③ 産業のクウドウ化を懸念する
 ④ 正々ドウドウと論戦する
 ⑤ 言語ドウダンの行為

b ショウゾウ

- ① 病気のショウウジョウ
 ② ソショウを起こす
 ③ 現代をショウウチョウウする出来事
 ④ フショウの弟子
 ⑤ 話のショウウテンを絞る

c ジョウダン

- ① ジョウマンな文章
 ② 自信カジョウな人物
 ③ 日本酒をジョウゾウする
 ④ ジョウザイを服用する
 ⑤ ジョウオンで保存する

d ケンサク

- ① 小作料をサクシユする
 ② 試行サクゴを繰り返す
 ③ ジサク自演の大芝居
 ④ 生産量をサクゲンする
 ⑤ 遭難者をソウサクする

問二 傍線部 A 「自撮りにはそれが無い」とあるが、「自撮り」において存在しないものとして適当でないものを、次の ① ～ ⑤ から一つ選べ。

-

- ① 「撮る者」と「撮られる者」の対置
 ② 世界から切り離された「見る存在」
 ③ 写真の倫理や権利の問題
 ④ カメラの後ろにいる「撮影者」
 ⑤ 世界から分離された「主体」

問三 傍線部B「写真論への挑戦だな」という筆者の考えと最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① これまで自分が信じて疑わなかった「写真論」に疑義が呈されていることに驚嘆している。
- ② 従来の「写真論」の前提が造作もなく覆される事態を目にして気持ちがたかぶっている。
- ③ 自分たちが気付けなかった「写真論」の盲点が明らかにされて世代交代を痛感している。
- ④ 「キメ顔」のうちに「写真論」などものともしない不遜さを感じて内心穏やかではない。
- ⑤ スマートフォンの液晶側に「フロントカメラ」をつけた斬新な着想に快哉かいさいを叫んでいる。

6

問四 空欄 I に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

- ① 声
- ② 源
- ③ 光
- ④ 粹
- ⑤ 端

7

問五 傍線部C「カメラが写真に先行してきた」という筆者の考えと最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① こういう写真を撮りたいという芸術的熱情がカメラの性能の進化の歴史を主導してきた。
- ② 新しい写真を撮るといふ目的のために新しいメカニズムが開発されてきたわけではない。
- ③ カメラメーカー相互の熾烈しりれつな開発競争に刺激されて自ずと芸術性の高い写真も出現した。
- ④ フィルムカメラの限界がなかったとしたらそれを克服する技術も写真も生まれなかった。
- ⑤ そもそもカメラというハードウェアが存在しなければ写真を写すことすらできなかった。

8

問六 空欄

II

III

IV

べ。

に入れることばの組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥から一つ選

9

① II ゆえに ・ III しかし ・ IV つまり ② II ゆえに ・ III つまり ・ IV しかし

③ II しかし ・ III ゆえに ・ IV つまり ④ II しかし ・ III つまり ・ IV ゆえに

⑤ II つまり ・ III しかし ・ IV ゆえに ⑥ II つまり ・ III ゆえに ・ IV しかし

問七 空欄

V

に入れることばとして最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

10

① 演じた ② 弄した ③ 買った ④ 奏した ⑤ 務めた

問八

傍線部D「ルイス・マンフォード」の主張と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

11

① 古代以来の鏡の歴史は、人間がつねに自己意識を有してきたことの動かぬ証拠である。

② 鏡を見ることによって、人間は自分の視線が前を向いていることをはじめて自覚した。

③ ショウゾウ画家たちの他者理解は、鏡を介した自己像を得ることによって一層の深化をみた。

④ 鏡の不思議さという主題を完成させたのは、ベラスケスと同時代のレンブラントである。

⑤ 鏡と比較することによって、視線と同じ方向を向いたカメラの性質がはじめてわかる。

問九 傍線部E「近代の特殊な視覚の形式」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① こちら側を見返す鏡を否定することで、内省や自意識を欠いた傲慢な主体としての自分が成立した。
- ② 視野から自己を排除することを通して、主体よりも客体の方がはるかに優位な世界が自明視された。
- ③ 他者に向けたカメラが自分との間の壁となつて、共同体から孤立した主体としての自分が成立した。
- ④ カメラ的な視界が自然なものと見なされることで、客体のみからなる非合理的な世界が自明視された。
- ⑤ カメラのように視線を他者に向けてることで、客体を一方的にまなざす主体としての自分が成立した。

問十 空欄

VI

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

- ① 「写真1・0」
- ② 写真論
- ③ 画像の定着技術
- ④ 複製技術
- ⑤ 自撮り

問十一 空欄

VII

には、「他のものと比較することで、その価値や意味を見直すこと」を意味することばが入る。最も適

当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 相対化
- ② 脱構築
- ③ 民主化
- ④ 再分配
- ⑤ 世俗化

12

13

14

問十二 傍線部F「レトロニム」とは、新語と区別するためにつけ直された呼び名のことである。次の①～⑤のうち、「レトロニム」の事例として適当でないものを一つ選び、記号で答えよ。

- ① 家畜化された動物と区別するために「野生動物」という言葉が使われるようになった。
- ② ガソリン車と区別するために「電気自動車」という言葉が使われるようになった。
- ③ 新幹線などの特急列車と区別するために「普通列車」という言葉が使われるようになった。
- ④ 洋服と区別するために「和服」という言葉が使われるようになった。
- ⑤ 養殖真珠と区別するために「天然真珠」という言葉が使われるようになった。

15

問十三 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① デジタルカメラの普及によって誰でも「自撮り」が可能になったことは、写真の歴史における「革命」である。
- ② 鏡は人間が最初に手に入れた視覚装置であり、そのメカニズムはいまも「自撮り」にそのまま残存している。
- ③ 従来のカメラによる写真に自分が写っていないことの起源は、近代という特殊な時代の自意識のあり方にある。
- ④ 「自撮り」でありながら他撮りのように見える撮影」には、現代人の孤独という深刻な状況があらわれている。
- ⑤ 現代の写真論は、世界から切り離された近代的主体という観念を塗り替える画期的なものになるはずである。

16

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

近ごろ、鴨社の氏人に菊大夫長明といふものありけり。和歌、管弦の道に、人に知られたりけり。社司を望みけるが、かなはざりければ、世を恨みて、出家してのち、同じくさきだちて、世を背きける人のもとへ、いひやりける、

A いづくより人は入りけむ真葛原 秋風吹きし道よりぞ来し

B 深き恨みの心の闇は、しばしの迷ひなりけれど、この思ひをしもしるべにて、真の道に入るといふこそ、生死、涅槃ところ同じく、煩惱、菩提一つなりけることわり、たがはざりとおほゆれ。

この人、のちには大原に住みけり。方丈記とて、仮名にて書き置けるものを見れば、はじめの詞に、行く水の流れは絶えずして、しかももとの水にあらずとあるこそ、

世 関 人 而 為 世 人 苒 々 行 暮

河 関 水 而 為 河 水 滔 々 日 度

世は人を関べて世を為す 人苒々として行き暮れぬ

河は水を関べて河を為す 水滔々として日に度る

といふ文を書けるよ、とおぼえて、いとあはれなれ。しかれども、かの庵にも、折琴、継琵琶などをともなへり。念仏のひまひまには、糸竹のすさみを思ひ捨てざりけるこそ、数奇のほど、いとやさしけれ。

そののち、もとのごとく和歌所の寄人にて候ふべき由を、後鳥羽院より仰せられければ、

D 沈みにきいまさら和歌の浦波に 寄せばや寄らむ海人の捨て舟

と申して、つひに籠り居て、やみにけり。

世をも人をも恨みけるほどならば、かくこそ

I

〔二十訓抄〕による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。

〔注〕

- * 鴨社の氏人……………京都府にある賀茂御祖神社みおやの神官の家。
- * 菊大夫長明……………鴨長明かものちやうめい。
- * 社司……………神官。
- * 真葛原……………現在の京都市東山区の丸山公園の一带。
- * 真の道……………仏道。
- * 生死、涅槃……………生死等に苦しみ迷う世界と、悟りの世界。
- * 煩惱、菩提……………悩みや欲望と、悟りの境地。
- * 大原……………現在の京都市左京区の地名。
- * 世間人而為世……………以下の句の出典は『文選』。「閱べて」は集める、「再々」はだんだん進んでいくさま。
- * 和歌所の寄人……………宮中にある和歌についての事務を行う役所の職員。
- * 和歌の浦……………現在の和歌山市にある海岸。

問一 傍線部 i 「世を背きける人」、ii 「やさし」の問題文中での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

i 世を背きける人

① 出世を諦めた人 ② 他者を恨んでいる人 ③ 反骨心を持っている人 ④ 俗世を捨てた人

⑤ 人倫に背く人

ii やさし

① 感心である ② 心優しい ③ たやすい ④ 恥ずかしい ⑤ みつともない

問二 傍線部 A 「いづくより人は入りけむ真葛原 秋風吹きし道よりぞ来し」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① どこからともなく人は入ってしまったのだ、この真葛原に。秋風が吹く道から入って来てしまったのだろう。

② どんな方法で人は入れるだろうか、この真葛原に。秋風が吹いていった道を通って来るしかないのだ。

③ どこから人は入ってきたのだろうか、この真葛原に。秋風が吹いていった道を通ってやって来たのだ。

④ どんな場所からでも人は入り込んでしまうのだろうか、この真葛原に。秋風が吹いた道を通り、入ってしまった。

⑤ いつ頃から人は入り込んでしまうのだろうか、この真葛原に。秋風が吹く道を通って来ただけだというのに。

i 17
ii 18

19

問三 傍線部B「深き恨みの心の闇」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

20

- ① 人を迷いに導くため、真の道に入るには差し障りとなるもの。
- ② いくらかの間は人を迷わせるが、時が経てば解放されるもの。
- ③ 人を迷わせはするが、転じて真の道に入る契機ともなるもの。
- ④ 人を迷わせるが、真の道を志す信仰心で乗り越えられるもの。
- ⑤ 人に迷いをもたらすが、切り捨てず、抱えたままでもよいもの。

問四 傍線部C「たがはざりとおぼゆれ」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。

21

- ① 菊大夫長明は真の道に入り、仏の教えと違わぬ修行を實踐できているということ。
- ② 菊大夫長明が真の道に入れたのは、仏の教えによるものだと確信したということ。
- ③ 菊大夫長明は真の道に入ったことで、仏の教えが正しいと理解できたということ。
- ④ 菊大夫長明が真の道に入った経緯は、まさに仏の教えと合致しているということ。
- ⑤ 菊大夫長明は真の道に入って恨みが消え、仏の教えに違わぬ心を得たということ。

問五 傍線部D「沈みにきいまさら和歌の浦波に 寄せばや寄らむ海人の捨て舟」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

22

① 沈んでしまった海人の捨て舟をいまさら見つげ出せないように、和歌への情熱を蘇らせることができないという意の和歌。

② 海人の捨て舟のように波にゆられるばかりの頼りない自分が、改めて和歌所に戻ってよいのだろうかと思悩む意の和歌。

③ 沈んでしまった海人の捨て舟が浦に打ち寄せることがないように、ふたたび和歌所に戻ろうとは思わないという意の和歌。

④ 海人の捨て舟は沈んだあとも浮上しようと思えばできるが、自分はいまさら和歌所に戻ることはいできないという意の和歌。

⑤ 海人の捨て舟は波に乗って浦に寄せることもあるが、自分の心は沈んでいるのでもう良い和歌は読めないという意の和歌。

問六 波線部a「にけり」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

23

① 完了の助動詞「ぬ」の未然形に過去の助動詞「けり」の連用形が接続したもの。

② 完了の助動詞「ぬ」の連用形に過去の助動詞「けり」の終止形が接続したもの。

③ 断定の助動詞「なり」の未然形に過去の助動詞「けり」の連用形が接続したもの。

④ 断定の助動詞「なり」の連用形に過去の助動詞「けり」の終止形が接続したもの。

⑤ 格助詞の「に」に過去の助動詞「けり」の連用形が接続したもの。

⑥ 格助詞の「に」に過去の助動詞「けり」の終止形が接続したもの。

問七 空欄 I に入れる表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① あらまほし ② あらまほしけん ③ あらまほしけれ ④ あらまほしき ⑤ あらまほしかり

24

問八 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 菊大夫長明は和歌や管弦ばかりにかまけていたので社司になれなかったが、それを周囲の人々のせいだと考え、社会を恨むようになった。

25

- ② 方丈記という菊大夫長明が書いたものを見てみると、その冒頭は既存の文章が踏まえられており、心を打つ素晴らし
い一節となっている。

- ③ 菊大夫長明は大原の庵にも密かに琴や琵琶を持ち込んでいたが、管弦を楽しむ雅な時間が厳しい仏道修行に耐える心
の支えとなっていた。

- ④ 菊大夫長明は後鳥羽院から和歌所に戻ってくるように言われ、和歌は返したものの、そのまま鴨社に籠もり音沙汰が
なくなってしまう。

- ⑤ 世の中も人も恨むというならば、菊大夫長明のように開き直って思うがままに和歌や管弦を楽しんだほうが後世に名
を残すことが出来る。

問九 『方丈記』と同じ時代に成立した作品を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 更級日記 ② 万葉集 ③ 宇治拾遺物語 ④ 東海道中膝栗毛 ⑤ 伊勢物語

26

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「常にSNSで人とつながっている」という状況が、最近は何に顕著になつていっているのではないか……教員として若い人たちと接していると、そんなことをよく考えます。彼らは、常に人からどう見られるのかを気にしながら自分をとらえようとしています。自意識を他者によって絶えず刺激され続けているため、精神が徐々に消耗していくのも彼らの特徴です。このような状況に對し、他者の目を離れて自分の時間を過ごしてみよう、というのが単独者としてのあり方です。孤独という少しネガティブな印象がありますが、本来一人きりの時間というのは、人と離れて自分の内面的な豊かさを深めていく作業にあてられるべきものです。

日本では東日本震災以降、「絆^{きずな}」という言葉があらゆるところでスローガンとして使われ続けてきました。震災があつた後は顕著に団結が求められ、協力しない人間は少し非人間的だと見なされてしまうような同調圧力がありました。絆はキーワードとしては見事な力強さをそなえた一字で、その見事さゆえに瞬く間に浸透していきました。そのためか、一人きりでいるだけで、絆を拒否しているように見られてしまう面もあつたのではないのでしょうか。〔ア〕

さらに、この数年の間にSNSが異常な勢いで広がつたことで、一人の時間を侵食するようになりました。特に若い人にとっては、コロナ禍であつても一人でいることが、ほぼ不可能になつてきているように見えます。例えばSNSを一時間使わないで放つておくと、仲間との連絡の輪から外れてしまうかもしれないという不安を覚える。そうすると、他のことをやっても常にSNSが気になり、単独の豊かな時間を育む軸が失われてしまいます。またSNSをやっていると、普段は接点のない不特定多数の人からも、いきなりコンタクトが来ます。〔イ〕

この状況は、自分の中に「自分を監視する他者の視線」を内在化することにもつながります。これはミシェル・フーコーが『監獄の誕生 監視と処罰』という本で分析していることです。当時、功利主義者のベンサムが考案した刑務所の様式に、展望監視システム(パノプティコン)というものがありません。真ん中に監視塔があつて、そこから囚人たち一人ひとりを見ること

ができる一方で、囚人たちからはその監視塔にいる監視者の姿を見ることができません。そうすると「常に監視されている」という意識が囚人に根付いてしまって、実際には監視されていない状態であっても、監視の視線を内面化して自分自身をコントロールしてしまいます。それをフーコーは自発的服従と呼びました。〔ウ〕

フーコーが言っているのは、そのような監視が刑務所だけではなく、社会のあらゆる所で行われているということです。今で言えばSNSが相互監視のシステムとなり、気が付かないうちに私たちは自発的服従をしています。SNSはコミュニケーションの道具ですから、本来なら一方向的なものではありません。他人にいいねと思われたい、あるいはリプライなどで他人に嫌な思いをさせたくない、他者に対して常に意識を持ち続けることで、他者の視線を内面化してしまいます。そしてそれが今、豊かな単独の時間を阻害する大きな要因になっています。〔エ〕

私自身が最も孤独と対峙した大学院時代には、まだSNSはなかったわけですが、それでも「友だちは多いほうがいいに決まっている」という **I** のような共通認識が周囲にはありました。友だちと会っていない、もしくは親しい友だちが周囲にいない状況下でも、自分自身を保つ術を身につけなければいけませんでした。〔オ〕

その柱の一つになったのが仏陀の呼吸法です。村木弘昌先生の本に『釈尊の呼吸法』があります。そこに書かれているやり方はシンプルで、まず自分は一人でここにしていると自覚します。他の人の目があつてここにいるのではなく、ここにただいる。そしてサイのように、ズツ、ズツと、一人だけで進んでいくイメージと呼吸法をセットにします。ここで言われているサイとは「犀の角のようにただ独り歩め」という仏陀の言葉から取られています。呼吸法は主にアナパーナサチと言われているもので、鼻から吸って口からゆっくり吐いていくのを基本にします。

一人きりになって神経が興奮していると、焦りが生じます。他の人はどんどん先に行っているのに、自分だけこのまま足踏みしていいのだろうかと思つて、一人でいるのに手に汗がにじんできってしまう。そこで、息を鼻から吸って口から吐いていくことによって、その緊張を解いていきます。それは、他者の目を自分自身に内在化する習慣をやめていくことです。

仏陀は、執着や欲望を捨てなさいと説いています。あらゆる面倒なことは執着によるものだから、執着さえ捨てれば穏やかに

暮らせますよと。例えば、人に認められたいという名誉欲や存在認知欲に駆られて何かをし続けていると、自分で自分に満足することができなくなります。人に自分の存在を認めてもらおうとすることが、他者に依存する心の弱さにつながります。そういう状況を、もし仏陀が見たとしたら、「SNSを今すぐやめて、人の視線を内面化し続けるのをやめなさい」と言うでしょう。執着から離れると、だんだん無駄な欲望も減っていくので、自分も楽になっていきます。一人でいる状態なのに、満ち足りて穏やかさがあるというのは、単独者としてかなりいい状態だと思います。

ところが、そこに焦りがあつて世の中に対する恨みが強くなると、良くない意味で孤独な状態になります。ですから、青年期は結構、孤独に陥りやすいと思うのです。大学院時代の私の場合は考え続けた末に、何か偉大な他者と自分を重ね合わせることで、その孤独感を和らげました。例えば、旧制高校の学生に林尹夫はやしたおさんという方がいて、学徒出陣の時の手記を『わがいのち月明に燃ゆ』という本に残しています。彼は一人で出陣しますが、その中でもなお勉強し続けます。死ぬ間際まで好きな勉強をするために、ドイツ語や色々な外国の言葉も勉強します。そういう人に自分を重ね合わせていくことで、大事な問題を他の人と共有しているような精神的な連帯感を覚えることができます。自分の身の回りの人間ではなく、過去の偉大な人から見いだせる精神の系譜というものがあると思います。そうすることで豊かな気持ちでいられる。それが読書の良さなのです。

メンタルを正常に保つ、もしくはメンタルを強くするために、読書は非常にすばらしいものです。優れた人がゆつくりと語ってくれる言葉に共感する。自分の心のエネルギーを大事にしないと、それが

II

してしまっていることに気が付かない。

それを充電する時間が必要です。携帯電話やスマホも充電が必要ですが、私たちにとつての電力に当たるものが、偉大なる他者なのです。身の回りの他者は、どちらかというと嫉妬心があつて、他の人の足を引っ張ろうとする小さい存在です。ところが、過去の偉大な人は、もっと大きな視点で物を言ってくれます。そういうものを読んで共感すると、身の回りの些事さじがあまり気にならなくなります。

今は、誰が何を言ったとか言つて、それを徹底的に叩く風潮がネットにあります。それは不

III

でないということは視野が狭いということ。もう少しゆつたりと自分は自分として生き、他の人があれこれ

ていても、自分とあまり関係ないことについては気にしないという生き方がいいと思います。ニーチェも『ツアラトウストラかく語りき』という本の中で、孤独の風に吹かれると言っています。一人きりになれ、単独者になれ、つるむのをやめると繰り返し言うわけです。

^F本を読むことの価値は、そういうことだと思ふのです。読書は基本的に単独で行うものですから、自然に単独者になれる。しかも孤立とは異なります。必ず精神は深くつながり合っています。身の回りであぶくのように消えていくコミュニケーションではない領域から、本を通して偉大なる人物が人生の最深部をつかんだ言葉を送ってくれることで精神のつながりが強固になります。そして、自分自身の精神に栄養を送ることで豊かな精神の森ができる。つまり、心を偉大なる他者の森にすることが読書の醍醐味だいごみです。

単独者であるということは、ただ一人ではないのではなく、そこに知性があるということが非常に重要なのです。

(齋藤孝「仏陀に学ぶ、単独者としての作法」による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

[注] *ミシェル・フーコー……フランスの哲学者、思想家(一九二六～一九八四)。権力と知識の関係と、そのふたつが社会制

度を通じてどのように社会の統制に用いられるかなどについて論じた。

*村木弘昌……医学博士(一九二二～一九九二)。呼吸法と健康に関する著作を多数出版している。

*釈尊……仏教の開祖である釈迦の尊称。

*林尹夫……学徒出陣により二三歳で戦死した京都大学の学生(一九二二～一九四五)。

*ニーチェ……ドイツの哲学者(一八四四～一九〇〇)。『ツアラトウストラはかく語りき』は、一八八三年から一八八五年にかけて発表された。

問一 問題文からは次の文章が欠落している。補うべき箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

それは、いわば都会の雑踏を自宅に持ち込むような緊張感を伴う状況です。プライベートな空間や心の中に雑踏を持ち込んだら、それは落ち着かないでしょう。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 傍線部A「単独者としてのあり方」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① 同調圧力に屈することなく他人の要求を拒絶し、自分一人の時間を死守する。
② 自分には関係のない社会の問題には背を向けて、自らの意思を貫き続ける。
③ 人にどう見られるのかを気にすることなく、孤独に精神的な豊かさを養う。
④ SNSの利用を双方向的な交流に限定し、時間を上手く使えるように努める。
⑤ SNSの人間関係から解放されるために、読書によって一人の時間を確保する。

問三 傍線部B「SNSが相互監視のシステムとなり、気が付かないうちに私たちは自発的服従をしています」とあるが、それはどういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

① SNSは本来一方向的な交流の道具ではないにもかかわらず、他者の視線を恐れるあまり自主的な発言を控えてしまふこと。

② 単独者として行動することが望ましいにもかかわらず、常にSNSのことが気になってしまい自由な時間が奪われてしまふこと。

③ 孤独と適切に向き合うことが重要なにもかかわらず、SNSが大衆化したことで複数の人間に関わる必要が生じたこと。

④ 常に注目されているかもしれないと他者に意識を向け続け、SNS上の評価を無意識のうちに気にして主体を形成してしまふこと。

⑤ 自らの意志に基づく行動が人間らしさを担保するにもかかわらず、無自覚のうちにSNSの規範に基づき行動してしまふこと。

問四

空欄

I

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

① 同調圧力

② 全展望監視システム

③ 自発的服従

④ 存在認知欲求

⑤ 精神的な連帯感

問五 傍線部C「もし仏陀が見たとしたら、「SNSを今すぐやめて、人の視線を内面化し続けるのをやめなさい」と言うでしょう」とあるが、筆者はなぜ仏陀がそのように述べると考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 誰かに自分の存在を認めてほしいという思いを増幅させてしまうSNSは、執着や欲望と切り離せないから。
- ② あらゆる面倒事を発生させ、孤立を希求する思いを妨害してしまうSNSは、執着や欲望と切り離せないから。
- ③ 他人に依存し、自分で自分を承認する生き方の確立を妨げてしまうSNSは、執着や欲望と切り離せないから。
- ④ 孤独な人生のあり方を妨害し、他者とのつながりを強制してしまうSNSは、執着や欲望と切り離せないから。
- ⑤ 孤独に生きる自分を肯定したいという願望を現実化してしまうSNSは、執着や欲望と切り離せないから。

問六 傍線部D「良くない意味で孤独な状態」とは、どのような状態か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 自分に満足することができず不満を抱いている状態。
- ② 他者との精神的連帯が全て断ち切れてしまっている状態。
- ③ 自らの欲望に忠実で面倒事に巻き込まれている状態。
- ④ 自らの能力を高めることに執着するようになった状態。
- ⑤ 自らに好意的で承認してくれる他者のみに依存する状態。

32

31

問七 空欄 II に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 漏電
- ② 飽和
- ③ 枯渇
- ④ 萎縮
- ⑤ 失墜

33

問八 傍線部 E 「偉大なる他者」とはどのような人物か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 仏陀のような偉人の思想を解説することで、先達の教えを教授してくれる人物。
- ② 嫉妬心や欲望から解放され、勉学を通じて心を柔軟にした結果、精神的豊かさを得た人物。
- ③ 普遍的な人間としての生き方を説き、現代の風俗に熱中する人たちを戒めてくれる人物。
- ④ 現代人が抱える問題の打開策を示唆し、世界問題の解決にまで思考を広げてくれる人物。
- ⑤ 孤独な境遇に置かれようとも時代の状況に左右されず、自らの意思を貫いた人物。

34

問九 空欄 III に共通して入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 健全
- ② 均衡
- ③ 誠実
- ④ 愉快
- ⑤ 寛容

35

問十 傍線部F「本を読むことの価値」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

36

- ① 身近な小さな他者に振り回されず、偉大な他者と精神的紐帯ちゆうたいを結ぶことができる。
- ② 自らの卑俗さを自覚し、名誉欲や嫉妬心、存在認知欲求を捨て去ることができる。
- ③ 多角的な視点を持ち、孤立の中で単独者としてのあり方を深めることができる。
- ④ 周囲の人たちの反応に一喜一憂することなく、独立独歩で行動できるようになる。
- ⑤ 行動に必要な活力を得て、周囲の人と良好な関係を保つことができるようになる。

問十一 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。(マークする選択肢番号の順序は問わない)

37

38

- ① SNSは双方向的なコミュニケーションを阻害するため、交流の道具としては使用すべきではない。
- ② 常にSNSが気になるという状態は名誉欲や存在認知欲求から生じているため、無欲になる必要がある。
- ③ 呼吸法は他人と自分を比較してつい焦ってしまう心を落ち着かせ、自らを孤独に順応させる方法である。
- ④ 面倒事は自らと関係のない物事に介入することから生じるため、臨機応変な対応を心がけるべきである。
- ⑤ 良い精神状態を保つうえで読書が有効なのは、物事を大きな視点から捉えられるようになるためである。
- ⑥ 呼吸法や読書を通じて単独者としてのあり方を構築するためには、孤独を恐れない知性が必要である。

2026 年度 入学試験問題

一 般 入 試 前 期
〔 3 教科型 ・ 2 教科型 〕

2 月 5 日

第 3 限

国

語

〔 現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く） 〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 23 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 37 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

環境問題・南北問題は、「われわれ」の問題である。だが、われわれはまだまだもっとも大きな意味でわれわれではない。「すべての人」という意味で「われわれ」ということはまだできない。地球の裏側の飢えた子どもは、まだわれわれの一員ではない。自分^Aの子ども、とまで行かないのはもちろん、自分の町に住む他人の子とまでも思えない。

同様に「人類」もまだ実感のない単なることばだ。自分が人類の一員であることは頭では理解できる。

I、そのこと

は地球の裏側の人類の子どものために行動することは結びつかない。われわれがネコと同じ哺乳類の一員であっても、それでネコに何らかの義務を負うとは考えないように、人類の一員であることで遠い国の人に何かの義務を負うとは思っていない。単なることばでしかない「人類」の実体を作り出すことが、これからの課題だろう。すべての人間は、事実としてすでに「運命共同体」の中にいる。これを実感の基礎にすることができるはずだ。

生物種としてのヒトは神だから自然だけが造った。日本人は、歴史が造ったというべきか。すでに「人」は、われわれのアイデンティティの一部として無視できない重みをもつ。そして、日本人同士の間には一定の連帯感がある。これも考えてみれば奇妙な話かもしれない。生まれてから一度も会ったこともなく、これからも会う可能性がない人のことでも、それが日本人である場合には、外国人の場合とは別の感覚をもたらすのだから。それを思えば「人類」がアイデンティティの一部となり、責任意識をカ^aンキすることはありえない話ではないかもしれない。そして、いまは自然にそういう実感ができあがるのを待っている時間はない。自分を人類の一員として考え、すべての人の未来が分かちがたくつながっていることを意識し、力を合わせなければ、環境問題・南北問題を解決することはできないだろう。その認識を土台として、人類という意識・アイデンティティを創り出さなければならないのだ。

人類という意識を創り出すための第一歩は、II的に聞こえるかもしれないが、その意識を拒否することを認めることもかもしれない。人は必ず死ぬ。永遠に生きることができない以上、いたずらに死を恐れていても無意味だ。重要なのはどのよう

に死を迎えるかである。このような言い方は、ごく常識的なものに思われる。ところが、「人類は滅亡する。永遠に存続することができない以上、いたずらに滅亡を恐れてもしかたがない。重要なのはどのように滅亡するかである」という主張は、一見奇妙に思われる。なぜだろうか。

自分が生きている間に滅亡するのが困るというのは当然だ。だが、環境問題で人類が滅ぶとしても、それは現世代のことではないだろう。自分の死後に滅亡する場合はどうか。自分がもはや存在しないときに人類が滅亡することを恐れる必要があるだろうか。自分が死んだ後はどうなろうと知ったことではない、というのは身勝手な主張に聞こえるかもしれない。だが、身勝手であることはそれだけでは別に悪いことではない。少なくとも個人の自由を尊重する世界においては。

問題なのは、身勝手かどうかということではなく、われわれの多くはそう考えないだろう、ということだ。われわれは通常自分の死後に対しても関心をもつ。葬式や墓のことを遺言に書き残す者は少なくない。生命保険のような制度の存在は、死後のできごとへの関心が宗教的な理由からだけではないことを示しているといっていだろう。われわれは、自分が死んだ後は家族や友人がどうなってもいいとは思わない。自分にとって大切な存在が自分の死後も幸福でいられるということは、われわれの関心事であり、われわれが生きている間の幸福にかかわる問題なのである。

では、このことは人類滅亡を恐れる十分な理由になるだろうか。しかし、人類が滅亡すること、人々が不幸になるということは同じではない。どの人間も永遠に生きることができない。したがって、自分の死後に関心をもつとしても、自分にとって重要な人間がいつか死ぬことそのものを恐れる必要はないし、また恐れても意味がない。すべての人間が幸福に天寿をまっとうした結果として人類が滅亡するとしたら、それは **III** 喜んで求めるべきことといえるはずだ。

こう考えてみると、われわれがほんとうに恐れている、また恐れるに値するものがなにかわかる。それは、自分や自分にとって重要な者が暴力的に人生を中断されることである。滅亡ということばがそれを連想させるために、人類の滅亡がなにかしら恐ろしいことのように思われるのだろう。実際、「環境危機」に対して適切な対応をしなかったために滅亡するとしたら、多くの者の人生の暴力的中断を伴うことはほぼ確実だと考えられる。しかし、それは滅亡の唯一のあり方ではない。すべての人が幸福

に人生を終えるということは、理論的に可能である。

環境問題なんて自分には関係ない。自分が死んだ未来に人類が滅亡してもいっこうに構わない。資源の節約なんかしないで豊かに生きたい。——そう考えることは、間違っていない。消費的・キョウラク的な生き方は、現代社会において不道德とは言えない。「人間を人間として尊重する」ことが重要であるなら、考え方の違う人びとと共に生きることも重要だ。

IV

、説得しようとすることは悪くない選択だ。

人類は滅んでもいい。人類存続は神の命じた絶対善ではない。そのことをまず認めたらうえて、自分の死後も、人類の一員として人の世がなお続くことを願うかどうか、つまり未来を選ぶかどうか、を自由に選択すればいい。未来への責任はその選択に基づく責任として構成することができる。なお、未来への責任と人類への責任は、ここでは同じことだ。人がすべて死に絶えても、地球は残るだろう。われわれが選ぶ未来は、人のいる未来だ。

未来は選んでも選ばなくてもいい。その選択をするシステムを「逆しまの箱船」と呼ぼう。旧約聖書のノアの箱船は、神が選んだ人に乗せた。こんどの箱船にはすべての人がすでに乗り合わせていて、降りる人を選ぶ。未来を選ぶことにともなう負担を引き受ける者だけがこの船に乗り続けることになる。未来をホウキし、人類の一員であることを拒否する人は、未来のための負担を負わなくていい。

負担をするのがイヤだから、ほんとうは未来を選んでいるのに形だけホウキする者が出るのでは？ ——これは、いわゆるただ乗り (free rider) 問題だ。いちおう対策はしておいたほうがいいかもしれない。しかし、この選択に関しては、あまり意味がないように思う。なぜなら、未来の選択は、そもそもそういうセコイ発想とは相容れないからだ。狭い意味で自分だけが得をすればいいという人は、そもそも未来を選ばないだろう。自分が死んだ後の話であり、自分が得をできるといふ話では全くないのである。

ただし、ぜんぜん得にならないかというと必ずしもそうではない。遠くの国で死んでいく子どもたちの命を救うことができたら、あなたはうれしくないだろうか。他者の不幸は自らの幸福を損なう、ということなんだかきれい事のように聞こえるかもしれ

ないが、決してそれは V な心情ではない。われわれがそうした心性をもっているのは、たぶんわれわれが集団の中で集団にイソ^dンして生きる生物だからなのだろう。

「自分さえよければ他人はどうなってもよい」という個人で構成されている集団は、集団としての力が弱く、他の集団との競争の中で淘汰^{たうた}されてしまう、というの^Eはありそうな話だ。だから、生き残った集団の一員(の子孫)であるわれわれは、他者の不幸を悲しむという「能力」を備えているの^Eだろう。

二一世紀はすべての人びとと共に生きる世紀になるか、すべての人と共に死ぬ世紀になるのかもしれない。他者へのハイリヨ^oを伴う「正しさ」は、そのための行動のルールであり、われわれが生き延びるための戦略として考えることができる。思いやりが生き延びるチャンスを増やす。正しくなければ、生きていけない。

(小林和之^{こばやしかずゆき} 『おろかも』の正義論)による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *旧約聖書のノアの箱船……旧約聖書の創世記に登場する、神の命令でノアが造った巨大な船のこと。神が大洪水を起こ

した際に、ノアとその家族、あらゆる種類の動物のつがい^{つがい}が乗り込み、人類と動物を滅亡から救ったとされる。

問一 傍線部 a、e と同一の漢字を使うものを、次の各群の ①～⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a b c d e

a カンキ

- ① 劇団にカンユウされる
 ② 書籍をカンコウする
 ③ 現金とコウカンに品物を渡す
 ④ 戦いに勝利しカンキに満ち溢れる
 ⑤ 国会で証人をカンモンする

b キョウラク

- ① 書道を学生にキョウジュする
 ② ギターのザンキョウが大きすぎた
 ③ キョウネン八〇で永眠した
 ④ 彼の人生観にキョウカンする
 ⑤ 江戸時代のキョウカの本を読む

c ホウキ

- ① 内部キヤクに違反する
 ② この仮説はキキヤクされるべきだ
 ③ キソンの設備を活用する
 ④ 法律の草案をキソウする
 ⑤ 友人の雑誌にキコウする

d イソン

- ① 友人のイライを引き受ける
 ② 相手のイコウを確かめる
 ③ 死体をイキする
 ④ ヘイイな英語で説明する
 ⑤ 彼の意見にイゾンはない

e ハイリョ

- ① 力士をハイギョウする
 ② 利益をハイブンする
 ③ 全権大使をハイメイする
 ④ 不良品をハイジヨする
 ⑤ 茶の湯やハイカイを楽しむ

問一 傍線部A「すべての人」という意味で「われわれ」ということはまだできない」とあるが、それはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

① 南北問題を「われわれ」の問題と捉えることが作り出せないために、地球の裏側にいる子どもを自分たちと同じ「人類」と認識する意識が作り出せていないから。

② 「われわれ」ということは、すべての人がつながっていることを前提に使用されておらず、「すべての人」を示す実感を伴うことばになっていないから。

③ 「われわれ」ということはの想起させる範囲が自分の町に住む他人の子どもまでである現状では、地球の裏側の子どもまでを自分と同じ存在と捉えることは難しいから。

④ 「すべての人」に他人の子どもすら入らない現状では、飢えた子どもを「われわれ」とみなすことはできず、「われわれ」ということばにその現状が表れているから。

⑤ 「われわれ」と言うことはできても、遠い国で飢えている子どもに対して責任を負わないことばは、責任の実感に乏しいむなしなことばにすぎないから。

問三

空欄

I

III

IV

に入ることはとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ選べ。(同一記号の反復使用は不可)

① つまり

② だから

③ もちろん

④ むしろ

⑤ だが

⑥ では

I

7

III

8

IV

9

問四

空欄

II

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

10

① 説得

② 絶対

③ 一般

④ 逆説

⑤ 断定

問五 傍線部B「われわれの多くはそう考えないだろう、ということだ」とあるが、われわれの多くはどのように考えると筆者は捉えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

11

- ① 自分が死んだ後でも、人類が幸福に存在し続けることを願う人を増やすことが重要だ。
- ② 自分が死んだ後まで、死後の扱われ方などを遺言で指示するのは身勝手だが仕方がない。
- ③ 自分が死んだ後に、自分の大切な人が不幸になるのは耐えられないので、人類の滅亡が恐ろしい。
- ④ 自分が死んだ後に、家族や友人などの大切な人々だけでも幸せであってほしいと願ってしまう。
- ⑤ 自分が死んだ後でも、自分にとっての大切な人たちが幸福であるかどうか気がかりだ。

問六 傍線部C「人類が滅亡するということが、人々が不幸になるということは同じではない」のはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

12

- ① すべての人が滅亡したとしても環境問題への対策を適切に行えば、幸福に人生を終えることは可能であるから。
- ② 自分以外の人間を尊重する精神を養うために、滅亡という死への恐怖をおおることばかりが使われているだけだから。
- ③ 環境問題に適切に対応すれば滅亡を先延ばしにできるので、人類が滅亡することを必要以上に恐れる必要はないから。
- ④ 暴力的に人生が途絶させられてしまう滅亡への選択を行ったとしても、幸福な終末を迎えることは可能であるから。
- ⑤ 大切な人の人生が暴力的に中断することがないように環境にハイリヨすることで、不幸を軽減することができるから。

問七 傍線部D「未来を選ぶ」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① すべての人間が「運命共同体」の中にいることを理解し、「人類」というアイデンティティを作り上げること。
- ② 人類がたとえ滅亡したとしても、地球だけは存在し続けられるように環境問題について適切な対応を行うこと。
- ③ 人類の一員であることを自覚し、自分の死後を生きるすべての人たちが最後まで生き延びられるよう努めること。
- ④ 自分だけが得をすればよいという風潮を戒め、自分の大切な人が自分の死後も幸福でいられるよう努力すること。
- ⑤ 貧困と飢餓の撲滅を希求し、いま現在飢えた子どもたちのために、自分の生活の豊かさをある程度あきらめること。

問八 空欄 V に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

14

- ① 不変
- ② 適当
- ③ 重要
- ④ 凡庸
- ⑤ 特殊

問九 傍線部E「生き残った集団の一員(の子孫)であるわれわれは、他者の不幸を悲しむという「能力」を備えている」のはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

- ① 他者の不幸を悲しむことで、自分の死を悲しんでくれる人が他の集団のうちから出てくることを期待しているから。
- ② 他者への思いやりがない集団が淘汰されるのであれば、生き残った集団は他者を思いやる能力を有するはずだから。
- ③ 生き残るためには、所属集団が生存する確率をあげ、他の集団ではなく自分の集団のみを考えることが重要だから。
- ④ 他者を思いやることは、他の集団を淘汰しつつ自分の集団を生き延びさせるうえで結果的に必要となる能力だから。
- ⑤ 正しくなければ生きていけない時代においては、集団内で生きていく際の礼儀として必要不可欠な能力であるから。

問十 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

16

- ① 個人の自由は尊重されるべきだが、人類と未来への責任を果たさないことは環境問題が深刻化する現代社会において身勝手な考え方であるため、非難されるべきである。
- ② 他者の不幸は自らの幸福を損なうという考え方はきれいな事のように聞こえるため、未来への責任を担う人を増やすために用いる方便としてははなはだ不十分である。
- ③ 「われわれ」という言葉があらゆる人を包摂していると実感されるとともに、その感覚がすべての人に共有されるよう努めることが、未来に向けての正しい選択である。
- ④ 地球と人類の未来を度外視し、自分の幸福しか考えない身勝手さは人類という集団のあり方を弱めてしまうが、多様性を尊重するために、ひとつの考え方として容認するべきである。
- ⑤ 人類と未来への責任を果たすか否かを選択する権利は保障される必要があるため、他者を尊重するという正しさは地球を存続させる戦略としてしか用いることができない。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

《平清盛と後白河法皇の対立が深まる中で、清盛は京都から福原への遷都を強行した。以下は、その後の福原での出来事である。》

福原へ都をうつされて後、平家の人々夢見もあしう、常は心さわぎのみして、変化の物どもおほかりけり。ある夜入道のふし給へるところに、一間にはばかり程の物の面いできて、のぞき奉る。入道相国ちつともさわがず、ちやうどにらまへておはしければ、ただぎえに消えうせぬ。岡の御所と申すは、あたらしうつくられたれば、しかるべき大木もなかりけるに、ある夜大木のたふるる音して、人ならば二三十人が声して、どつとわらふことありけり。これはいかさまにも天狗の所為といふ沙汰にて、ひきめの当番となづけてよる百人ひる五十人の番衆をそろへて、ひきめを射させらるるに、天狗のあるかたへむいて射たる時は音もせず、ない方へむいて射たるとおぼしき時はどつとわらひなどしけり。

又あるあした、入道相国帳台よりいでて、妻戸をおしひらき、坪のうちを見給へば、死人のしやれかうべどもが、いくらといふかずも知らず、庭にみちみちて、うへになりしたになり、ころびあひころびのき、はしなるはなかへまろびいり、中なるははしへいづ。おびたたしうがらめきあひければ、入道相国、「人やある、人やある」と召されけれども、をりふし人も参らず。かくしておほくのどくろどもが、一つにかたまりあひ、つぼのうちにはばかりなるほどになつて、たかさは十四五丈もあるらんとおぼゆる、山のごとくになりけり。かの一つの大頭に、いきたる人のまなこの様に、大のまなこどもが、千万いできて、入道相国をちやうどにらまへて、まだたきもせず。入道すこしもさわがず、はたとにらまへて、しばらくたれたたり。かの大頭、余りにつよくにらまれ奉り、霜露なんどの日にあつて消ゆるやうに、跡かたもなくなりけり。

其外に一の厩にたてて、舎人あまたつけられ、朝夕ひまなくなかはれける馬の尾に、一夜のうちに、ねずみ巢をくひ、子ぞうんだりける。これ

I

にあらずとて、七人の陰陽師にうらなはせられければ、おもき御つつしみとぞ申しける。

『平家物語』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。

〔注〕

* 福原……………現在の兵庫県神戸市。

* 変化の物……………姿を変えて化けてあらわれるもの。

* 入道……………平清盛。入道相国も同じ。

* 岡の御所……………福原に作られた御所。

* ひきめ……………やじりの一つ。そのやじりを付けた矢のことも言う。

* 帳台……………貴人の寝所。

* 坪……………中庭。

* 十四五丈……………丈は長さの単位。一丈は約三メートル。

* 厩……………馬を飼っておく建物。

* 舎人……………使用人。

* 陰陽師……………吉凶の占いなどを行った役人。

問一 傍線部 i 「ははかる」、ii 「をりふし」の問題文中での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

i ははかる

① 圧迫する

② 点在する

③ 密集する

④ いっぱいになる

⑤ はみ出す

i 17

ii 18

ii をりふし

① 偶然にも

② 運が悪いことに

③ ちょうどその時

④ しばらくの間

⑤ いくら待っても

問二 傍線部 A 「しかるべき大木もなかりけるに」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

19

- ① 御所の造営に用いる大木も不足していたのに
- ② 御所の景観にふさわしい大木はなかったのに
- ③ 樹齢を重ねた趣のある大木に欠けていたのに
- ④ 倒れるような大木など生えていなかったのに
- ⑤ 天狗が住処すまかとするような大木はなかったのに

問三 傍線部 B 「これはいかさまにも天狗の所為といふ沙汰にて」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。

20

- ① これはもしかすると天狗の仕業かもしれないということ
- ② これは天狗をよそおった人間の仕業であろうということ
- ③ これはきつと天狗の仕業に違いないであろうということ
- ④ これは人を騙だまそうとする天狗の仕業であろうということ
- ⑤ これは恐ろしいことに天狗の仕業と思われるということ

問四 波線部 a 「射」、b 「る」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

a
21

b
22

a
射

- ① ア行上一段活用の動詞「射る」の未然形
- ② ア行上二段活用の動詞「射る」の連用形
- ③ ヤ行上一段活用の動詞「射る」の未然形
- ④ ヤ行上二段活用の動詞「射る」の連用形
- ⑤ ワ行上一段活用の動詞「射る」の未然形
- ⑥ ワ行上二段活用の動詞「射る」の連用形

b
る

- ① 動詞「おぼゆ」の連体形の活用語尾の一部
- ② 動詞「おぼゆる」の語幹の一部
- ③ 完了の助動詞「り」の連体形
- ④ 自発の助動詞「る」の終止形
- ⑤ 係助詞「る」
- ⑥ 格助詞「る」

問五 傍線部C「どつとわらひなんどしけり」の主語は誰か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

23

- ① 平家の人々
- ② 一間にはばかり程の物
- ③ 入道
- ④ 天狗
- ⑤ ひきめの当番

問六 傍線部D「おびたたしうがらめきあひければ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

24

- ① おどろおどろしい様子でしゃれこうべが襲いかかってきたので
- ② しゃれこうべが大声で入道相国に向かって騒ぎはじめたので
- ③ 入道相国としゃれこうべが取っ組み合っつてごろごろ転がったので
- ④ 多くのしゃれこうべが庭中でがらがらと音を立てていたので
- ⑤ 入道相国としゃれこうべの視線が絡んでにらみあいとなったので

問七

空欄

I

に入れることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

25

- ① そらごと
- ② ひがごと
- ③ さること
- ④ よしなしごと
- ⑤ ただごと

問八

問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

- ① 入道相国が体調をくずして伏せていたところに、何かの顔が現れて入道相国を覗きこんだ。
- ② 岡の御所で大木が倒れる音や大勢の笑い声したのは、平家の者を憎む天狗の仕業であった。
- ③ 天狗を仕留めるために昼夜を問わず攻撃をしたところ、半分以上の天狗を射ることができた。
- ④ 無数のしゃれこうべが固まってできた大頭と入道相国とは、静かなにらみあいを繰り広げた。
- ⑤ 大切に飼育されていた馬の尾にたった一晚でねずみが巣を作ったことだけは、吉兆とされた。

問九

『平家物語』より先に成立した作品を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 太平記
- ② 雨月物語
- ③ 徒然草
- ④ おくのほそ道
- ⑤ 大鏡

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ウエルビーイングの捉え方のひとつに、「能力」との関係で定義しようとするものがある。たとえばミハイ・チクセントミハイは、人々が強い喜びの中で活動に没頭する「フロー」の状態に注目し、それは「心的エネルギー——つまり注意——」が、現実の目標に向けている時や、能力が挑戦目標と適合しているときに生じる」と論じた。岩壁をよじ登る登山家、海峡を横断しようとする長距離泳者、試合の最中にあるチェスプレイヤー……要するに、重要なのは「挑戦」である。自分の能力に見合った目標が設定され、それを達成しようとして全人格を集中させているとき。そのようなときに、人は幸福を感じるというのだ。

挑戦は、言うまでもなく失敗の可能性を前提にしている。もちろん、フローのただ中にある本人は、自分が失敗するかもしれないなどということは考えないだろう。困難な状況を「統制している」という現実^Aではなく「統制できるはずだ」という感覚^Bこそが、フローを生み出すからだ。とはいえ、低すぎる目標に対して人は没頭できない。I 的に見て失敗する可能性を含んだ状況こそが、その人の II 的な能力を引き出し、フローをもたらさしめるのだ。

だが、この「I 的に見て失敗する可能性がある」という判断と、「きつとできるはずだ」という本人の III 的な感覚は、必ずしも常にうまく棲み分けられているとは限らない。私はこれまで、さまざまな障害の当事者と関わり、インタビューを行ってきた。そこでしばしば目にしてきたのは、彼らが挑戦する機会を奪われる姿だった。

「危ないからやめたほうがいい」。「きつと失敗するからやめてあげよう」。そんな周囲のバナーナリスティックな関わり——もちろん周囲は善意のつもりで介入しているのだが——が、障害の当事者をますます無力にしていく。彼らはいとも簡単に「失敗する権利」を奪われてしまうのだ。何かに挑戦しようとする、先回りしてリスクの芽が摘まれてしまう。それはつまり、幸福を享受するチャンスの少なくとも一部を剥奪されるということに他ならない。

この問題にアプローチするための第一歩は、能力を定義しなおすことではないかと私は思う。従来、能力は個人に属するものだと考えられてきた。しかしそのような定義に固執する限り、私たちは「能力主義」^Bの呪縛にとらわれ、硬直したものをさして人

の優劣を判断する視点から逃れることができない。そして、「できないこと」や「でき方が違うこと」の持つ意味や価値を見落とし続けるだろう。

丹野智文たんのともみさんは、若天性アルツハイマー型認知症の当事者だ。宮城の大手自動車販売店に勤務し、トップセールスマンとしてバリバリ働いていたが、三十代の終わりに診断を受けた。丹野さんは「毎日が失敗だらけ」と笑いながら言う。「だって会社に行ってもさ、自分の上司が誰だかわからないんだよ」。

でも診断を受けた当初は、そんなふうには自由には失敗できなかったと言った。駅で降りたもののどこにいるかわからなくなり、パニックを起こして泣いてしまったこともあった。そんな状態から、丹野さんの認知症との付き合い方の模索が始まる。その模索とは、何よりも「失敗できる環境づくり」だった。その出発点は、「まず自分から言う」。できることとできないことを、あらかじめ周囲に伝えておくのだ。伝えておけば、まわりから「この人は失敗する可能性があるからやめさせよう」という先回りの判断を下されずに済む。丹野さんは言う。「自分から言っていくこと。まわりが勝手に決めつけるから、できることとできないことを自分から言っていくことが一番の環境づくりだよ」。

そもそも、一口に認知症といっても、その原因も、症状の出方も、人によってさまざまに異なる。だからこそ、自分の特性を共有しておくことが、要らぬ周囲の介入を防ぐためには肝要である。

丹野さんの主な症状の特徴は、顔がわからなくなること、物忘れがあること、文字が認識できないときがあること。認知症当事者で訴える人が多い空間認知機能については今のところ問題がない。このうち顔がわからなくなる症状は、人間関係にダイレクトに影響する可能性があるのが重大だ。上司がわからなくなるのもそれが原因だし、一度会った人の顔も忘れてしまう。表情はわかる。でも丹野さんいわく、「顔がずれる」のだそうだ。

でも丹野さんは、そのことで人間関係を傷つけたことは一度もない。なぜなら、自分は忘れる可能性がある、ということを知りながら生きていくからだ。「初めて会ったときも、『ごめんね伊藤さん、次に会ったときは忘れてるからね。声かけてね』って。そう言うっておけば、どこかで会ったときに『

IV

V

』ってまたふつうになるでしょ」。

丹野さんの「失敗できる環境づくり」のポイントは二つある。言うまでもなく、一つめは周囲に対して「できることを伝える」こと。二つめは「できないことを伝える」ことだ。

このうち「できることを伝える」は、冒頭で述べた「挑戦」につながる。丹野さんは、認知症の人が怒りっぽいように見えるのは、本人はできるつもりでやっているのに周囲が待ってくれず、自立を奪われているからではないか、と言う。たとえば、丹野さんがある認知症の家族の会に行くと、家族が当事者のお弁当を持って来てあげて、ふたを開けてあげて、箸を割ってあげて、「はい、食べなさい」と言うのが当たり前であったという。家族は優しさのつもりでやっている。けれど、それが本人の前向きな気持ちをくじく結果になっている。「助けてって言うてないのに助ける人が多いから、イライラするんじゃないかな」。

当事者の苛立ち^{いらだ}は、彼らがウエルビーイングとは対極の状態にあることの証拠に他ならない。丹野さんは言う。「みんな心配しすぎて、失敗しないようにしてるんだよね。そうすると成功体験がない。成功体験がないから、またやろうという気にならな。い。それなのに、今の日本の支援は『失敗させないようにどうするか』なんですよね。失敗して何がだめなんだろうっておれ思ってたね。ふつうの人でも失敗するのに、何で障害者は失敗しちゃだめなのかなって」。

けれども「能力の再定義」という観点からすると、より **VI** なのは二つめのポイントだ。すなわち、「できないことを伝える」。なぜならこれは、周囲の人の適切な介入を引き出すことになるからだ。結果的に立ち上がるのは、個人ではなく、人と人のネットワークの中で実現する「できる」のあり方である。たとえば、丹野さんにとって覚えていることが難しい「顔」。「次に会ったときは忘れてるから」とあらかじめ言うておくことで、相手の「次に会ったとき」の出方を引き出すことができる。丹野さん自身が忘れてしまっても、周囲が丹野さんのことを覚えていけば、そして丹野さんは忘れるかもしれないということがわかっているれば、人間関係にヒビが入ることはない。

丹野さんは言う。「思い出さなくてよくない？ それなのに何で思い出さなくちゃいけないのかな」^E。何とも大胆な提案である。認知症という、「思い出す」能力の低下だと思われがちだ。しかしそもそも私たちが生きていくうえで、少なくとも個人の能力という意味での「思い出す」は、必要不可欠のものではないのではないか。むしろ、なくてもよい能力なのではないか。

そう丹野さんは言うのだ。

言われてみれば確かにそうである。関係者全員が覚えていなければならない情報や出来事なんて、実際には限られている。一部の人が記憶にとどめていさえすれば、必要なときに、その人の知識をみんなで共有すればよいのだから。手帳にメモしておけば済むことだってある。「私が覚えている」ではなく、「みんな覚えていて」でよいのだ。

別の言い方をすれば、忘れることが「困ったこと」と判断されるのは、その背後に「誰でも（努力すれば）記憶できるはずだ」という強固な価値観があるからだ。「記憶できるはず」「覚えていて当たり前」。そんなスタンダードがあるから、「相手の顔と名前を忘れるのは失礼」なのだし「昼ごはんに食べたものを忘れるのはおかしい」ことになる。

丹野さんの「ぼくは覚えていられない」という宣言がもたらすのは、まさにこの「覚えていて当たり前」という価値観に対するゆさぶりである。健常者の視点で作られた社会のルールや常識をいったん離れ、ここではちょっと別のルールや常識で動いてみてはどうだろう。丹野さんの宣言は、単なる丹野さんの「できなさ」に関する情報の共有ではない。それは周囲の人々に、^F視点をスイッチすることを促しているのだ。丹野さんは言う。「なんかみんな覚えてなくちゃいけないという前提があるからおかしくなってるんだと思うんですよ。もうこの人は忘れるんだという前提でつきあってくれば問題ないと思うんだよね。前の日のことも、忘れちゃったら忘れちゃったでよくて、そこからまたやればいい。発想の転換だけなんですよ」。

丹野さんがここで言う「発想の転換」とは、言うまでもなく「私が覚えている」から「みんな覚えていて」への転換だ。丹野さんが積極的に「穴」になる。この穴が、そこに向かって周囲の人の関わりが呼び込まれる場となり、ネットワークの中で記憶を実現しようとする価値観のスイッチが生まれるのである。

そもそも人が発揮する能力なんて、誰と一緒に仕事をするかによって大きく変わるものだ。引き出してくれる人がいなければ、潜在的な能力も目覚めることがない。それを個人の所有物のように扱うことの方にこそ無理があると考えるべきだろう。そのことを丹野さんは思い出させてくれる。

（伊藤亜紗「予防から予備へ」による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある）

〔注〕 *ウエルビーイング……………身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。

*ミハイ・チクセントミハイ……………ハンガリー出身の心理学者（一九三四～二〇二一）。

*若年性アルツハイマー型認知症……………六五歳未満で発症するアルツハイマー型の認知症。

問一 空欄 ・ ・ に入ることばの組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥から一つ選

べ。

- ① I 潜在 ・ II 主観 ・ III 客観 ② I 潜在 ・ II 客観 ・ III 主観
- ③ I 客観 ・ II 潜在 ・ III 主観 ④ I 客観 ・ II 主観 ・ III 潜在
- ⑤ I 主観 ・ II 潜在 ・ III 客観 ⑥ I 主観 ・ II 客観 ・ III 潜在

28

問二 傍線部 A 「パターンリスティックな関わり」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

- ① 数多くの経験を積んできた者が、経験則から導き出した結果予想を絶対視しながら関与する。
- ② 強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益のためだとして本人の意志を問わずに関与する。
- ③ 保護者の立場にいる者が、被保護者の将来の自立のためにあえて厳しい態度で関与する。
- ④ 表向きは協力的な姿勢を示す者が、口とはうらはらに平然と悪意を剥き出しにしつつ関与する。
- ⑤ 障害者の身内の者が、周囲とのトラブルを回避するために当事者の希望を顧みず関与する。

29

問三 傍線部B「能力主義」の呪縛」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

① 能力を有する健常者の観点からしか物事を捉えられず、障害者にもできることはあるのだという寛大さを欠落してしまふ。

② 人の価値は能力の多寡によって決まると信じ込み、人によってさまざまな能力の違いがあるということに理解が及ばない。

③ 能力を備えた個人をたたえる価値観に縛られ、個人に属さない別の能力のあり方について想像を働かせることができない。

④ 能力というものを狭い範囲でしか認識できず、できないことも能力の一つであるという柔軟な発想に辿り着くことがない。

⑤ すべての個人に能力は備わっていると無前提に考えて、能力のない人に対しても過剰な期待を寄せて負荷をかけてしまふ。

問四 傍線部C「自由には失敗できなかった」とあるが、具体的に何ができなかったというのか。その説明として最も適当なもの

のを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

31

① この人は失敗しても許してあげたいという周りの同情を得て挑み続けること。

② 周囲の評価を気にせずにごんごん結果になろうとも主体的に挑戦できること。

③ たとえ失敗してしまったとしても人目をはばからず堂々としていられること。

④ 自分の特性を事前に周囲と共有して過度の介入がない状態で挑戦すること。

⑤ 失敗を続けているうちにいつかは成功するだろうと前向きでいられること。

問八 傍線部E「何とも大胆な提案である」と言うのはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

35

- ① 否定的に受けとられがちな認知症患者の特性を、むしろ一人ひとりの個性として理解してはどうかという発想に意外性を感じたから。
- ② 記憶する力など要らないという主張にまったく卑屈さがなく、かえって威厳を感じるほどであることに尊敬の念を覚えただから。

③ 「思い出さなくてよくない？」は強弁だとしても、この言葉をきっかけに障害者支援を変えられることができるような気がふとしたから。

④ 個人的な能力の低下と見なされがちな認知症の特性を、周りとの関係性の中で解決できるという自由な発想に意表を突かれたから。

⑤ 認知症患者は社会的弱者であるという通念は当事者にとって自明ではなく、気持ちの持ち方次第でどうにでも変えられると思ったから。

問九 傍線部F「視点をスイッチすること」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

36

- ① 個人で覚えているという当然という価値観を、人的ネットワークで記憶を共有するという価値観へと転換させる。
- ② 健常者の常識で作られた堅固な社会のルールを、障害者の常識によるルールへと全般的に転換させる。
- ③ 記憶を個人任せにするのではなく、事前に組織的に分有しておくべきものだという常識へと転換させる。
- ④ 一度忘れてしまったこともまたそこから再開すれば問題ないと、構成員全員の認識を転換させる。
- ⑤ 障害者個人の失敗や不応と理解されてきたものを、社会集団の機能不全という共通理解へと転換させる。

問十 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

37

- ① 自分の能力に見合った目標を設定し、それに全人格を集中させることがウェルビーイングへの最短の道である。
- ② 障害者への善意の介入すべてが幸福を享受する機会を奪っていることに、世の多くの人は未だ自覚的でない。
- ③ 認知症家族による「失敗しないように」という気遣いは、かえって失策を助長して当事者を苛立たせている。
- ④ 認知症患者はあらかじめ周囲にできることとできないことを伝えることで、成功体験を得ることが可能になる。
- ⑤ 個人的な能力の欠如だと思われることが、認識次第で協働のネットワークを産み出す起点にもなり得る。

2026年度 入学試験問題

一般入試前期
〔3教科型・2教科型〕

2月6日

第3限

国

語

〔現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く）〕

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は24ページである。
- 3 解答番号は1から34までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

おそらくみなさんも若いころに習ったはずの「評論文の読解」を思い出してください。^a サンコウ書^aによっては、文の構造を一目で理解できるように、例文のなかでの連関構造を図示して浮かび上がらせていたりします。なかにはキーワードを目立たせるために楕円形や四角で囲んだり、それぞれの語のつながりを明示するために線で結んだりするものもあるでしょう。文章のなかに相関図のようなものを書くわけですね。

私の場合、大学でカントの『純粹理性批判』とかハイデガーの『存在と時間』という難しい書物のドイツ語ゲンテン^bを読み解く際にも、そういう手法はかなり役に立ちました。たとえば代名詞からその指す名詞へのつながりを鉛筆で記して強調してみたりします。文を構成する要素の間のリンクを明示することで「文の構造分析」を容易にして、意味内容の把握に努めるわけです。最低限の構造なら、英語で憶えさせられた文型(構文)を思い出せばいいでしょう。一文のなかで構文が見えるのが読解や執筆の基本です。それを出発点にして別の仕方での関連の発見へと思考を広げていくのです。

その際に接続詞が重要なのは言うまでもありません。フランス語では論理的結合子^cといって作文では非常に重要視されますし、さらに命題論理学や述語論理学を思い浮かべるなら、それがほとんどこの結合子などの話であることもわかるはずです。「論理学はいくつかの接続詞や否定詞や普遍詞(すべて)等の語の使い方の規則である」と言えます。こうした接続というつながりに関する語の重要視は古代ギリシアからの伝統です。文と文とがただ無規定な順序で次々とつながるのではなく、アーチの石のようにお互いに支え合っているように書くことが重要、たという意識がその時代から明確にあったのです。

日本でそういうことがあまりうるさく言われないのは、日本語による表現は、文と文との間の関係を明示するというより、独立した文をいくつも連ねていくことで表わす感じが強いからでしょう。しかも、逆接の意味をもつ接続詞であるはずの「が」や「けれども」などが、その意味を弱めて発言をただら続けるためだけに用いられることもよくあります。

文章を書く場合に、そんな仕方では接続詞などを無意識的に使うと良い文章にはなりません。見境もなく「が」を使うと、書い

た当人は力んでいるのに文章のほうは起伏に乏しい平板なものになってしまいます。文の構造が曖昧になってしまうのです。

さて、こういう視点から逆に平板ではない見事な散文を眺めると、単語そのものの選び方や接続詞などによる文のつながり、さらには文章全体の構成のすばらしさなどが当然のことながら浮かび上がります。それが具体的にはどういふものであるのかを少しずつ見ていきましょう。(つながり)が散文の力を生み出す姿を見定めるためにです。

フランス人の教師から「同じ単語を用いるのはできる限り避けて、同じ意味を持つ別の単語や言い換えを使って、文章を書くことをしっかりと学びなさい」と授業のときに言われたことがあります。

I 「パリ」という都市名を使ったら次には

「このフランスの首都」という記述的な言い換えで表わすといったことです。この例は、一定の年齢と教育スィジョンに達した人たちにとっては、両者の指す対象がほとんどあからさまに同じなので何の問題もないはずですが、この二つの表現のつながりは、いわば初歩的な教育によって習得されています。(ア)

ではフレーゲという人が使った次の例はどうでしょうか。「明けの明星」と「宵の明星」とは(記述の意味)としては違うけれども(指し示す対象)は同じ金星だという例です。「パリ」と「このフランスの首都」はほぼストレートにつながります。けれども「明けの明星」と「宵の明星」とはどうですか。それがともに金星であることを知らない人もいるかもしれません。ということは、両者を指示対象として同じだとするには「明けの明星」と「宵の明星」という言葉の意味を理解するのは少々違つた、言葉が指す対象についての最低限の天文学的知識が必要なのです。

そうだとすると、関連する語をきちんと意識して文章を読み解く際も、また書く際にも、それなりの知識が前提とされるということがわかります。そうでないと語と語との間の(つながり)が見えない場合があり、それらの語をうまく使えないかもしれないのです。(イ)

いまの二つの例は、ある言語表現の指し示す対象が同じという場合の、その対象がそれほど問題もなく見つかる場合です。

(ウ)

たとえば「愛」と「恋」とは同じでしょうか。つまり同義語(同意語)でしょうか。「同じだ」という人もいるし「違う」とい

う人もいます。「あれっ、違うの？」とうろたえる人もいたりします。「好き」というのはすごく「恋」に近い気がするけれども「愛」はなんだかそれよりも少し遠い気がするという人はいませんか。少なくとも私はそんな語感をもっています。〔E〕

金星のように具体的なものとして、「愛」とか「恋」という言葉の指し示す対象が存在していて、それらが同じかどうかを検討することはできるでしょうか。プラトン主義ふうのアイデアでも前提としないかぎり、そんなことが簡単にはできそうにないですよ。指示対象に寄りかかるような仕方では、いま掲げた二つの言葉の意味が「同じ」だと言えそうにありません。ここでは、言葉の指し示す対象を探すというよりも、「愛」と「恋」という言葉についてあなた自身がどのように考えるのかが問われているのです。同義語かどうかは自分の考える内容、言うなれば思想に依存するわけです。〔オ〕

これほど基本的と思える言葉についてもこうしたジジョウ^dなのですから、ある人が文章を書き他人がその文章を読み解くという場合に微妙なズレが生じかねないのは当然です。そういうズレを引き受けて私たちは文章を読み、また書かなければなりません。そもそも隣の人が〈このバラはなんて見事な赤さをしているのだろう〉と言ったとして、その隣の人の〈見事な赤さ〉の知覚とあなたがそのバラについてもつ知覚とが同じかどうかを確かめることなんて **II** のですから。〈赤い〉というとても具体的な言葉を使っている場面でも、あなたがあなたであるかぎり、別の人がどのようにその事態を知覚し理解しているかなど確かめる術はないのです。

いずれにせよ、他人が書いた文章を読むときには、その人がある語と別の語とをたとえば「同義語」のように理解しているかどうかを、推測を交えてあなた自身が判定を下しながら読み解いていく作業が必要なわけです。 **III** 、そのつながりに

ついて〈普通はそのようにつながっているものだ〉という社会的・一般的な理解もありうるわけで、その理解を正しく取り出せるかどうかを問うこともできません。評論文に関する問題を解くという場合には、そういう類の読み解きが基本にあります。言い換えれば、読解に関する何らかの枠組みというつながりがあらかじめ設定されているのです。いや、それがなければ母語を流暢^Eにしやべることすらできないでしょう。言語の使用の際に則る決まりとしての国語がそこでは前提とされているからです。

しかしながら、文章を読解するということはそれで完結するわけではありません。既存の答えを前提とした問題に出題者の意

図に沿って答えるという場面はもちろんあるでしょうが、そうではない読解というのもありえます。言い換えれば、自分があえて問いを立てる(問題提起)ということにもっと注目すべきではないでしょうか。

(米山優『つながりの哲学的思考——自分の頭で考えるためのレッスン』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *カント……………Immanuel Kant(一七二四～一八〇四)。ドイツの哲学者で、『純粹理性批判』の著者。

*ハイデガー……………Martin Heidegger(一八八九～一九七六)。ドイツの哲学者で、『存在と時間』の著者。

*命題論理学や述語論理学……………いずれも論理学のなかの具体的な領域。

*フレイゲ……………Friedrich Ludwig Gottlob Frege(一八四八～一九二五)。ドイツの哲学者、論理学者。

*プラトン主義……………古代ギリシアの哲学者プラトンの思想を継承して、発展させた立場。

*イデア……………プラトン哲学の中心概念で、時空を超越した非物体的、絶対的な永遠の実在のこと。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

しかし普通の言葉ではそんなに簡単にはいきません。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 傍線部 a ～ d のカタカナと同じ漢字を含むものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a b c d

a サン|コウ

- ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
- ① 神|社にサン|パイする
 - ② 遊|歩道にサン|ポする
 - ③ 利|益をサン|シユツする
 - ④ 大|企業にサン|カに入る
 - ⑤ 相|手をシヨウ|サン|する

b ゲン|テン

- ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
- ① 唯|一のケツ|テン
 - ② 道|具のテン|ヨウ
 - ③ 作|文のテン|サク
 - ④ 将|来のテン|ボウ
 - ⑤ 世|紀のサイ|テン

c スイ|ジュン

- ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
- ① タン|ジュンな性格
 - ② 条|約にヒ|ジュンする
 - ③ 夜|間にジュン|カイする
 - ④ 法|律にジュン|キヨする
 - ⑤ ジュン|チヨウに快復する

d ジジ|ヨウ

- ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
- ① スジ|ヨウを明かす
 - ② リヨ|ジヨウに浸る
 - ③ キユウ|ジヨウに陥る
 - ④ カジ|ヨウに撰取する
 - ⑤ 玄|関をセジ|ヨウする

問三 傍線部A「評論文の読解」の具体的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

- ① 文の構造を一目で理解できるようにすることを目的として、外国語の文章を理解する際にのみ活用できる手法。
- ② 文のなかのキーワードを目立たせ、執筆者の主張や意図を少しでも正確に捉えようとする読者の基本的な資質。
- ③ 英語の文型をモデルとして、あらゆる言語の文章を読み、書物と書物の間にあるつながりを明らかにする思考。
- ④ 文の構造を分析し、意味内容を捉えるという点で、日本語でも外国語でも使える読解や執筆の基本となる方法。
- ⑤ それぞれの語のつながりやキーワードを目立たせる工夫を凝らし、文章の全体像を痕跡として残していく過程。

問四 傍線部B「起伏に乏しい平板なもの」とあるが、これはどのようなことを喩^{たと}えた表現か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 古代ギリシアからの伝統を強く意識した日本人によって書かれた結果、内容の正確さよりも論理的な接続が重要視された文章。
- ② 世間的な評価は高いとしても、文章構造を正確に見ていけば文と文の論理的つながりが破綻しており、意味が理解できない文章。
- ③ 接続詞が適切に使われているものの、逆接の意味である「が」が多用されることで文と文の間のリズムが単調になっている文章。
- ④ 逆接の意味の接続詞は避けて書かれている一方で、読者の興味を引き付けるような面白味に欠け、すぐに飽きられてしまう文章。
- ⑤ 書き手自身は真剣に執筆したつもりでも、文と文が論理的に接続されておらず、読み手からすれば内容が冗長になっている文章。

問五

空欄

I

・

III

に入ることはとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ
(同一記号の反復使用は不可)。

I 8

III 9

- ① または
- ② だからこそ
- ③ たとえば
- ④ もしも
- ⑤ 要するに
- ⑥ もちろん

問六

傍線部C「それらの語をうまく使えないかもしれない」とあるが、なぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

10

- ① 多くの言葉は言語表現と具体的な事物が対応しているが、専門用語のように抽象的な言葉についてはその限りではなく、使用者には言葉を論理的に言い換える技術が求められるから。
- ② 多くの言葉はほかの言葉に置き換えて説明することができるが、天文学に関する言葉だけは例外であり、指し示す対象についての知識がなければ誤った意味で使用できてしまうから。
- ③ 一部の言葉は意味内容の理解とは異なった知識の把握が前提となっており、文章の書き手は読み手の知識量を推定せねばならないが、それは正確に見定められるものではないから。
- ④ 一部の言葉は言語表現が異なっても同じ対象を指しており、その言葉がなにを指し示すのかという知識が使用する人になければ、正しい意味で使用できない可能性があるから。
- ⑤ 一部の言葉は〈記述の意味〉としては理解できたとしても〈指し示す対象〉がなにかは分からないようにできている、使用する人が独自の意味内容で用いることができてしまうから。

問七 傍線部D「思想に依存する」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 同義語だと判断するか否かは、言葉を使う各人の考える内容に基づいているということ。
- ② 同義語とするか否かの問題は、各自の考えを照らし合わせることで解決するということ。
- ③ 同義語として認めてよいか否かは、各自が前提とするイデアによって異なるということ。
- ④ 同義語という語感を持つか否かは、各自が置かれた言語環境によって異なるということ。
- ⑤ 同義語か否かが不確定な語は、その場の状況に応じて意味を決定すればよいということ。

11

問八 空欄

II に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

12

- ① 不見識でしかない
- ② 金輪際できない
- ③ 突拍子もない
- ④ 正攻法ではない
- ⑤ 一筋縄ではないかない

問九 傍線部E「母語を流暢にしゃべることすらできない」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを次の

① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。

13

- ① 文章を読むときには国語を理解の前提とすることができるが、対面して会話を行う状況では、その言葉を相手がどのように理解しているかが重要な意味を持つため、国語という枠組みがうまく機能しなくなってしまうということ。
- ② 言葉を使用するときに、自分と相手との間で共通の前提となる国語のような枠組みがなければ、相手が言葉をどのように理解しているかを一つずつ確認する作業が必要となり、日常の円滑な会話すら成り立たなくなるといふこと。
- ③ 言葉を使用する場合には、その語に対する社会的かつ一般的な理解が前提にできなければ、執筆や発言のたびに相手が意味を理解しやすいように配慮する必要が生じ、普段の会話ですら論理的に構成せねばならなくなるといふこと。
- ④ 国語という決まりに従って文章は書かれるが、それぞれの書き手が微妙に異なった言葉を用いる以上、読み手はそれぞれの意図を判定して読み解く必要がある、それを通して我々は慣れ親しんだ母語を見失ってしまうということ。
- ⑤ 言葉を理解するときには相手の理解を判定する作業が欠かせないが、そうである以上、即座に応答することが求められる母語の会話よりも、理解する時間を十分に確保できる文章の方が適切に意思疎通を行ってしまうということ。

問十 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

14

① 文章を読解するという営みには、文と文の論理的なつながりを読み、ただらだと続く文章を批判するという読み手主体の読み方がある一方で、書き手の意図に即して理解していくという書き手主体の読み方も存在し、一般的にはこれら二つが同時並行で展開されている。

② 文章を読解するという営みには、国語という決まりに従って一般的な理解に到達する方法だけでなく、書き手や出題者の意図に沿って理解するという方法もあり、前者と後者の違いは文と文の論理的なつながりに基づいて文章の構造を捉えていくか否かにあるといえる。

③ 文章を読解するという営みには、出題者や書き手の意図を探り、可能な限り論理的であることを目的とするものもあるが、一方で読み手があえて誤読を行い、書き手が意図していない意味を取り出すことで、文章の問題点を明らかにすることを目的とする場合もある。

④ 文章を読解するという営みには、決まった法則に則り、既存の答えにたどり着くことを目的とする方向があるが、一方で、読み手が書き手の言語理解を判定していく作業が必要な場合があり、さらには読み手が問いを立てる余地が残されていることにも注目してよい。

⑤ 文章を読解するという営みには、既存の答えを前提とした問題に出題者の意図に沿って答える行為が含まれ、これは論理を重視する古代ギリシアからの伝統を引き継いだものであるが、今後は読み手の問題提起に注目し、直感的な読解行為に価値を見出すべきである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

近きころ、奥州にある山寺の別当なりける僧、本尊を造立せむと年ごろ思ひ企て、金五十兩、守り袋に入れ、首にかけて、上洛しけるほどに、駿河の国、原中の宿にて、昼、水浴みける所に、この袋を忘れて、次の日の夕方、思ひ出だしたりけり。くちをし、あさましかりけれども力及ばず。「今は人の物にぞなりぬ」I。帰りて尋ぬともあらII「と思ひ、上洛して空しく下向せむも本意なくおぼえて、形のごとく本尊を造りたてまつりて下りける。

さて、原中の宿にて、下人に、「この家とこそおぼゆれ」など言ひて、見入れて通りけるを、家の中より、若き女人ありて、「何事を仰せらるるぞ」と言ふ。「上りの時、物を忘れたりしが、この御宿とおぼえ候ふことを申すなり」と言ふ。「何を御忘れ候ひけるぞ」と問ふ。その時、あやしくて、馬より下り、「しかじかの願を起こして、金五十兩入れて候ふ守り袋を忘れたり」と、ありのままにくはしく語れば、この女人、「わらはこそ見つけて候へ」とて、したためしままで取り出で、取らせければ、あまりのことにて、あさましくこそおぼえけれ。さて、「これは失せたる物にてこそ候へ。十兩は女房に参らせむ」と言へば、B「欲しくは、五十兩ながらこそ引き籠め候はめ。仏の御物なり。いかが少しも給はるべきか」と言ひければ、なかなかとかくの子細に及ばず。「下りの時、よくよく申すべき旨あり」とて、やがて上洛して、本尊思ふごとく造立して、下りさまに、この女人を尋ねて、「そもそも、いかなる人にておはするぞ。いかやうなることをして、過ぎさせ給ふぞ」などと、こまやかに語らひ聞きければ、「都の者にて侍るが、親しき者も皆失せて、縁につれて下りて侍るが、あからさまに思ひしほどに、この宿に一兩年住み侍り」と言ふ。Fさては、いづくも同じ御旅にこそ。いざさせ給へ。小所領など知行する身なれば、世間後見て給べ」と言へば、「承りぬ」とて、やがて具せられて下りて、世間後見て、楽しく心安く、当時までありと聞こゆ。

『沙石集』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある

〔注〕

*別当……………本来は、東大寺・興福寺・法隆寺などの大寺社の寺務を総括する者を指すが、ここでは「住職」の意。

*駿河の国、原中の宿……………現在の静岡県沼津市付近にあった宿駅。

*小所領……………少しばかりの領地。

*知行……………領地を治めること。

*世間後見て……………ここでは「財産を管理して」の意。

問一

空欄

I

II

に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

15

- | | | | | |
|---|---|-----|----|-----|
| ① | I | べけれ | II | じ |
| ② | I | べけれ | II | なむ |
| ③ | I | めり | II | なむ |
| ④ | I | めり | II | まほし |
| ⑤ | I | らむ | II | じ |
| ⑥ | I | らむ | II | まほし |

問一 傍線部A「しかじかの願」の具体的な内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

16

- ① 奥州にある山寺の別当として務めていること。
- ② 寺の本尊を造りたいと思っていたこと。
- ③ いつか都見物をしたいと夢見ていたこと。
- ④ 駿河の国、原中の宿で昼に水浴びをしたこと。
- ⑤ 翌日の夕方まで忘れ物に気づかなかったこと。

問二 傍線部B「あまりのことに、あさましくこそおぼえけれ」とあるが、これは誰のどのような気持ちを表しているか。最も

も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

17

- ① 誰かが盗んだに違いないと決めつけていた僧侶の愚かさに失望する語り手の気持ち。
- ② 無くした金銭は戻ってこないと諦めて早々に本尊を造った僧侶の短慮を諫める語り手の気持ち。
- ③ 拾った金銭を正直に持ち主に返そうとする女人の希有な行いを褒め称える語り手の気持ち。
- ④ 無くした金銭が盗まれることなくそっくりそのまま出てきた意外さに驚く僧侶の気持ち。
- ⑤ 無くしたと思いついていた金銭が出てきた嬉しさで胸のつかえが下りたような僧侶の気持ち。
- ⑥ 守り袋を見つけたのは自分だと手柄を主張する女人のあさましさに呆れる僧侶の気持ち。

問四 傍線部C「いかがが少しも給はるべきか」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 18

- ① ほんの少しでもいただいたほうがよいでしょうか。
- ② どうにかして少しでも差し上げるべきでしょうか。
- ③ どうして少しもいただくことができないのでしょうか。
- ④ どうしてほんの少しでもいただくことができますでしょうか。
- ⑤ どうすればほんの少しでもいただくことができるでしょうか。

問五 傍線部D「やがて」、E「あからさまに」の問題文中での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 D 19 E 20

- | | |
|---|--|
| <p>D やがて</p> <p>① 慌てて</p> <p>② そのまま</p> <p>③ 喜び勇んで</p> <p>④ しばらくして</p> <p>⑤ 名残を惜しんで</p> | <p>E あからさまに</p> <p>① 軽はずみなことと</p> <p>② 少し気を静めると</p> <p>③ ほんのしばらくと</p> <p>④ 突然のことで悲しいと</p> <p>⑤ 人目につかないようにと</p> |
|---|--|

問六 傍線部F「さては、いづくも同じ御旅にこそ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① それでは、いずれにせよ旅と同じような人生ではありませんか。
- ② つまり、あなたと私は同じく旅人ということではありませんか。
- ③ そういうことなら、行き先がどこであっても同じ旅ではありませんか。
- ④ このままでは、どこまで行っても同じ旅の繰り返しではありませんか。
- ⑤ ということは、いつ出発したとしても旅としては同じではありませんか。

21

問七 問題文の内容と合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ(マークする選択肢番号の順序は問わない)。

- ① 山寺の僧侶は、本尊を造るために用意した金銭を宿に置き忘れ、取りに帰ったが紛失していた。
- ② 原中の女人は、僧侶が宿に置き忘れた金銭の入った守り袋を見つけ、そのまま保管していた。
- ③ 山寺の僧侶は、女人が守り袋を差し出したことに感動し、十両を与えて妻とすることを申し出た。
- ④ 原中の女人は、親しい者も皆亡くなったため、都に上り所領の管理をして、楽しく心安らかに過ごした。
- ⑤ 山寺の僧侶は、原中の女人が守り袋を保管していたと聞いてすぐに女人を伴って下向し、所領の管理を任せた。
- ⑥ 山寺の僧侶は、途中の原中の宿で守り袋を紛失したため、結果として二度上洛し、二度本尊を造ることになった。

22

23

問八 『沙石集』と同じく鎌倉時代に成立した仏教説話集として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 今昔物語集
- ② 増鏡
- ③ 徒然草
- ④ 風姿花伝
- ⑤ 発心集

24

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人が数を数えるようになったのは、いつ頃のことなのだろうか？

「いつに二つのものがあります」

誰かが、そう言ったとしよう。このとき、どこに、いったいどのようなものがあるのかはわからないけれど、そこに差異があること、少なくともその言葉を発した人が、そこにひとつの差異を見出していることがわかる。「ア」

生まれたばかりの赤ん坊は、母と宇宙と文字通り一体で、その世界に差異はない。赤ちゃんにとっては母もまた自分自身であり、母乳も内から来るものとして認知されるという。一切の差異が生まれる以前の、端的な存在の充満の中を、赤ちゃんは全身で動きまわり、手や口で探索する。そこに触れる母の乳房の感触や、自分自身の皮膚の手触りを経験しているうちに、あるときふと、母が「私」ではない、ということに気付く。存在の海に差異の亀裂が走り、「私」と「世界」^Aとが立ち上がる。

数学では、まず1があり、それに2が続くけれど、人間の一生のはじまりにおいては、2と1とが同時に到来する。人はやがて世界に向かって、言葉を発するようになる。昼と夜が区別され、嬉しいと悲しいが分離され、こことあそこが呼び分けられるようになる。言葉はまた言葉を生み、差異がまた新たな差異を生む。こうして、世界の分節化は、留まるところを知らずに進む。

あるとき人は、数を数えはじめるようになった。

1、2、3、4、5、6、7、……

数は、無限の差異に、名前を与える。

身体が経験する世界は、

I

で曖昧だ。皮膚が感じる温かさと冷たさ、耳が聞き取る音の高低や強弱、全身で感じる喜

びや悲しみ……どれをとつてもそうである。この瞬間からは冷たいとか、いま喜びから悲しみに変わったとか、そういうはつきりとした境界があるわけではなく、弱い方から強い方へ、あるいは小さいものから大きいものへと、世界は徐々に、なめらかに

移り変わる。〔イ〕

一見 Ⅱ に思える「個数」の認識とて、その例外ではない。1億3000万の人がいると言ったり、111本のマッチ棒があると言ったりするのは、私たちが数を用いることができるからであって、数を媒介しない数量の経験は、もつとずっと漠然としている。111本のマッチ棒も120本のマッチ棒も、見た目にはおおよそ同じで、どちらも50本のマッチ棒に比べれば多くて、200本よりは少ないという、せいぜいそれくらいの認識ができる程度である。私たちが、個数の差異を厳密に把握できるのは、数の助けを借りているからであって、生来人間にその能力が備わっているわけではない。

数は、人間の認知能力を補完し、延長するために生み出された道具である。「自然数(natural number)」という言葉があるが、それは決してあらかじめどこかに「自然に」存在しているわけではない。「自然」と呼ばれるのは、もはや道具であることを意識させないほどに、それが高度に身体化されているからである。

(中略)

人間は少数の物については、その個数を瞬時に把握する能力を持っている。赤いものが赤いということがわかるのと同じように、二個のものは二個だとただちにわかる。心理学の世界で「サブタイゼイション(subitization)」と呼ばれるこの能力の背景にあるメカニズムはいまだ完全には解明されていないが、近年の認知神経科学の研究によると、三個以下の物の個数を把握するときには、それ以上の個数を把握するときとは違う、固有のメカニズムが働いているらしい。

人間は何らかの方法で、三個以下の物については、数えなくてもその個数を、正確に認識できるので。ところが、四個あたりを境にして、この能力は消えていく。見ただけで個数を把握することは難しくなり、数える必要が出てくるのである。〔ウ〕

たとえば、身体を使う方法がある。羊の群れがいる。見ただけでは何匹か分からないので、羊が一匹通るごとに、指を一本ずつ折り曲げていく。そうして、身体の助けを借りて、羊の数を捉える。残念ながら、指は両手で十本しかない。足の指を使ったとしても二十本だ。そこで、なんとか工夫をして、限られた身体で、少しでも多くの数を捉えようとする。

たとえばオーストラリアのヨーク岬とパプアニューギニアの間にあるトレス海峡諸島の原住民は、両手だけでなく、肘や肩、

胸や足首、膝、腰など、全身を使って33まで数える方法を持っている。中世ヨーロッパにおいては、両手の指を使って9999まで数える方法があった。しかし、身体の部位には限りがあるから、いずれにしても限界がある。

身体を使う代わりに、木や骨に刻みを入れて、数を数えたり、記録したりする方法もある。紀元前二万年前後のものとされるイシャンゴ遺跡(コンゴ民主共和国)からは、規則正しく切り傷をつけられた骨片が見つかっている。物の力を借りて数を数えようとしたり、遠い祖先の痕跡である。(一七)

紀元前三三〇〇年頃になると、シュメール人の手によって、世界で最初の文字が発明される。最古の粘土版には、シュメールの絵文字とともに、数を表すための記号がある。初期の文字はやがて、表意文字や表音文字に変わっていくが、数を表す記号は、そのための専用の記号として残った。こうして「数字」が誕生したのだ。

数字のデザインは文明ごとに多様だが、木や骨に傷をつけたり、粘土の塊を並べたりしていた延長線上で、1を表す記号を二個あるいは三個並べて2や3を表すのが基本である。それならば、4や5も、同じ記号を四個並べたり五個並べたりすればよいかというところ、そうはいかない。人間の認知能力の限界のために、同じ記号が四個や五個並んでいることを、正確に把握すること自体が一苦労だからである。そのままでは、道具としての使い勝手が悪い。

そこで多くの文明は、4もしくは5を境に、独自の記号を編み出すことにした。たとえば漢数字の場合には、一、二、三の次が「四」になる。ローマ数字も、I、II、IIIの次が「IV」になる。アラビア数字も、もともとインドから伝わった記数法で、2、3までは、漢数字の「二」や「三」に似た形を草書体で書いたもののが、「4」からはやはり新しい形になる。数字は

III、人間の認知限界に合わせるように工夫を凝らして設計されてきたのだ。

かくして身体の各部位や小石などの物、さらには外部メディアに記録された記号等を用いることで、**II** 数量を把握する人間の能力は、少しずつ拡張されていく。(一八)

数量の把握だけではない。身体や物をうまく使うと、数量を目的に合わせて操作すること(すなわち「計算」すること)もできる。誰もが小さい頃に、指を使って足し算や引き算をしていた時期があるだろう。あるいはソロバンを使って、指だけではでき

ない計算を、素早くできる人もいるだろう。

古代ギリシアやローマにも、「算盤(abacus)」と呼ばれる計算用の道具があった。大理石の石板にまっすぐ引かれた、何本かの線の上やあいだに小石を置いて計算をする仕組みである。英語の calculation(計算)はラテン語の calculus(小石)からきているが、それもこの時代の習慣に由来する。物を使った計算の弱みは、過程が消えてしまうことである。石をひとつたび並べ替える、もとあった位置関係は失われる。そこで数字を使って、計算の過程や結果を記録するようになる。

IV

と、

V

という、道具の役割分担が確立される。

実際、古代の数字は、計算そのものには使いにくい。たとえば、ローマ数字で計算することを思い浮かべてみてほしい。36は「XXXVI」、73は「LXXIII」、この表記を使って、どのように計算すると掛け算の結果「MMDCCXXVIII」(2628)が得られるか。試してみればそれがいかに厄介な作業かわかるだろう。ローマ数字だけではない。古代の数字はどれも、そもそも計算をするためには設計されていないのだ。

計算を物から解放し、「計算用の数字(＝算用数字)」を発明したのは、インド人である。七世紀のインドでは、いまや世界中に定着している「インドーアラビア式」の0記号を含む位取り記数法が、早くも導入されていたと言われている。それは決して自然の産物ではなく、気の遠くなるような試行錯誤の歴史を通して、徐々に形作られてきた人工物なのである。

(森田真生^{もりたまさお}『数学する身体』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

[注] *記数法……数を数字で表す方法。古くは個々の数に一つずつ数字をあてていたが、今日では、いわゆる「位取り」の考

えを用い、ごく限られた個数の数字ですべての数を表す方法がとられる。十進法、二進法など。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

25

そんな認知的な限界を補うために、人は様々な工夫を重ねてきた。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 傍線部 A 「人間の一生のはじまりにおいては、2と1とが同時に到来する」とは、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

- ① 生まれたばかりの人間にとっては、2も1もただの記号としての意味しか持ちえないということ。
② 生まれたばかりの人間にとっては、1の次に2が来るという数の法則は自明ではないということ。
③ 生まれたばかりの人間にとっては、周囲の環境が計量可能な差異として捉えられないということ。
④ 生まれたばかりの人間にとっては、人が数を数えるようになった歴史が理解できないということ。
⑤ 生まれたばかりの人間にとっては、母親の教育を経なければ数の違いが識別できないということ。

問三 空欄

I

II

に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、①～⑥のうちから一つ選べ。

27

- ① I 抽象的 II 集合的
- ② I 抽象的 II 離散的
- ③ I 断片的 II 集合的
- ④ I 断片的 II 離散的
- ⑤ I 連続的 II 集合的
- ⑥ I 連続的 II 離散的

問四

傍線部B「どこかに「自然に」存在しているわけではない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① 「自然数」という言葉の定義に反して、少数や分数といった数量で表しがたい事物もまた自然界には存在しているから。
- ② 「自然数」は数量とともに順序を表すものであるが、自然界には階層や順序というものが本来は存在しないはずだから。
- ③ 数量を捉える能力は人間に生得的に備わっており、その数字と人間との自然な関係性を表した用語が「自然数」だから。
- ④ 人間が直感的に捉えうる数の認識には限りがあり、それを補完するために人工的に生み出されたのが「自然数」だから。
- ⑤ 自然界には数という概念はそもそも存在せず、数学が記号の体系であることを覆い隠すための言葉が「自然数」だから。

問五 傍線部C「こうして「数字」が誕生したのだ」とあるが、その経緯の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 数の概念を発見したのはシュメール人であり、それによってようやく人間は物を数えることが可能になった。
- ② 人間は身体や物を使って数の記録を始め、次第にその役割を「数字」という文字に託すようになっていった。
- ③ 文字は表音文字と表意文字に次第に分かれていったが、そのいずれでもないものが「数字」として独立した。
- ④ 人間は瞬時に数を把握することが不可能なため、その情報の処理を正確に行うために「数字」を確立していった。
- ⑤ 人間は身体を使った複雑な計算方法を有していたが、それでは過程が記録されないので数を表す文字を発明した。

問六 空欄Ⅲに入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 千変万化
- ② 諸行無常
- ③ 温故知新
- ④ 付和雷同
- ⑤ 古今東西

問七 空欄Ⅳ・Ⅴに入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、①～⑥のうちから一つ選べ。

- | | | |
|---|-----------|------------|
| ① | Ⅳ 小石 | Ⅴ 算盤 |
| ② | Ⅳ 足し算 | Ⅴ 引き算 |
| ③ | Ⅳ 表意文字 | Ⅴ 表音文字 |
| ④ | Ⅳ โรม数字 | Ⅴ 古代の数字 |
| ⑤ | Ⅳ 計算の過程 | Ⅴ 計算の結果 |
| ⑥ | Ⅳ 物を使った計算 | Ⅴ 数字を使った記録 |

31

30

29

問八 傍線部D「徐々に形作られてきた人工物なのである」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①
⑤のうちから一つ選べ。

32

- ① 「自然数」という言葉に反して、数というものは人間の認知能力を補完するために生み出された人工的な道具であり、アラビア数字からローマ数字に記数法が変化していったということ。
- ② 「自然数」という言葉に反して、数というものは人間の認知能力を補完するために生み出された人工的な道具であり、数字はこれからもまた改良されてゆく余地を残しているということ。
- ③ 現在、世界中で定着している「インドーアラビア式」の計算方法は、ローマ数字で計算することが厄介であることに気が付いたインド人によって生み出されたものであるということ。
- ④ 現在、世界中で定着している「インドーアラビア式」の計算方法は、物や身体と結びついたものではなく、計算の過程や記録を残すために人類が発明した文明の産物であるということ。
- ⑤ 現在、世界中で定着している「インドーアラビア式」の計算方法は、自然界には存在しない0記号を含むという意味で、それまでの数の歴史を刷新する斬新な発想であったということ。

問九 問題文の内容と合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ(マークする選択肢番号の順序は問わない)。

33

34

- ① オーストラリア周辺に存在するトレス海峡諸島の原住民は、多量な数字も正確に記憶することができる特異な能力を有していた。
- ② 多くの文明で4もしくは5に独自の表記が用いられているのは、三個以上のものを瞬時に把握できない認知限界に対応している。
- ③ 赤ん坊は自分が母とは異なる存在だと気付いたのち、言葉を発することを通して周囲の環境や自分の感情を分節化していくようになる。
- ④ 現在はインドから伝わった記数法が一般的であるが、歴史を振り返れば文明ごとに数字の表記は異なっていて共通する性格はない。
- ⑤ 「算盤」と呼ばれる小石をおいて使用する古代の計算用の道具は、計算の過程や結果を記録しておくために発明された道具である。
- ⑥ この世界には数を媒介にしない体験などは存在せず、人間は感情や痛覚といった身体の経験もまた数値化することで把握している。

2026年度 入学試験問題

一般入試 後期

3月8日

第1限

国

語

〔現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く）〕

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は26ページである。
- 3 解答番号は1から36までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「自治」について考えようとする時に直面するふたつの困難がありました。

まずひとつめの困難は、いくら「自治」が大切だという話をして、自分たちの手で社会を変えられるという道筋を具体的に思い描くのが難しいという問題です。そもそも「自治」をするための力を私たちは失ってしまっているのです。そのような状況で、「自治」が大事だということだけを繰り返しても、あまり説得力がありません。「ア」実際、多くの人は「自治は大切だ」というお決まりのフレーズは聞き飽きていて、そんな厄介なものに参加するよりも自分個人の生活を重視したいと感じているのではないのでしょうか。

このことは、面倒な政治の意思決定は、AIやアルゴリズムに任せてしまえばいいという「無意識データ民主主義」の改革提案が注目されていることからわかるでしょう。人々の行動をビッグデータとして収集・分析すれば、大衆の無意識を可視化できる。このような無意識のデータの集合が示すもののほうが、たまにしかない選挙よりもよほど民意である。そう主張するのが無意識データ民主主義です。「イ」

けれども、無意識データ民主主義は、政治への意識的な参加をあきらめ、選択や決断に伴う責任から逃避してしまおうという提案にほかなりません。自分で政治に参加するよりも、AIやアルゴリズムに任せきりにできるならそのほうが楽だ、と多くの人が感じるからこそ、無意識データ民主主義は人気をハクしているのです。「ウ」そんな状況で、私たちは、はたして「自治」をする力を取り戻すことができるのでしょうか。

もうひとつの困難は、どのような「自治」をめざすべきなのか、定義するのが難しいという問題です。社会から遊離したカルト宗教団体であれ、インボウ論にまみれた政治団体や排外主義の差別団体であれ、ひとつの自治組織と言えなくはないでしょう。「エ」むしろ、カルトやインボウ論が広まってしまえば、民主主義の危機は深まることになってしまふ。だとすれば、私たちは、「良い」自治と「悪い」自治の区別をする必要があります。その基準とは、一体、何なのでしょう。

要するに、どうすれば「自治」のための力を取り戻し、そして、より良い「自治」の形をともにつくっていくことができるのか、という問題です。簡単ではない、この問いについて考察しながら、未来への道程を提示していきたいと思えます。

「自治」の力を取り戻すためには、現状の「自治」がどうしてこれほど弱体化しているのか、その根本原因をまず探らねばなりません。「才」私たちはなぜ、社会や政治についてこんなにも投げやりで、無関心な存在になってしまったのか、ということから考えていきましょう。

- i ところが、資本主義が広まっていくにつれ、労働者が持っていた知識が剥奪されていったわけです。
- ii マルクスによれば、資本主義社会のもとで進行する資本への「包摂」によって、人々は生産手段や生産能力を失い、他人の命令や監督にただ従うだけの存在になっていきます。
- iii 何をどうやって、どれくらいつくるのかを「構想」するのは資本の側になり、その際には、利潤獲得にとって最も効率的な方法へと労働が再編成されていきます。
- iv 資本主義以前の職人たちは、自らの経験に裏打ちされた知識をもとに、仕事の作業内容を「構想」し、自分たちで「実行」していました。

たとえば、モノを作る作業を単純な工程に細かく分け、分業していくと、ジュークレンジュークレンした労働者は不要になり、いつでも別の非ジュークレン労働者に置き換えることが可能になります。そして、労働者は、資本の「**I**」に沿って出される命令を「**II**」するだけの受動的な存在になっていくのです。

生産効率が向上する一方で、労働者たちの自発性は奪われ、画一的で単純な反復作業へと押し込められていく。この「**I**」と「**II**」の分離がもたらす労働者の馴化じゅんかは、産業革命以降の資本主義の発展を見つめていたマルクスが危惧していた事態でした。

このように「**I**」が資本の側に握られ、労働者が資本にからめとられてしまうことをマルクスは「**III**」と呼んだわけですが、この「**III**」は生産の次元に留まりません。

むしろ、資本の支配は私たちの内面にまでおよんでいきます。貨幣や商品に振り回される生活を当たり前のこと、それどころか望ましいこととして、内面化していく。これが「魂の**III**」です。つまり、資本主義のライフスタイルを積極的に受け入れ、その枠内で、自分の利益や効用を最大化しようとする人が増えていくのです。

再び過去を振り返れば、資本主義に社会がのみ込まれる以前には家族、地元、職場などのコミュニティを通じて、貨幣を媒介せずに実行できたことが、たくさんありました。入会地で山菜を採って料理をしたり、ほころびた衣服や壊れた道具などを自分の手で繕い、直す。田植えなど、ひとりではできないことは、みんなでやる。農村集落全体で道普請する。お裾分けもする。お祭りや町内会などの活動も、貨幣の力を使わない「自治」の取り組みです。

けれどもそこには、家父長制的な因習や年功序列や男女差別、村のしがらみなどが存在しており、**IV**、貨幣で何でも買える商品社会の到来は「解放」でもありません。日用品や嗜好品の買い物はもちろん、子育てから介護まで、あらゆる分野が商品化され、貨幣で手に入れられるようになったことで、生活が楽になった。その限りで資本主義を共同体のソクバクからの解放として「自由」だと感じるのも、自然なことではありません。

V、貨幣がもたらした個人の「自由」を絶対視していいのでしょうか。豊富な選択肢のなかから好きなモノ、便利なサービスを選ぶ、その「自由」に副作用があるとしたら、どうでしょうか。

いや、副作用どころか、私たちが直面しているのは、メニューにのっている選択肢から選ぶといった程度の、**レベ**ルの低い「自由」しか残されていないという問題です。ウーバーイーツで自炊のわずらわしさから「自由」になる、ルンバで掃除の負担から「自由」になる。でもそれは、「自由」になった気がしているだけ。実際には私たちはどんどん受け身になり、お金を払わないと料理も掃除もできない他律的な存在になってきている。これが問題なのです。

実際、自炊や掃除の負担から解放されて、空いた時間でやっているのは、残業やメールの返信。あるいは、スマホで次を買う

ものをリサーチしたり。その際にも、私たちは単に広告や口コミのアルゴリズムによって「おすすめ」されているものを、自分の意志だと錯覚して買うようになっていきます。

もちろん、お金がなければ便利なモノやサービスも手に入られません。だから、買えないストレスを溜め込み、「おすすめ」されたモノを手に入れるためにお金を稼ぐことに必死になる。自分で必要なものをつくる能力を失った私たちは、日々の生活のなかでの思考や振る舞いにおいても、「構想」する能力を失っていき、商品と貨幣にますます依存するようになっていく。

これが現代消費社会の姿なのです。そのような受動的で、他律的な人間に、民主主義や「自治」の自発的实践を期待するほうが無理筋というものでしょう。

〔注〕(斎藤幸平『コモンの「自治」論』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *アルゴリズム……コンピュータなどで、演算手続きを指示する規則・算法。

*無意識データ民主主義……経済学者・思想家の成田悠輔なりたゆうすけの提唱によるもの。人間の意識的な合意形成を前提とする現在の選挙制度の代わりに、無意識的なデータから民主主義社会を確立しようとする。

*マルクス……Karl Marx (一八一八～一八八三)。ドイツの経済学者・哲学者。

*入会地……一定の人々のあいだで共同で利用・管理している山野・漁場など。

*道普請……道路の修繕または開設をすること。道路工事。

*ウーバーイーツ……米国のウーバー社が立ち上げたオンラインフード注文サービス。

*ルンバ……米国のアイロボット社が開発したロボット掃除機。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

1

このことから分かるのは、必ずしもあらゆる「自治」が称揚されるべき存在ではない、ということ です。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 傍線部 a～d と同一の漢字を使うものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

a 2

b 3

c 4

d 5

a ハク|している

- ① ハク|マイを食べる
② ハク|ブツ館を訪れる
③ ハク|ジョウな人
④ ハク|シュを送る
⑤ シュク|ハク施設

b イン|ボウ

- ① ソン|ボウをかけた戦い
② ケツ|ボウを満たす
③ アイ|ボウと仕事をする
④ シュ|ボウ者を逮捕する
⑤ ヘン|ボウを遂げる

c ジュク|レン

- ① レン|キン術の研究
② レン|アイの相談
③ レン|カで購入する
④ レン|シュウの成果
⑤ レン|ラク網を作成する

d ソク|バク

- ① ソク|ドウを走る
② ソク|ドを上げる
③ ソク|バイ会を開く
④ ヘイ|ソク感を打破する
⑤ ニソク|三文の値段

問三 傍線部A「いくら「自治」が大切だという話をしても、自分たちの手で社会を変えられるという道筋を具体的に思い描くのが難しい」とあるが、その状況に対して筆者はこの問題文でどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

- ① 「自治」の大切さから社会を考えることは難しいので、別の形で民主主義の実現を目指している。
- ② 「自治」をめぐる現状の困難を指摘した上で、「自治」が弱体化している原因を探ろうとしている。
- ③ 「自治」の語源を辿り、「自治」という言葉の一般的なイメージを相対化しようとしている。
- ④ 「自治」が成立している具体的な例を列挙し、それが可能だった過去の社会を賛美している。
- ⑤ 「自治」を実践する難しさに言及しつつ、経済学や哲学を学ぶことの重要性を示している。

問四 傍線部B「このような無意識のデータの集合が示すもののほうが、たまにしかない選挙よりもよほど民意である」とあるが、多くの人々がそのように感じるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 選挙が一定期間ごとにしか実施されないのに対して、AIやアルゴリズムは都合の良いタイミングで民意を可視化してくれるから。
- ② 選挙では民意が政治家に阻害されてしまうのに対して、AIやアルゴリズムはそうした政治家の介入を不可能にするから。
- ③ AIやアルゴリズムは、さまざまな状況に応じて不安定に揺れ動く大衆の民意を都合よく管理してくれるから。
- ④ AIやアルゴリズムが析出した大衆の無意識は、投票に際する面倒な意思決定やその責任から解放してくれるから。
- ⑤ AIやアルゴリズムによる判断は、大衆を政治参加へと促し意思の表明をより円滑にするものとして機能するから。

問五 問題文中の i、iv の文をもとの順番に並べ替えたものとして最も適当なものを、次の ①、②、③、④、⑤、⑥ のうちから一つ選べ。

8

- | | | | |
|---|-------------------|---|-------------------|
| ① | ii ↓ i ↓ iv ↓ iii | ② | ii ↓ iv ↓ i ↓ iii |
| ④ | iii ↓ ii ↓ i ↓ iv | ⑤ | iv ↓ iii ↓ i ↓ ii |
| | | ⑥ | iv ↓ ii ↓ iii ↓ i |

問六 空欄 I、II、III に入ることはばの組み合わせとして最も適当なものを、①、②、③、④、⑤、⑥ のうちから一つ選べ。

9

- | | | | |
|---|------|-------|--------|
| ① | I 構想 | II 包摂 | III 実行 |
| ② | I 構想 | II 実行 | III 包摂 |
| ③ | I 包摂 | II 構想 | III 実行 |
| ④ | I 包摂 | II 実行 | III 構想 |
| ⑤ | I 実行 | II 構想 | III 包摂 |
| ⑥ | I 実行 | II 包摂 | III 構想 |

問七 空欄 IV、V に入ることはばとして最も適当なものを、①、②、③、④、⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

IV 10
V 11

(同一記号の反復使用は不可)

- ① だからこそ
② あるいは
③ しかも
④ しかし
⑤ たとえば

問八 傍線部C「自然なことではありません」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

12

- ① かつてはあらゆる分野のことが自己責任で担われていたので、資本主義が人々につながりをもたらしたと捉えるのは当然であるということ。
- ② 貨幣が浸透する以前には人々は自給自足を強いられていたため、資本主義が社会の飛躍的な発展を生み出したと考えるのは異論がないということ。
- ③ 村や家族などのしがらみから解放され、それまでの強制的な仕事から免責されたことを自由と受け止めるのは十分理解できるということ。
- ④ 「自治」の取り組みを貨幣で代替でき、好きなものを選択することが可能になったことを喜ばしく思うのは不思議ではないということ。
- ⑤ 貨幣でいつでも商品を手に入れることができるようになり、生産のわずらわしさから解放されたことを歓迎するのは当然であるということ。

問九 傍線部D「レベルの低い「自由」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 自由な選択をしているかに見えて、その実、商品として与えられた選択肢から選ばれているに過ぎないということ。

② 他者の声を聞くことができたコミュニティの下での選択よりも、むしろその幅が狭くなってしまっているということ。

③ 貨幣が浸透した結果、自身でモノを生み出す楽しさに目を向けにくくなり、本当の自由を忘れてしまっているということ。

④ 実際の選択の基準には貧富の差が存在しているので、自由な選択をしているかに見えて不自由であるということ。

⑤ 家族や地元や職場といったコミュニティの制限の下でこそ、それを打ち破ろうとする真の自由があったということ。

問十 傍線部E「これが現代消費社会の姿なのです」とあるが、筆者はこの社会をどのようなものとして捉えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① コミュニティのしがらみからは解放されたが、それによってかえって個々人が孤独を深めている社会。

② お祭りを自分たちで運営したり、食材をみずから調達したりといった、モノづくりの楽しさを忘れている社会。

③ 消費することを主体的な選択として捉えており、逆にそれによって支配されていることに気づいていない社会。

④ 全ての物事が貨幣によって置き換え可能であると信じ、お金には変えられない価値があることを自覚していない社会。

⑤ 多くの人々が「自治」の不可能性を自覚しており、「自治」を可能としていた過去の社会に憧れを抱いている社会。

14

13

問十一 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

① 資本主義の発展に警鐘を鳴らしたマルクスによれば、労働者の生命が資本家の一存で操られてしまうことこそが問題であった。

② 資本の支配が内面に及ぼす影響とは、モノを作る作業を単純化することで、労働者からその技術が失われてしまうことを言う。

③ 「自治」を考える困難は、資本に包摂された私たちが生産能力のみならず、あるべき社会を構想する能力すら失っていることに起因している。

④ 社会から遊離した自治組織は、民主主義の危機を引き起こすため、「自治」と呼ぶべきものには当てはまらない。

⑤ お祭りや町内会などといった活動は、因習や年功序列などのしがらみが存在したため、「自治」にはふさわしくない。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

昔、中納言にて左衛門の督かけたまふ人おはしけり。妻二人定めたまふ。一人は時めく諸大夫の御娘とも聞こゆる、この御腹に姫君二人おはします。いま一人は古き帝の御娘にて、よろづになべてならぬ人にてぞおはしける。

いかなる宿縁にてか、この中納言通ひたまふ。やがて人目もつつまぬことになりて、通ひたまふほどに、光るほどの姫君いできたまひけり。宮姫などと聞こえ、思ひのままなれば、たぐひなくおぼしかしづきたまひけり。

かくて年月を経るほどに、姫君七歳といふに、母宮、例ならず悩みたまふ。日を経て重くのみ見えたまひければ、母宮申されけるは、「我なからん後までも、この幼い者、人並み並みならんふるまひ、せさせ

されければ、中納言うち泣きて、「我も同じ親なれば、劣りてやは」など、語らひたまひて明かし暮らすほどに、この世ははかなく定めなき所なれば、情なく昔語りになり果てにけり。中納言、「我も同じ道に」と悲しみながら、後の世どもさるべきやうにして、四十九日も果てぬれば、もとの北の方へ渡りたまひぬ。

この姫君、幼き御心にも故宮の御事のみ悲しみたまひて、中納言渡りたまひぬれば、いとどつれづれ限りなく、二葉の小萩の露重げなれば、御乳母とかく慰めまるらせて過ぎはべりけるほどに、中納言常に渡りたまひて、姫君見きこえたまひけり。さて帰りたまへば、直衣の袖をひかへまゐらせて、慕ひたまひける御けしき、いとど心苦しくて、とかくこしらへ置きまゐらせて帰りたまひぬ。

〔住吉物語〕による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。

〔注〕 *中納言……………国政を審議する太政官の次官。従三位相当。

*左衛門の督……………左衛門府の長官。「衛門府」は大内裏を警護する武官の役所で、左右の二府がある。

*諸大夫……………四位・五位の官人。

*異君達……………ここでは「諸大夫の御娘」が生んだ姫君を指す。

*後の世ども……………死者を供養する仏事。四十九日まで連続して七日ごとに営まれる。

問一 傍線部A「かしづきたまひけり」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 大切にお育てなされた
- ② 主人のように遇された
- ③ 後見役をお務めになった
- ④ 身命を賭してお仕えなされた
- ⑤ 付き添ってお世話をなされた

16

問二 傍線部Bは、「この幼い子に、普通の子のような扱いをなさるな」という意味である。空欄に入ることばとして最も適当

なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① たまはじ
- ② たまはず
- ③ たまひそ
- ④ たまひね
- ⑤ たまへかし

17

問三 傍線部C「私も同じ親なれば、劣りてやは」という返事で中納言が伝えたかったことは何か。最も適当なものを、次の

- ① ⑤のうちから一つ選べ。
- ① 私も世間の親と同じくらい、子を思う気持ちは持つているということ。
② 私も世間の親と同じように、子を思う気持ちは誰にも負けないということ。
③ 私も同じく親なのだから、子を思う気持ちはあなたと同じであるということ。
④ 私も同じく親なのだけど、子を思う気持ちはあなたよりも勝っているということ。
⑤ 私はどの子にとっても同じ親なのだから、子を思う気持ちに優劣はつけられないということ。

18

問四 傍線部D「昔語りになり果てにけり」の説明として最も適当なものを、次の① ⑤のうちから一つ選べ。

- ① 亡くなってしまった。
② すっかり忘れられてしまった。
③ 最後は思い出話になってしまった。
④ 古い物語のようになってしまった。
⑤ 昔話として語り継がれるようになってしまった。

19

問五 傍線部E「二葉の小萩の露重げなれば」とはどういうことを指しているか。その説明として最も適当なものを、次の

- ① ～ ⑤のうちから一つ選べ。
- ① 残された父と子が悲嘆に暮れているということ。
② 二葉から育った萩が花をつけ始めたということ。
③ 萩の小さな葉が露を含みたわんでいるということ。
④ 秋になり萩の花に置く露が多くなったということ。
⑤ 幼い姫君がいつも涙がちで過ごしているということ。

20

問六 傍線部F「見きこえたまひけり」の文法的説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① 動詞「見る」＋動詞「きく」＋尊敬の補助動詞「たまふ」＋詠嘆の助動詞「けり」
② 動詞「見る」＋動詞「きこゆ」＋謙讓の補助動詞「たまふ」＋過去の助動詞「けり」
③ 動詞「見る」＋謙讓の補助動詞「きこゆ」＋尊敬の補助動詞「たまふ」＋過去の助動詞「けり」
④ 動詞「見ゆ」＋尊敬の補助動詞「きく」＋謙讓の補助動詞「たまふ」＋詠嘆の助動詞「けり」
⑤ 動詞「見ゆ」＋謙讓の補助動詞「きく」＋尊敬の補助動詞「たまふ」＋過去の助動詞「けり」
⑥ 動詞「見ゆ」＋尊敬の補助動詞「きこゆ」＋謙讓の補助動詞「たまふ」＋詠嘆の助動詞「けり」

21

問七 傍線部G「直衣の袖をひかへまゐらせて」、傍線部H「いどど心苦しくて」の主語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① G 宮姫 H 宮姫
- ② G 宮姫 H 中納言
- ③ G 宮姫 H 御乳母
- ④ G 中納言 H 宮姫
- ⑤ G 中納言 H 中納言
- ⑥ G 中納言 H 御乳母

23

問八 傍線部I「こしらへ置きまゐらせて」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① なだめすかし申しあげて
- ② お付きの者に指示をなさって
- ③ 美しく着飾らせてお参りをさせて
- ④ 大人しくするようお願いさせなさって
- ⑤ 不自由のないよう用意をしてさしあげて

22

問九 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

24

① 中納言には二人の妻がいた。一人は諸大夫の御娘と申し上げる方で、もう一人は古き帝の御娘で宮姫と申し上げる方であった。

② 中納言には三人の子がいた。諸大夫の御娘との間には二人の姫君が生まれ、古き帝の御娘との間には一人の姫君が生まれた。

③ 中納言は二人の妻のもとに人目を忍んで通っていた。しかし宮姫を生んだ妻が亡くなってしまったので、最初の妻と復縁した。

④ 中納言は古き帝の御娘から諸大夫の御娘よりも自分の娘を大切にしてほしいと頼み置かれたが、最初の妻の元に戻ってしまった。

⑤ 中納言は母を失って悲しみに暮れている姫君が気がかりで頻繁に姫君の元を訪れているうちに、最初の妻の元に戻らなくなった。

問十 『住吉物語』は平安時代に成立したとされる作品で、いわゆる「継子いじめ」の物語である。同じ時代に成立した同型の

25

ストーリーをもつ作品名として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 伊勢物語 ② 竹取物語 ③ 平家物語 ④ 落窪物語 ⑤ 大和物語

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「 $2a - a = 2$ 」と解答すると、間違いにされます。式を見直してみても、どう考えても、間違いとは思えないのです。「 $2a$ 」から「 a 」を引けば、残りは「 2 」でしょうが、このあたりから人生の挫折が始まります。「 $2a$ 」とは「 a 」が二つあることだ、と教わります。「 $2 \times a$ 」を「 $2a$ 」と書く。そういう約束事なんだよ、と。

世の中のことは、ほぼそういうものなのです。約束事を決めるときに、自分は参加してなかった。それなのに、もう決まってしまうてゐるらしい。世の中には他にもたくさんさんの約束事があって、それを知らないで困ったことになりました。そういうわけで、学校の勉強とは、わからなくてもいいけど、とにかく、「 $2a - a = a$ 」だと「わかりなさい」というものなのです。ところで「 a 」とは何か。先生に訊くと、何でもいいのだと教わる。リンゴでもミカンでも大根でもいい。

当たり前のことを訊かれると「そんなことはわかっている」と返事をします。これは「知っている」と言ってもいいですね。「わかっている」と「知っている」の違いは何でしょうか。「 $2a - a = a$ 」だと知っているだけでは「 $4a - a = 4$ 」になってしまうかもしれません。「 $4a$ 」は「 a 」が四つあることだと「わかって」いれば、そこから「 a 」を一つ引くと、答えは「 $3a$ 」になります。つまり「わかっている」と、他の問題にも正解が出せます。何か一例を「知っている」だけでは「わかっている」ことになりません。「知る」というのは **I** なことを一つ記憶するということですね。

「あいつなら知っている」というのは、「あいつのことならわかっている」とはずいぶん違います。「知っている」とは近所で出会ったことがあるとか、テレビの画面で見たことがあるとか、 **II** な一つのことを指します。「わかっている」はそれとは違います。これまで目や耳から何度も入ってきていて、あいつがどういう状況でどうするか、かなり予測がつくということですね。その予測するのが脳という器官です。これをいまではシミュレーションと言います。

ヒトは脳が大きくなって、動物とは違う能力をもつようになりました。意識というはたらきです。意識はたぶん動物でももつ

ていますが、ヒトの意識は「同じ」と「違う」を理解できません。意識は脳の中で発生する能力とされるので、その脳に入ってくる「入力」は知覚あるいは感覚と呼ばれます。感覚は世界の違いを捉えますが、ヒトの意識はそこから「同じ」を創り出します。「同じ」という能力は交換を生み、お金を生み、相手の立場を考えるとという能力を生み出します。

人間は「同じ」も「違い」もわかる。でも、猿はたぶん「違い」しかわかりません。その違いはいつ頃生まれるのか。

アメリカの科学者が、自身の子どもが生まれたとき、同じ頃に生まれたチンパンジーの子を見つけてきて一緒に育てました。ほぼ同時期に生まれたその子どもとチンパンジーの発育を比較したところ、生後三年までは、なんとチンパンジーの能力のほうが上でした。特に運動能力は優^{ホク}っています。ところが四歳から五歳になると、人の発育が急に進みます。チンパンジーは身体は発育するのですが、知能はそれ以上発達しないのです。おそらく三歳から五歳の間に、人とチンパンジーを分ける何かが起こるのでしょう。

それを確かめた実験もあります。

参加するのは三歳児と五歳児。舞台上に箱Aと箱Bを用意します。そこにお姉さんが登場します。箱Aに人形を入れ、箱にふたをして舞台から去ります。次に、お母さんが現れます。箱Aに入っている人形を取り出し、箱Bに移します。そして、箱Bにふたをして立ち去ります。再びお姉さんが舞台上に現れます。そこで、舞台を見ていた三歳児と五歳児に、研究者が質問します。「お姉さんが開けるのは、どちらの箱?」

三歳児は「箱 III」と答えます。自分は III ため、お姉さんも箱 V を開けると考えてしまいます。一方、五歳児は「箱 VI」と答えます。なぜならお姉さんは、 VII からです。もちろんこちらが正解です。

三歳児と五歳児は、なぜ違った答えをしたのでしょうか。五歳児は「自分がお姉さんの立場だったら」と考えました。お姉さんと自分を交換して考えられるのです。三歳児には「お姉さんの立場に立つ」ということができません。「人形は箱Bに入っている」ということを自分が知っているように、お姉さんも知っていると思ってしまうのです。この他者の心を理解するというはたらきを「心の理論」と呼びます。発達心理学では「心を読む」と表現しますが、私は「交換する」と考えます。必ずしも心を読

む必要はなく、「相手の立場だったら」と自分が考えればいいのです。この、自分と相手を交換するというはたらきも人間だけのものです。

心の理論が示すように、人間の脳は、できるだけ多くの人に共通の了解事項を広げていくように発展してきました。人間の脳は、個人間の差異を無視して、同じにしよう、同じにしようとする性質をもっています。だから、言語から抽出された論理は、圧倒的な説得性をもちます。論理に反することを、脳はなかなか受け付けられないのです。

私たちは生まれたときから、言葉に囲まれて育ちます。生まれたときには、すでに言葉がある。だから言葉^Dを覚えていくということは、周りにある言葉に脳を適応させていくことにほかなりません。言葉は自分の外側にあるものです。私が死んでも言葉がなくなるわけではありません。脳が演算装置だとすると、言葉は外部メモリ、つまり記憶装置です。そこには文字によって膨大な記憶が蓄えられています。言葉だけではありません。言葉よりも少し広い概念が「記号」です。絵画や映像、音楽は言葉ではありませんが、人に何かを伝える記号です。記号の特徴は、不変性をもっていることです。だから違うものを「同じ」にできる。「黄色」という言葉は私が死のうが残り続けます。

でも、現実が変わり続けています。こんなことは昔の人はよく知っていました。「諸行無常」^Eも「万物は流転する」も、変わり続ける現実を言い表した言葉です。

しかしいまや、記号が **VIII** を利かせる世界になりました。記号が支配する社会のことを「情報社会」と言います。記号や情報は動きや変化を止めるのが得意中の得意です。現実は一変万化して、私たち自身も同じ状態を二度と繰り返さない存在なのに、情報が優先する社会では、不変である記号のほうがリアリティをもち、絶えず変化していく私たちのほうがリアリティを失っていくという現象が起こります。

情報社会と言うと、絶えず情報が新しくなっていく、変化の激しい社会をイメージする人が多いかもしれませんが。しかし、私の捉え方はまったく逆です。情報は動かないけれど、人間は変化する。これを理解するために、私がよくもち出すのがビデオ映画の例です。

たとえば同じビデオ映画を、二日間で十回見ることを強制されたとしましょう。そうするとどんなことが起こるでしょうか。一回目では画面はどんどん変わって、音楽もドラマティックに流れていく。映像は動いていると思うでしょう。二回目、三回目あたりは、一度目で見逃した、新しい発見がいろいろあるかもしれません。そして「もっと、こういうふうにしたら」と、見方も玄人っぽくなってきます。しかし四回目、五回目になると、だんだん退屈になるシーンが増えてくる。六、七回目ではもう見続けるのが耐えがたい。「なぜ同じものを何度も見なきゃいけないんだ」と、怒る人も出てくるでしょう。ここに至ってわかるはずです。映画はまったく変わらない。一回目から七回目まで、ずっと同じです。では、何が変わったのか。見ている本人です。人間は一回目、二回目から七回目まで、同じ状態で見ることはできません。

ここまで書けば、もうおわかりでしょう。情報と現実の人間との根本的な違いは、情報はいつさい変わらないけれど、人間はどんどん変わっていくということです。しかし、人間がそうやって毎日、毎日変わっていくことに対して、現代人はあまり実感がもてません。今日は昨日の続きで、明日は今日の続きだと思っている。そういう感覚がどんどん強くなってくるのが、いわゆる情報社会なのです。

どうしてか。現代社会は、「e = mc²」という「同じ」が世界を埋め尽くしている社会だからです。記号や情報は作った瞬間に止まってしまうのです。テレビだろうが動画だろうが、映された時点で変わらないものになる。それを見ている人間は、本当は変わり続けています。でも、「自分が変わっていくという実感」をなかなかもつことができない。それは、私たちを取り囲む事物が、情報や記号で埋め尽くされているからです。困ったことに、情報や記号は一見動いているように見えて、実際は動いていない。だから余計に、人間は自分の変化を感じ取りにくくなるのです。

(養老孟司『ものがわかれるということ』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

[注] *万物は流転する……古代ギリシアの哲学者ヘラクレイトスの言葉。万物流転。

問一 傍線部A「わからなくてもいいけど、とにかく、「2a-a=a」だと「わかりなさい」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

- ① その約束事の由来を問わずに、有用性だけ使いこなせるようにすること。
- ② その約束事の出自を問わずに、既存のルールを鵜呑みにすること。
- ③ その約束事の根拠を問わずに、結果のみを淡々と素直に受け入れること。
- ④ その約束事の歴史を問わずに、前例を踏襲することに注力すること。
- ⑤ その約束事の欠点を問わずに、長所を可能なかぎり伸張させること。

問二 傍線部B「何でもいい」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① いっさいのこだわりを捨てる。
- ② 個別性は考慮に入れなくてよい。
- ③ いかなるものをも排除しない。
- ④ すべて数値化して比較対照する。
- ⑤ 共通点を見いだすよう努める。

問三 空欄 I ・ II に共通して入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① 抽象的
- ② 実際の
- ③ 例外的
- ④ 具体的
- ⑤ 象徴的

問四 傍線部C「「違い」しか分かりません」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の

① ～ ⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 意識のはたらきが弱いため、感覚的にもものとの差異を把握することしかできない。
- ② 経済活動をおこなわないため、他人の立場からものの価値を推測することが苦手だ。
- ③ 違うもの相互のうちに共通点を見いだして等価のものと見なすことができない。
- ④ その都度の経験の一回性が重要視され、それを計量化可能なものに置き換えられない。
- ⑤ 個々の特徴を峻別する能力が高いのに引き換え、分類については全く無頓着である。

問五 空欄

の①、④のうちから一つ選べ。

- III
- ・
- IV
- ・
- V
- ・
- VI
- ・
- VII

に入れることばの組合せとして最も適当なものを、次

30

①

	VII	VI	V	IV	III
		B	A		A
	お母さんが人形を移したのを見ていない				
	お母さんが人形を移したのを知っている				

②

	VII	VI	V	IV	III
		A	B		B
	お母さんが人形を移したのを見ていない				
	お母さんが人形を移したのを知っている				

③

	VII	VI	V	IV	III
		B	A		A
	お母さんが人形を移したのを見ていない				
	お母さんが人形を移したのを知っている				

④

	VII	VI	V	IV	III
		A	B		B
	お母さんが人形を移したのを見ていない				
	お母さんが人形を移したのを知っている				

問六 傍線部D「言葉を覚えていくということ」とあるが、それによって何ができるようになるというのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 言葉という記号を駆使することで自分の思いをかたちにできるようにする。
- ② 自分自身の言葉を失う代わりに適応力や共感力を養うことができるようになる。
- ③ 膨大な外部メモリを共有するかのごとく他者と交際できるようにする。
- ④ 共有の記憶装置としての言葉を介して他者と効率よく疎通できるようにする。
- ⑤ 自分が発した言葉を死後にまで不変のままに残すことができるようになる。

31

問七 傍線部E「諸行無常」とあるが、その冒頭部分が「ぎおんしよつじや祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり」で始まる作品名として適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 竹取物語
- ② 枕草子
- ③ 徒然草
- ④ 平家物語
- ⑤ 奥の細道

32

問八 空欄 VIII に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 顔
- ② 機転
- ③ 幅
- ④ 目先
- ⑤ 口

33

問九 傍線部F「いわゆる情報社会なのです」とあるが、「情報社会」についての筆者の見解の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 絶えず情報が新しくなっているように思われているが、実際に変化しているのは人間の方である。
- ② 情報は不変のものだと思われているが、見る人によって情報は異なった様相を見せている。
- ③ 情報が千変万化を続ける動きの激しい社会と思われがちだが、変化はさほど激しくない。
- ④ 現代社会の特徴として捉えられることが多いが、実は古人たちもこのことは十分に理解していた。
- ⑤ 絶え間ない変化を繰り返す社会ではあるが、その動きは情報によって止められてしまっている。

34

問十 傍線部G「 $a=b$ 」という「同じ」が世界を埋め尽くしている社会とはどんな社会か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 記号の氾濫があらゆるものを同質化してゆくのに抵抗できず、人間も記号の一つとしてしか機能しなくなってしまう社会。
- ② 差異を記号に置き換える情報がすみずみまで行き渡ること、ものともとの間の違いや個性が見えにくくなっている社会。
- ③ 新しい情報が絶えず更新されていくのに対応するのに精一杯で、人間が自身の成長に気づくことすらできなくなっている社会。
- ④ 変化を固定してしまう情報が記号として蔓延まんえんすることによって、人間が生きることの実感を喪失してしまっている社会。
- ⑤ 同一性を指向する記号によってさまざまな差異が覆い尽くされることで、日々変化する人間という本質が忘却されがちな社会。

35

問十一 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 「わかつている」とは、シミュレーションをくり返すことで獲得できる知のことである。
- ② 三歳から五歳の間、人と猿との知能に逆転現象が起こることを「心の理論」という。
- ③ 絵画や映像、音楽は、不変性をもつ伝達手段である点で、言葉と同様に記号であると言える。
- ④ ビデオ映画を何度も見続けるうちに、映像が止まって見えることがしばしばある。
- ⑤ 情報や記号はめまぐるしく動いているように見えるが、人間のほうが変化のスピードは大きい。

2026年度 一般入試 前期
(2月 1日)

問題訂正

国
語

12ページ 第二問 問題文の後ろから五行目

(誤) …… 他所の ……
E |

(正) …… 他所の ……
よそ |